

文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」の  
中間評価の実施に係る  
外部有識者からの評価結果等報告書

令和2年7月

奈良先端科学技術大学院大学

## 目次

1. はじめに .....	1
外部有識者名簿 .....	2
2. 外部有識者コメント .....	3
I. 事業全体の進捗状況 .....	3
I-1. 「ロジックモデルの初期アウトカム」に係る達成状況について .....	3
(1) 「組織改革と教育改革」 .....	3
(2) 「グローバル化」 .....	5
(3) 「ガバナンス改革」 .....	7
I-2. 「自走化計画の進捗状況」の達成状況について .....	8
II. 成果指標データからの目標の達成状況について .....	8
III. その他のコメント .....	9
3. 指摘事項を受けて .....	10

### 【別添資料】

- 奈良先端科学技術大学院大学スーパーグローバル大学創成支援事業自己点検・評価報告書（和文）
- 同（英文）

## 1. はじめに

本学では、平成26年度に文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択され、本事業の構想調書の年度別実施計画で、平成31年度（令和元年度）に自己点検・評価を実施することとしておりました。これを受けて、本学スーパーグローバル大学創成支援事業推進責任者の指示のもと、教育連携部会で自己点検・評価を令和2年2月に実施しました。

令和2年4月22日付け「スーパーグローバル大学創成支援事業の中間評価の実施について（通知）」（2文科高第129号）を受けて、書面評価の参考資料として、外部有識者からの評価結果等報告書を作成するにあたり、学長が依頼した外部有識者4名（P2「外部有識者名簿」参照）に、平成26年度から令和元年12月までの本学スーパーグローバル大学創成支援事業の取組及びその成果を記録した自己点検・評価報告書を送付し、インタビューによるコメント聴取を実施しました。

特に、本学のスーパーグローバル大学創成支援事業ロジックモデルの初期アウトカム項目毎に本学の実施状況について評価できる点と課題についてコメントを頂き、本事業の事業推進責任者（理事・副学長）の見解としてまとめるとともに、本事業の着実な実施に向けて、コメント結果の分析および課題の洗い出しを行い、本事業の中間評価調書における「得られたアウトカム」及び「今後の展望」の記述に反映させました。

本報告書は、以上の中間評価プロセスの記録として作成するものです。本学では、今回の外部有識者によるコメント結果および指摘事項を真摯に受け止め、本事業の適切かつ効果的な実施に一丸となって取り組んで参ります。

## 外部有識者名簿

氏名	現職
ありのぶ むつひろ <b>有信 睦弘</b>	東京大学 執行役・副学長 東京大学未来ビジョン研究センター特任教授
なか たに けいたろう <b>中谷 圭太郎</b>	Vice President for Research École normale supérieure Paris-Saclay
もりた てらお みよ <b>森田 (寺尾) 美代</b>	大学共同利用機関法人自然科学研究機構 基礎生物学研究所教授
ケ ネ ス パーティス <b>Kenneth BURTIS</b>	Faculty Advisor to the Chancellor and Provost University of California, Davis

※50 音別、敬称略

## 2. 外部有識者コメント

(下線部：指摘事項)

### I. 事業全体の進捗状況

#### I-1. 「ロジックモデルの初期アウトカム」に係る達成状況について

##### (1) 「組織改革と教育改革」

###### ① 「融合領域教育の強化」

●融合領域教育強化のために1研究科体制に移行し7つの教育プログラムを設置したことは、計画通りに進んでいる。非常によく検討されたこれらのプログラムが開始して3年目で、融合領域教育のアウトプットとして、例えば学生の就職先の変化等、具体的な成果がどのように表れているのか注視したい。

●博士前期課程については、融合領域教育は広い知見を得るという点で意味がある。博士後期課程については融合領域の研究になっているかが、学術論文や学会発表（例えばバイオ専攻の学生が情報系の学会で発表するなど）等の形で見えてくるとアウトプットとして良い。どのようなアウトプットを出口として外に示すかの方策を考えることが重要である。

●融合領域プログラムを選択する学生数が増えており、融合領域教育は良好に進展している。7つの教育プログラムの概念も優れており、前回のインタビュー時の1研究科1専攻に統合するという段階から、現在までに徐々に整理され進展している。

●一般的にアクティブラーニングについてはそれぞれの考えもあるため、共通化して効果的なアクティブラーニングのモデルを作っていくにはまだまだこれから時間がかかる。教員のアクティブラーニングに対する理解を深めるためにはFDが有効となる。特に、「海外FD研修」の研修内容にアクティブラーニングを取り込めば、より効果的になるのではないか。

●他の大学と違い大学院大学というオリジナリティがあり、小規模大学であるため、新しいことを実施するにあたって機動力がある。融合領域プログラム選択学生数を見ると1研究科体制にしたことは成功である。融合領域教育を進めるにあたってマンパワーは相当必要なので、今後も引き続き投入していただきたい。

●While the transition to a single graduate school is dramatic and quite ambitious, it is very impressive that it has been done ahead of schedule. There is still progress to be made after the initial phase in developing faculty enthusiasm and curriculum, but the transition overall is very forward-looking.

●The design of the education programs has created very relevant and very current disciplines that leverage the strengths that NAIST already had in the 3 fields of its original graduate schools, such as computational biology, bionanotechnology and intelligent cyber physical systems.

###### ② 「国際通用性のある大学院教育」

●シラバスの英語化やGPA、ナンバリングはかなり進んでおり、高く評価できる。

●教職員の英語教育は充実しているが、日本人学生が気軽に留学できるような取組の強化が望まれる。ダブルディグリーにおいても全体的には派遣・受入れのバランスはとれているが、日本人学生派遣の更なる強化も望まれる。

●One considerable challenge for NAIST has always been English language skills. For many

years, working with students of NAIST both when they visited Davis and in symposia in Japan, I suggest that language skills are necessary for NAIST to manage its international curriculum, especially with an extensive international student population.

● It is particularly impressive that numerous international students were not only enjoying the English curriculum but were also taking Japanese courses in order to get jobs in Japan.

● The quality of the curriculum, no matter what language it is taught in, is most important. Looking at the high job placement of your students, it seems the quality of NAIST's curriculum has not suffered from the transition to instruction mainly in English.

### ③「留学生の多様なキャリア形成」

● 以前は日本で学んで日本語も上達した留学生が帰国するケースが多く、大学が留学生のキャリア形成をサポートしていなかった。現在は、教育推進機構のキャリア支援担当 UEA が中心になって留学生の就職支援に取り組んでいる。留学生の日本定着のための日本語教育に力をいれていることも良い取組である。帰国留学生の同窓会の形成により深い関係性が構築され、国際化を良好に進めている。日本に行けば道が開けるといふポジティブフィードバックを作っていけば、留学生と大学双方にとってメリットがある。

● キャリアパスについては、特に、博士後期課程留学生の就職率が UEA の多様な支援により 1.8 倍になっていることから、新しい UEA 制度の効果が出ている。

● The progress made on the employment percentages is very impressive. Particularly, it has not always been the case that research quality universities like UC Davis or NAIST have paid much attention to career placement. Recently the importance of career placement is being stressed at research universities as well. NAIST is in a leading position in respect to career placement.

● UC Davis has about 10% international students, but career placement for international students is much more difficult than American students. The efforts NAIST made early in internationalization programming are paying off in providing opportunities for outreach and developing connections in home countries in order to assist students in job-hunting.

### ④「ダブルディグリープログラムの強化」

● ダブルディグリープログラム（以下、DD プログラム）数を増やすと同時に有名無実化しているプログラムを終結させていることから、DD プログラムが良好にマネジメントされている。日本人学生の派遣がそれほど多くない。学位プログラムは研究ベースであり、研究者のつながりがあってこそ成立するものであるため、何件を目指して実施するというのが本質ではない。

● 学部と大学院で事情は違うが、DD プログラムを実施している大学から、DD プログラムのほうがジョイントディグリープログラムよりも大変との意見がある。大学あるいは国ごとに異なる学位審査基準などをいかに調整するかに関して、NAIST が最良のモデルとなることを期待する。

● DD プログラムは教員同士の話し合いの部分と、大学の教育制度上の部分の両方で成り立っている。教員同士の関係は良好であっても、学位授与となると大学の制度上の問題になるので、面倒な話がでてこないとも限らない。各国の学位審査基準が絡んでくるなど難しい点もあるが、引き続き推進していただきたい。

● École normale supérieure Paris-Saclay においても、共同研究等から発展した博士後期課程の DD プログラムが多いが、NAIST でも同じように見受けられる。授業科目や単位互換など

が課題であるが、博士前期課程の DD プログラムについても強化が必要となる。博士前期・後期課程 5 年一貫制のダブルディグリープログラムを構築することも考えられるのではないか。

●How was the students' satisfaction in the double degree program? Are they satisfied with the experience and did they find the double degree valuable? The double degree is good to continue spreading the reputation of NAIST to other institutions.

## (2) 「グローバル化」

### ① 「海外での知名度向上」

●前回の SGU 中間評価時よりも、知名度向上に向けた積極的な取組が行われており、評価できる。

●インドネシア及びタイの海外オフィスは順調に立ち上がり、現在の活用方法で知名度を上げていくのであれば、前回の懸念（当初、教員の個人的ネットワークから始まった海外拠点が教員の退職後、形骸化する、あるいは消滅することや、文科省の支援事業の一環として海外拠点を設置しながら事業終了後、部局が自己資金で運営負担するケースが見られる）はない。国や大学の制度と直接抵触しないところでできるだけ活発に活動を行うことが、最初の段階としては一番の方法である。

●NAIST は様々な研究成果等により国内外の評価は高いと言える。海外教育連携拠点を設置するなどの努力にもかかわらず、知名度をあげるためのツールとして一般的な THE (Times Higher Education) や QS、ARWU (Shanghai Ranking)、CWTS (Leiden Ranking) 等で小規模大学が上位に立つのはなかなか難しい。École normale supérieure Paris-Saclay も THE による学生 5,000 名未満の大学を対象としたランキング (The World Best Small Universities) にランクインしたことがあった。NAIST の研究分野での知名度は高いので、研究者間を通じて知名度の向上を図っていくことが大切である。

●“Improvement of Overseas Brand Recognition” is a very difficult category to assess and it takes long and dedicated efforts to develop some brand recognition. An example of this is the high brand recognition of NAIST at UC Davis. From the description, very significant efforts are being taken on a large number of fronts to develop familiarity and reputation for NAIST, and the status is very good in terms of NAIST's efforts.

●International university rankings can be used to increase NAIST's brand recognition as it moves up the rankings, but this is a limited method of gauging brand recognition. University ranking systems depend often on reputational numbers. NAIST has always performed very well in terms of its research output, the quality of its research, its publication record, etc., and these are just as important to gain recognition.

●The effectiveness of the activities listed in this category may be gauged by looking at different areas such as their possible impact on recruitment numbers, an increase in students expressing interest in attending NAIST, collaboration proposals from other institutions, jointly published papers or other numerically quantifiable factors. A combination of these results may be used to estimate the overall success in the category of improvement of overseas recognition. Without these, evaluation is done concerning the activities and not the results.

### ② 「グローバルキャンパスの実現」

●以前は研究室の留学生は生活に慣れるまで自国の友人に頼りきりであったので、現在の講習を受けたボランティアの留学生をアンバサダーに任命して新規入学者や問題を抱えている留

学生をサポートするアンバサダー制度は優れた取組である。前回なかった留学生・外国人研究者支援センター（CISS）の立派なホームページが作成されていて、安心して留学生活を送ることができる。

●留学生のサポート体制や英語で履修・研究できる環境を整える取組は優れている。留学生が増加しているなか、日本人学生がこの環境をポジティブに受け止めているか、マルチナショナルな環境を日本人学生が活用できているか、またメンタル面でどうなのかが課題になる。留学生のいる環境を生かして日本人学生の国際化をはかることができるが、留学となるとハードルが高くなる。日本人学生の国際化を後押しする取組はあるのか。

●留学生、研究者の受け入れ支援が充実していることから、海外の学生等にNAISTへの入学を勧めやすい。

●Numerically, 107 is a very large number of partner institutions and progress in this respect, in achieving a global campus, is good. Considering the quality of the university relationships, this number represents relationships that consist of actual exchange, both in education and research, which adds to the internationalization and globalization of the campus.

●The number and the rate of growth of international students, particularly for master's students, has been quite high and the rate of growth for PhD students has been stable. These numbers represent much hard work by NAIST in recruitment and this effort will continue to pay off.

●The next factor to consider after achieving stability in the population ratio is student quality evaluation. Are the students remaining about the same level of strength or are they gradually improving, as NAIST's reputation becomes more well-known in the international students' home countries?

●Getting the 2nd and 3rd generation students has started. When students graduate NAIST and then become faculty members back in their home country, they begin to send their students to NAIST, which is a good long-term strategy for sustainability. Students placed in good academic positions become NAIST's best recruiting agents.

### ③「教員の多様性の促進」

●教員の多様性については、外国人だけでなく女性教員も含まれる。助教の任期については、女性に関しては考え直す必要がある。産休・育休期間を任期期間に考慮しないだけでなく、もっと思い切った方策が望まれる。助教からパーマネント准教授職への移行も含めてNAISTモデルの構築が望まれる。

●外国籍教員、海外での学位取得や教育経験があるなど海外経験豊かな教員が増えたことは優れている。ダイバーシティという意味では、女性教員数は課題になるが、どの大学でも女性教員雇用率の状況が厳しいため、引き抜きが行われている。

●けいはんな地区に様々な機関が集積し、拡大傾向にあるなか、けいはんな地区所在の機関とのクロスアポイントメント制度の活用もありえる。特に、海外からの研究者は、都会で生活することにそれほどこだわらないので、多様な教員の獲得において大学の特徴が出せる。

●The area in which NAIST has had the most success is Japanese faculty who have international experience. This area advanced from 32% to 57%, which is very good, and is an area where continued improvement is expected. As relationships with other international universities develop, there will be more opportunities for young faculty to gain international experience.

● In interviews at NAIST of the female faculty 10-15 years ago they were all hopeful about the future. The issue of female faculty in your promoting faculty diversity is not mentioned in the report. What is the percentage of female faculty members that were hired over the past few years?

#### ④「事務職員の高度化」

● 海外 SD 研修を確実に実施している点は大学運営をサポートする事務系職員の能力アップに力を入れていることを意味しており、優れた取り組みである。多様な所属のスタッフを派遣していることも注目される。20 代後半から 30 代前半の各セクションの係員クラスを対象に、将来を見越して SD 研修を実施していることは戦略的である。職員の英語基準を TOEIC スコアで測る一方で、TOEIC で求められる英語と実際の業務における英語は大きく異なるため、研修内容が TOEIC 試験対策一辺倒ではない。職員からのフィードバックを受けて研修内容を修正している点は、組織作りとして評価できる。

● 事務職員の高度化に向けてを非常に熱心に取り組まれていて、数字上でも特に問題は見られないが、事務職員に負荷がかかりすぎていないか懸念される。教員側と事務職員側とのコミュニケーションが活発に行われていれば特に問題はない。

● 海外 SD 研修制度や TOEIC の受講など事務職員の高度化への取組は充実しているが、研究室の事務作業を行う職員も対象になっているのか。留学生や外国人研究者の対応など研究室でも英語対応が必要となる。

● The staff development program is very impressive, not only in its implementation but also the comprehensiveness and level of the program itself. To really maintain a welcoming environment for the international students, having staff with international experience is an idea that may not occur to many universities. The international staff development program shows consideration, not only for students, but also consideration for staff because they become part of the NAIST's mission to globalize.

### (3)「ガバナンス改革」

#### ①「国際化に対応した教育研究マネジメントの強化」

● UEA/URA といった専門的に大学マネジメントを担っていく人材のキャリアパスについて、人事評価を経て任期の定めのない雇用への転換を可能とする新たな人事制度を定めたことで、彼らの継続的に大学に貢献していく能力を絶えず向上させていきたい。このような第 3 の職種が良好に機能していることはモデルケースとして目ざましいものになる。

● 学長の強い権限による独走を抑えるために様々な組織体制・決定規定が確立しているが、NAIST では学長をトップとする戦略企画本部が独走するのではないかと懸念が前回あった。教育推進機構及び研究推進機構の設立により組織体制が確立し、決定手続きの規定も制定され、戦略企画本部の独走は不可能となり、当初の懸念は払拭された。

● 両機構や IR オフィスを実際に推進させるのは事務職員及び URA、UEA なので、指揮命令系統、誰が誰の指示を仰げばよいのかが明確になっていることが重要である。事務組織の中では権限の委譲や責任体制ができており、指揮命令系統が巧みに構築できている。一方で、機構長等の場合は教員が兼務しているため、指揮命令系統が混乱することが多い。

● Concerning the satisfaction of the faculty in response to the new organization, differences in enthusiasm can be expected. However, looking at the faculty member list, it seems NAIST

hasn't lost much faculty, meaning they have not been so unhappy or they have adapted to the new circumstances.

## I-2. 「自走化計画の進捗状況」の達成状況について

●競争的資金を含む研究費を継続的に獲得しているが、新しい取組を始める場合には資金が必要であり、その際には寄附金や自己資金が必要になる。新たな方策である「ネーミングライツ事業」や「クラウドファンディング事業」、「学術指導制度」など、いろいろな工夫がなされている。「自走化計画」では自己資金を集めることが大事なポイントであるが、大学にとっては難しい。NAISTの強みを生かし、「学術指導制度」等、ノウハウを提供して対価を得るという取組を進めていただきたい。

●自走化するための資金は全く手当をされず、自分で工夫しなさいということなので、基本的には、外部資金を増やす、寄付金を増やす、クラウドファンディングのような新しい手段を用いる等、様々な工夫をした中で資金を捻り出すしかない。NAISTが2020年から共同研究の間接経費を30%としたことは、東大などでも行っていることから当然である。ただし、産業界側は、間接経費の割合を問題にしているのではなく、具体的にどういう根拠で間接経費が必要かを明確にすることを要求している。大学は積極的に何か新しい資金・財源を確保する方策を適切に主張していかなければならない。国立大学の施設整備検討会でも財源の多様化が求められており、イノベーションコモンズのような役割を大学が果たすべきという方向で議論がまとめられつつある。そのイノベーションコモンズにいろんな人たちが参加をする、その中で新しい財源の確保をしていくという構想である。新しい財源確保の方法等について、奇をてらわないう戦略を確実に立案できる人材が大学にいればよい。大学は新しい様々な発想や工夫ができるはずであり、資本獲得の枠組みづくりに経営の専門家が必要ならば、コンサルタントや企業からの相談役・顧問等に相談に乗ってもらっても良いのではないかと。

●ネーミングライツ、クラウドファンディング等の取組や、競争的研究資金の獲得など教員等も努力されている。修了生からの寄付金などの取組はあるか。SGUは10年間のプログラムであるが、SGU後もこの国際化の取組を引き続き行っていただきたい。

●The beginning of both corporate gifting and also individuals or businesses donating money for different endeavors is impressive. This will become a growing operation for NAIST, as it is becoming very important for funding in American universities. It is critical for public universities and enough investment to produce returns. Developing a team of professionals to increase fundraising may be difficult in Japan, where traditionally this position hasn't existed.

## II. 成果指標データからの目標の達成状況について

●ほぼすべての指標において目標達成に向けて順調に進んでいる。学生の英語レベルについては、目標値達成が難しいと思われる日本人の博士前期課程学生を対象に何らかの対策が取られているのか。

●すべての数値が平均を上回る中で、「年俸制の導入（職員）」の数値のみが大幅に下がっているが、URA、UEAといった高度専門職員のキャリアパスを任期付き職員から承継職員に変更したことにより、年俸制から月給制になったことが理由であることを理解できた。

●ナンバリング、GPA、外国語の科目は素晴らしい比率になっており、またシラバスの英語化もすでに実現しているなど、非常に順調に進んでいる。

- 目標達成に向けて順調に数値が伸びている。SGU 採択校の平均値より上位の項目が多いのは評価できる。課題にあげられている日本人学生の海外派遣についても SGU 採択校の平均割合とほぼ同じような推移なので、日本全体の問題である。
- 融合領域プログラムの設置等の新しい取組をすると、データ関係の変動が大きくなる場合があると思われるが、一時的なデータ変動に振り回されずに目標達成に向けて取り組んでいただきたい。

### Ⅲ. その他のコメント

- 様々な改革が実施され国際化が進んでいると評価できるが、そういった取組が実質的に学生の教育に役立っているのかを検証するために、学生や教員からアンケート等を通して聴取した意見を反映させる仕組みが必要である。
- 留学生が増加している中、外国人修士生の追跡はできているのか。修了後、アカデミックポジション以外でも母国でどのように活躍しているのかを追跡して、それをアピールできるようにしてはどうか。
- NAIST は規模・立地からして特徴的な大学であり、世界的にも恵まれた教育研究環境や資源が備わっている。SGU の要求項目に関わらずもっと特徴を出して様々な取組をしていけば良い。SGU によってもたらされた機会を生かし、様々な海外の大学との連携を更に進め、国際的なネットワークの中で存在感のある大学となっていきたい。グローバルの視点では、大学が地方に位置するか都会に位置するかはあまり関係なく、世界的に名前の通った有名大学が途方もなく辺鄙な場所にあたりるので、NAIST には、地方の大学という位置づけではなく、グローバルなレベルで独自の施策を積極的に打ち出していく努力を期待したい。
- Are you taking any measures to develop temporary online education in case NAIST students are unable to arrive on time due to the viral epidemic or what is the impact of the pandemic at NAIST?

### 3. 指摘事項を受けて

事業推進責任者（理事・副学長）  
垣内 喜代三

**指摘事項 1：**

融合領域教育の出口として、どのようなアプトプットを外に示すかの方策を考えることが重要である。

【融合領域教育の強化】

回答：大学で融合研究を推進するプロジェクトの枠組みで経費が出ており、研究については融合領域研究グループを形成し、学生もその中に入って徐々に論文を発表しており、融合研究の成果が出始めている。一方、博士後期課程の融合領域教育についてはこれからであり（融合領域プログラムの博士後期課程学生が修了するのは1年後）、成果がまだ見えない。融合領域教育で幅広い知識を得て、それが融合研究につながり、成果が加速されるという流れができるとよいと考えている。

**指摘事項 2：**

教員のアクティブラーニングに対する理解を深めるためにはFDが有効であり、特に、「海外FD研修」の研修内容にアクティブラーニングを取り込めば、より効果的になるのではないか。

【融合領域教育の強化】

回答：2020年3月に北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）より講師を招き、情報交換を兼ねてアクティブラーニングの講義を実施し、教員への周知をはかっているところである。具体的には、JAISTで英語により行われている「グローバル・リーダーシップ養成特別演習」を基に、グローバル・リーダーシップ養成のためのアクティブラーニングについての講演及び特別演習を実施した。

**指摘事項 3：**

- ・日本人学生が気軽に留学できるような取組の強化が望まれる。ダブルディグリーにおいても日本人学生派遣の更なる強化が望まれる。
- ・ダブルディグリープログラムの日本人学生の派遣がそれほど多くない。

【国際通用性のある大学院教育、ダブルディグリープログラムの強化】

回答：留学生は増えているが、それと併せて、国際通用性のある日本人学生の育成を目指しており、日本人学生の海外留学を増やすことが大きな課題となっている。ダブルディグリープログラムを双方向で実施することが大切だが、今は受入が多く派遣が少なく、バランスがよくないので改善していかなければならない。昨年度設立した日本人学生を対象とする長期派遣支援事業で海外派遣を増やしていきたい。本学の博士後期課程学生100人/学年のうち、ダブルディグリー生を何人派遣するかについて適正な数を検討していないため、今後検討していく必要

がある。

指摘事項 4 :

日本に行けば道が開けるといふポジティブフィードバックを作っていけば、留学生と大学双方にとってメリットがある。

【留学生の多様なキャリア形成】

回答 : SGU の目標だけでなく、中期計画の中でも「留学生の日本での就職」を目標としている。そのために常勤で雇用している留学生キャリア支援担当 UEA と客員教授の二人で、留学生のキャリア支援を行っている。英語のみで修了できる本学では留学生に日本語の壁があり、就職の際に高い日本語能力レベルを求められることが課題であったが、日本語上級クラスを正規科目として開講することで、解決されつつある。本学の留学生数は約 230 人、博士後期課程約 300 人の半分が留学生であるため、目標の達成は確実視できないが、そのプロセスは確立できている。留学生のキャリアパスを成功させることによって、さらに優秀な留学生の確保につながると考えている。

指摘事項 5 :

・ダブルディグリープログラムについては、大学あるいは国ごとに異なる学位審査基準などをいかに調整するかに関して、NAIST が最良のモデルとなることを期待する。

・博士前期・後期課程 5 年一貫制のダブルディグリープログラムを構築することも考えられるのではないか。

【ダブルディグリープログラムの強化】

回答 : SGU の申請当初は本学としてはジョイントディグリーの専攻を設置してプログラムを推進することを考えていたが、ジョイントディグリーは 1 研究科 1 専攻への大学改革の中では成り立ちにくいということで、ダブルディグリープログラムを推進することとした。現在は博士後期課程のダブルディグリーのみで、今後、博士前期課程のダブルディグリーを実施していくとなると、我が国では修士論文に加え 30 単位の取得が課程修了に必要なことも考慮すると、専攻を設置せずに新しいジョイントディグリーができるのであれば、そちらのほうの可能性はある。一方で、専攻を設置するとなると設置審など規則の問題が大きい。2022 年度までに博士前期課程のダブルディグリープログラムの実施を検討している。現在プログラムの設置に向けて調整を進めている相手大学との間では博士後期課程でのダブルディグリープログラムはないが、将来的に博士前期・後期課程 5 年一貫のダブルディグリープログラムも設置したいと考えている。

指摘事項 6 :

How was the students' satisfaction in the double degree program? Are they satisfied with the experience and did they find the double degree valuable?

【ダブルディグリープログラムの強化】

回答 : Two students from NAIST completed the double degree program, receiving two degrees from NAIST in Japan and University of Paul Sabatier in France. Both students received academic achievement awards and were very satisfied in completing the program. One of the

NAIST students received a French achievement award in Paris and he is continuing his studies at a Postdoc there. The faculty members who dispatched the students abroad said this program is very beneficial. The students had excellent experiences even though they dealt with rules and requirements of two institutions and two education systems. They were pleased with the double degree program and thought they had more opportunities due to participation in it.

指摘事項 7 :

- ・ NAIST の研究分野での知名度は高いので、研究者間を通じて知名度の向上を図っていくことが大切である。
- ・ NAIST has always performed very well in terms of its research output, the quality of its research, its publication record, etc., and these are just as important to gain recognition.
- ・ A combination of these results (numerically quantifiable factors) may be used to estimate the overall success in the category of improvement of overseas recognition.

【海外での知名度向上】

回答：本学は学部を持たないため THE (Times Higher Education) や QS といったランキングに出てこないのでのどのように知名度を上げていくかが課題となる。また、研究力の面では学術論文等を多く発表しているものの研究者数が少ないため絶対数に限界がある。学術交流協定校や海外の交流組織と良好な関係を構築しながら知名度の向上を目指している。国際共著論文の増加やダブルディグリープログラムによって知名度が上がりつつあるが、その成果をさらに国内外にアピールしていかなければならない。その場として、ロボットコンテスト、ラスベガスの見本市出展など様々な取組を行っている。優れた研究力を前面に出しながら本学の知名度を高め、かつ 100 以上の協定校にも本学のプレゼンスを示していこうとしている。

指摘事項 8 :

留学生のいる環境を生かして日本人学生の国際化をはかることができるが、留学となるとハードルが高いところ、日本人学生の国際化を後押しする取組はあるのか。

【グローバルキャンパスの実現】

回答：日本人学生の国際化は課題である。各研究室には必ず 1-2 人の留学生が在籍しているので、研究室でのコミュニケーションは共通語である英語を使わざるを得ない。アクティブラーニングの PBL では留学生を含めた少人数で行っているが、実施してみると深いコミュニケーションまで進展していない。留学生の多い情報科学領域では日本人学生がこの環境をうまく使っているが、良好な就職状況も相俟って日本人が博士後期課程に多く進学しない。ダブルディグリープログラムを中心に日本人学生の長期留学支援制度を開始したこともあり、教育連携部門への留学相談が増えてきている。他方で、留学生・外国人研究者支援センター (CISS) 企画による留学生や地域の人を招いての国際交流イベントへの日本人学生の参加はほとんどない。海外語学研修では参加者 30 人のうち日本人は 10 人弱と少ないが、プログラム参加後に海外に再度行きたいという日本人学生も少なからず見受けられる。そのような学生に国際交流イベント等に参加するよう声をかけるなど、留学のハードルが高い中、学内でできることを考えていきたい。コロナウイルス問題が落ち着いたら留学フェアやインターナショナルデイを企画したいと考えている。研究が忙しいことを海外に出ない理由にあげる日本人学生も多く、研究とのバランスを取りながら海外にも出るというマインドを持ってもらうことが課題である。海

外留学経験を持つ若手の優秀な教員が増えて日本人学生のマインドに変化が見られ、留学生と切磋琢磨しながら彼らの国際化が進展すればと願っている。

指摘事項 9 :

The next factor to consider after achieving stability in the population ratio is student quality evaluation. Are the students remaining about the same level of strength or are they gradually improving, as NAIST's reputation becomes more well-known in the international students' home countries?

【グローバルキャンパスの実現】

回答 : The quality of international student is gradually increasing. Because of NAIST's continued collaboration with partner institutions, as with UC Davis, NAIST is able to recruit excellent students from them. Also, many international students go back to their home country after graduating and are employed in very good positions. Through their achievements and performance, NAIST's reputation is rising higher. This has also allowed NAIST to recruit excellent students recently. We usually recruit PhD students from counterpart researchers in our partner institutions. These students are selected and recommended by their institution to study at NAIST and then they are selected by NAIST.

指摘事項 10 :

- ・ 教員の多様性については、外国人だけでなく女性教員も含まれる。
- ・ The issue of female faculty in your promoting faculty diversity is not mentioned in the report. What is the percentage of female faculty members that were hired over the past few years?

【教員の多様性の促進】

回答 : 女性教員の比率は SGU の指標にも含まれているが本学では数値が低い。第 3 期中期目標・計画においても最終年度に女性教員率 15%以上を掲げているが、国立大学の中でも順位が低く達成は難しい。女性限定公募しても集まらないのが現実であり、流出のほうが流入より多い。女性教員採用インセンティブやスタートアップ助成（2年間毎年 200 万円）を設けても予定数を採用できていない状況である。テニュアトラック准教授制度で 2 人採用したが、1 人はテニュア審査の前に他大学に異動した。また助教には任期があり、その後、パーマネントの准教授ポジションが極めて少なく昇任も難しい状況である。

指摘事項 11 :

留学生や外国人研究者の対応など研究室でも英語対応が必要となる。

【事務職員の高度化】

回答 : 研究室の事務などを行う秘書は SD 研修の対象者ではない。大学としては留学生・外国人研究者支援センター (CISS) で留学生に加えて外国人研究者やその家族の事務手続きや生活支援も行っているため、研究室から依頼があれば協力して支援する仕組みはできている。

指摘事項 12 :

両機構や IR オフィスを実際に推進させるのは事務職員及び URA、UEA なので、指揮命令系統、誰が誰の指示を仰げばよいのかが明確になっていることが重要である。

【国際化に対応した教育研究マネジメントの強化】

回答 : 全学的なプロジェクトを開始する場合には、戦略企画本部内で議論してプロジェクトチームを立ち上げ、本部メンバーに教員と事務職員が加わる。プロジェクトチームのトップには役員やオフィス長が就任し、教職協働でそのプロジェクトを推進する。

指摘事項 13 :

修了生からの寄付金などの取組はあるか。

【「自走化計画の進捗状況」の達成状況について】

回答 : インドネシアでは同窓会組織が活発に活動しているものの、修了生からの寄付金の増加には至っていない。修了生の多くが博士前課程のみの在籍ということもあり帰属意識が高くない。創立 30 周年を迎えるにあたって、勤務した教職員の OB・OG ネットワークや同窓会組織を強化し、寄付金の増加につなげたい。

指摘事項 14 :

●英語力の目標値達成が難しいと思われる日本人の博士前期課程学生を対象に何らかの対策が取られているのか。

● Considerable large challenge for NAIST has always been English language skills. Language skills are necessary for NAIST to manage its international curriculum, especially with an extensive international student population.

【成果指標データからの目標の達成状況について : 語学力、国際通用性のある大学院教育】

回答 : 博士前期課程では、入学時の TOEIC スコアが基準を満たさない学生には、英語基礎力底上げのために設置した「プロフェッショナルコミュニケーション I, II」を履修させるとともに、「TOEIC 対策講座」も実施している。さらに、「プロフェッショナルコミュニケーション」の受講者の中から「特別強化学生」を選別し、集中講義によって短期間での英語力の強化を図っている。また英語教員 3 名のうち 2 名をパーマメント准教授として採用し、英語教育の実施体制を強化した。博士後期課程では通常の高度理系人材用の英語科目のほか、アカデミック・イングリッシュを強化するために昨年度は海外協定校であるハワイ・マノワ校に 27 人を派遣した。英語力の点は、前回の中間評価のヒアリングでも指摘されているが、上述の取組により順調に伸びてきている。

指摘事項 15 :

大学改革と国際化の取組が実質的に学生の教育に役立っているのかどうかを検証するために、学生や教員からアンケート等を通して聴取した意見を反映させる仕組みが必要である。

【その他のコメント】

回答 : 2 年に 1 回の修了時アンケートおよび教員アンケート、修了後 3 年以内の修了生に対するアンケート、就職先企業に対する本学修了生の評価アンケートを実施している。加えて、毎

年学長・役員らと日本人学生および留学生の代表の間でそれぞれ意見交換会を実施し、学生からの多様な意見を聴取している。これらの意見を対応する委員会等で検証し、さらなる改善につなげている。

指摘事項 16 :

留学生が修了後、アカデミックポジション以外でも母国でどのように活躍しているのかを追跡して、それをアピールできるようにしてはどうか。

【その他のコメント】

回答 : ポスドクの追跡はできているが、それ以外の母国に帰った修了生の追跡は今後の課題である。日本で就職した留学生についてはある程度は追跡できており、キャリア支援部門が日本で就職した留学生 OB を招いて現役留学生と交流の機会を設けている。インドネシアに帰国した留学生はインドネシア同窓会が把握しているが、その他の国出身の帰国留学生の把握については、本学の同窓会組織の活性化とともに、創立 30 周年に向けての喫緊の課題である。

指摘事項 17 :

Are you taking any measures to develop temporary online education in case NAIST students are unable to arrive on time due to the viral epidemic or what is the impact of the pandemic at NAIST?

【その他のコメント】

回答 : NAIST students are currently taking classes through our online video archives. At present, campus restrictions have been lowered so the number of students coming to the campus keeps increasing, but they still take classes through video. The 2nd year master's and PhD students are now back in the laboratory for their research, but NAIST put much emphasis on reducing the concentration of people in the laboratories. Principle investigators are very aware of the concentration of the students, faculty and staff members in the laboratory and aim for a safe, sustainable balance that facilitates research and education.

以上



**【別添資料】**



奈良先端科学技術大学院大学スーパーグローバル大学創成支援事業

自己点検・評価報告書

2020年2月12日

奈良先端科学技術大学院大学 教育連携部会

## はじめに

本学は2014年度に文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択され、世界の科学技術の進展やイノベーション創出を担うグローバル人材育成のための大学院教育モデルの構築を目指しています。本事業の構想調書の年度別実施計画では2019年度に自己点検・評価を実施することとしており、これを受けてこの度、本学スーパーグローバル大学創成支援事業推進責任者の指示のもと、教育連携部会で自己点検・評価を実施することとなりました。

今回の自己点検・評価では、文部科学省が示す2020年度実施の中間評価に係る基本の方針（案）を踏まえ、第一部では本学のロジックモデルの初期アウトカムに沿った項目ごとに達成状況を分析し、第二部では成果指標データをもとに本学の実績値と2014年度にスーパーグローバル大学創成支援事業に採択された37件[タイプA（トップ型）13件、タイプB（グローバル化牽引型）24件]の実績等の平均割合を比較しながら進捗状況を分析しています。また、第三部では「成果指標データ集」、「経費（補助金）の使用状況」及び「各年度の取組概要（日本学術振興会ウェブサイト公表分）」を資料編として掲載しています。

本自己点検・評価報告書は、2014年度から2019年12月までの本学スーパーグローバル大学創成支援事業の取組及びその成果を記録するものです。今後、本報告書を本学が依頼する外部有識者にご覧いただき、コメント及びご指摘をいただき、今後の本事業の推進の参考とする予定です。本自己点検・評価報告書が本事業の発展に寄与するよう関係者一同尽力してまいりますので、ご支援ご鞭撻賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2020年2月12日

教育連携部会長 廣田 俊

I. 全体概要

I-1. 「ロジックモデルの初期アウトカム」に係る達成状況分析(大項目)

【本学スーパーグローバルのロジックモデル】

<http://www.naist.jp/sgu/pdf/project2018-ja.pdf>

(ページ番号)

(1)中項目1「組織改革と教育改革」

○小項目1「融合領域教育の強化」	1
○小項目2「国際通用性のある大学院教育」	2
○小項目3「留学生の多様なキャリア形成」	3
○小項目4「ダブルディグリープログラムの強化」	4

(2)中項目2「グローバル化」

○小項目1「海外での知名度向上」	6
○小項目2「グローバルキャンパスの実現」	7
○小項目3「教員の多様性の促進」	8
○小項目4「事務職員の高度化」	9

(3)中項目3「ガバナンス改革」

○小項目1「国際化に対応した教育研究マネジメントの強化」	10
------------------------------	----

I-2. 「自走化計画の進捗状況」の達成状況分析(大項目)」

【本学の自走化計画】

[http://www.naist.jp/sgu/pdf/project2019\\_b\\_14603.pdf](http://www.naist.jp/sgu/pdf/project2019_b_14603.pdf)

II. 成果指標データからの達成状況分析

<国際化関連>

- ①教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合
- ②職員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任職員等の割合
- ④全学生に占める外国人留学生の割合(5月1日時点、通年)
- ⑤日本人学生に占める留学経験者の割合
- ⑥大学間協定に基づく交流数(派遣日本人学生、受入外国人留学生)
- ⑦外国語による授業科目数・割合
- ⑧外国語のみで卒業できるコースの数等(コース、在籍者)
- ⑨学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組
- ⑩ナンバリング実施状況・割合
- ⑪シラバスの英語化の状況・割合

<ガバナンス改革関連>

- ⑭年俸制の導入(教員、職員)
- ⑯事務職員の高度化への取組

Ⅲ. 資料編	
Ⅲ-1. 成果指標データ集	18
Ⅲ-2. スーパーグローバル経費（補助金）の使用状況	23
Ⅲ-3. スーパーグローバル各年度の取組と進捗状況	28

## I. 全体概要

### I-1. 「ロジックモデルの初期アウトカム」に係る達成状況分析(大項目)

#### (1) 中項目 1 「組織改革と教育改革」の分析

##### ○小項目 1 「融合領域教育の強化」に係る状況

世界と未来の問題解決のために、専門性と幅広い視野、異分野連携能力を持ち、自ら新分野を開拓する人材を育成する大学であり続けることを目標として、異分野融合教育を展開し、挑戦性・総合性・融合性・国際性を涵養する教育を実現するために、2018年度に従来の3研究体制を1研究科1専攻へと改組した。

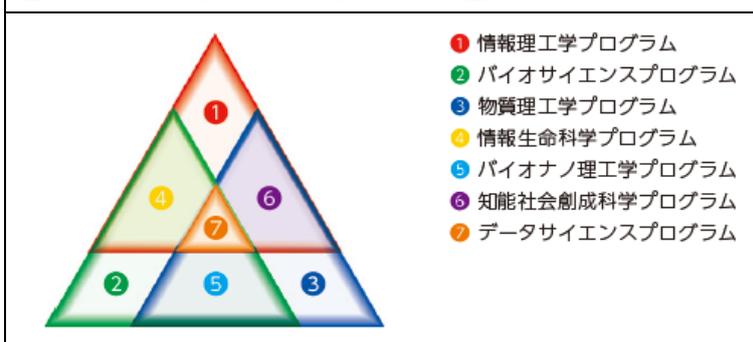
1研究科体制を実現するため、2014年度に1研究科構想実現検討ワーキンググループを設置し、1研究科構想の実現に向けて提言を行い、広く学内の意見を取り入れた。2015年度には、1研究科カリキュラム検討ワーキンググループを発足させ、2年間かけて1研究科における教育体制を検討し、融合領域教育のあり方を検討した。その結果、当初の計画より1年前倒しで、1研究科1専攻体制を実現した。

1研究科体制では、これまでの情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学の基幹の科学領域に基づく3つの教育プログラムに加えて、それぞれの2つの領域を融合する3つの融合教育プログラムと3つの領域全てを融合させるデータサイエンスプログラムの計7つの教育プログラムを設置した(図1-1参照)。

それぞれの教育プログラム毎に明確な人材育成目標を定めて、全学共通のディプロマ・ポリシーと合わせることで、各プログラムの教育達成目標を明確化した。また、博士前期課程においては各プログラムに選択必修となるコア科目を設けたうえ各プログラムが独自に提供する序論とPBL科目を必修とすることで、各プログラムの教育上の特色を分かり易いものにしていく。学部での専門と異なる融合分野を目指す学生には、基盤科目を設置することで必要な基盤的知識を学習させる。グループワークとアクティブラーニングを主体としたPBL科目の授業では、学部において異なる分野の教育を受けた学生を協働させ課題や問題の解決に当たらせることで、融合教育の強化を図っている。また、必修科目以外については、指導教員の履修指導のもと、広範に自由な科目選択が行える体制となっている。

融合領域プログラムを選択した学生数は表1-1のとおりである。融合領域プログラム設置時に掲げた博士前期課程の融合教育プログラム選択者数は各年度100人であったことから当初の目標をほぼ達成している。博士後期課程においては、2019年度までは、博士前期課程において3研究科体制で教育を受けた学生であることと、研究が教育の中心となる体制を取っており融合教育プログラムの特色が薄れているため、融合教育プログラムの学生数が少ないが、2020年度からは、1研究科体制の前期課程で教育を受けた学生が進学するため、増加が期待できる。

図1-1 7つの教育プログラムの概念図



## I. 全体概要

表 1-1 融合領域プログラム選択学生数

		融合領域プログラム 選択学生数	在学者総数 (各年 11 月 1 日現在)
2018 年度	博士前期課程	98 人	364 人
	博士後期課程	10 人	97 人
2019 年度	博士前期課程	185 人	712 人
	博士後期課程	21 人	212 人

一方で、PBL 科目による異分野学生の協働などのアクティブラーニングの概念の教員への浸透が十分ではない。また、旧 3 研究科が物理的に分離された建物にあり、課外で学生が主体的に学び交流するためのラーニングコモンズなどの施設が不足している。

(実施状況の判定)

**実施状況が良好である**

(判断理由)

融合領域教育を推進するための 1 研究科 1 専攻体制を 1 年前倒しに実施するとともに、それぞれの教育プログラム毎に明確な人材育成目標を定め、各プログラムの教育達成目標を明確化した。また、博士前期課程の融合教育プログラム選択者数は当初の目標をほぼ達成していることから、本達成状況と判断した。

### ○小項目 2 「国際通用性のある大学院教育」に係る状況

教務システムの国際通用性を確保するため、2016 年度には科目名のナンバリングとシラバスの英語化を完成させている。2018 年度の 1 研究科への移行後は、シラバスは全学で統一された形式で英語版と日本語版の両方をネット上に公開している。また、1 研究科では、クォーター制を採用し、春入学と留学生の多い秋入学のどちらでも履修に支障をきたさない柔軟な教育体制としている。3 研究科体制では英語のみで履修可能な国際コースを用意して留学生の教育を行っていたが、1 研究科では国際コースは設置せず、英語で履修できる科目の充実を図って、日本人学生と留学生を一つの教室やグループ内で共に学ばせている。

授業の質の国際通用性と英語による有効な授業の実施を促進するため、毎年 3～6 名の教員をアメリカ UC Davis (カリフォルニア大学デービス校) へ派遣して海外 FD 研修に参加させ、アメリカでの大学院での教育法を学ばせている。また、2019 年度には、UC Davis の教員を本学に招いて英語による本学教員の講義を参観してもらい授業改善のための提言を得たり、国際基準であるトランスフェラブルスキルの教育や英語で教えるための技術を学ぶ国際 FD セミナーを開催した。学内の FD 研修会は、将来アカデミアを目指す博士後期課程学生の国際的な教育力の育成のためのプレ FD として受講を単位化している。またダブルディグリープログラムは 2014 年度の 2 件から、2019 年度の 8 件まで増加しており、本学学生の派遣 (4 名) と相手大学の学生の受入 (8 名) を通じて、国際通用性のある大学院教育の促進を図っている。

全ての科目について学生による授業評価アンケートを行い担当教員にフィードバックするとともに、一部の科目については他の大学の教員による外部評価を実施し、教育の質の保証を行っている。日本人学生の英語力の育成のため、博士前期課程では英語科目の 2 単位を必修とし在学中に最低 3 回は TOEIC-IP を受験すること

## I. 全体概要

とした。留学生には、日本語レベル N5 から N1 までの広い範囲に対応できる日本語科目を設置し、初学者から日本企業への就職希望者までの日本語のニーズに対応できる体制としている。

履修に際しては、厳格な履修登録ルールを定めたうえ、GPA を導入して秀・優 (S、A) の割合を 30% とする目安を設定し、国際的に通用する成績評価システムを導入した。学位論文の進捗状況の評価には、電子カルテ上にルーブリックによる評価システムを置き、客観的評価を行うとともに学生の自主的な研究を促進している。

以上のほか、英語で行われる科目の割合は 2014 年度の 33.4% から 1 研究科に移行した 2018 年度は 51.6% に増加し、7 つの全ての教育プログラムにおいて英語のみで修了できる教育体制となっている。2020 年度には、情報科学領域から提供される科目は全て英語化される予定である。

一方で、国際通用性のある英語で行われる授業について行ける英語力のない日本人学生も多く、28.8% の講義科目では、英語による講義と日本語による講義の 2 本立てとしており、教員の負担を高めている。大学院での研究と教育の両立ができる効果的な英語授業を模索している。

(実施状況の判定)

**実施状況が良好である**

(判断理由)

2016 年度には科目名のナンバリングとシラバスの英語化を完成させている。毎年度、海外 FD 研修、各種の学内 FD 研修会の及び 2019 年度からの国際 FD セミナーを開催することにより、教育の内容の国際通用性の確保に取り組んでいる。また、ダブルディグリープログラムの学生派遣・受入も教育の国際化に寄与している。学習効果の評価についても厳格な GPA 制度を導入し、ルーブリックによる学位論文研究の進捗状況の評価をマイルストーンとキャップストーンとして実施するなど世界基準の評価システムを取り入れていることから、本達成状況と判断した。

### ○小項目 3 「留学生の多様なキャリア形成」に係る状況

2015 年 4 月に教育推進機構を設置し、その中にキャリアマネジメント部を持つ教育推進部門を置いて、キャリア支援担当の UEA を配置した。2016 年度には、留学生のキャリア支援を英語で担当できる UEA を採用し、留学生との個別相談 (月平均 10 回、延べ 100 件) や英語による就職ガイダンス (計 6 回 51 名の参加者) を実施した。その結果、博士後期課程留学生の就職率が 1.8 倍に向上した。就職ガイダンスは、2017 年度以降は、春入学と秋入学に対応して年 2 回 (各回 8 コマ) 実施し、留学生に日本の特異な就職活動事情を理解させる機会となっている。また、2016 年度から、外資系企業出身で企業とつながりを持ち、留学生のキャリア支援ができる客員教授を採用している。その結果、留学生の 1 日企業体験プログラムや中期企業体験プログラムなどの支援を継続して実施することが可能となった。キャリアマネジメント部については 2018 年度に教育推進機構内のキャリア支援部門として格上げし、さらに充実した支援を目指している。

日本の企業の多くが求める N2~N1 レベルの日本語能力を育成するため、2017 年度と 2018 年度にキャリア支援 UEA の主導で「日本語講座」を開講した。この講座は、2019 年度からは正規科目の「日本語 V」として開講し、その他に N5~N3 に対応した「日本語 I - IV」を設置することで、正規のカリキュラム内で幅広い日本語教育を行える体制とした。正規科目以外にもボランティアによる日本語講座を活用

## I. 全体概要

し、留学生とその家族の日本語教育を行っている。

留学生が就職を希望する日系企業などへの橋渡しを行うジョブフェアや、起業を希望する留学生向けに外部機関と連携してビジネススタートアップセミナー、留学生と留学生採用を考える企業との交流会（Networking event）を2017年度から毎年開催するなど、多様なキャリア形成の機会を提供している。

修了後帰国する留学生に対しては、インドネシアなどの同窓会組織を通じて、修了した留学生の自国でのキャリア情報交換を支援する取り組みを開始している。

以上の多様なキャリア形成支援の取り組みの結果、博士後期課程留学生の進路状況は以下の表3-1のとおりである。

表3-1 博士後期課程留学生の進路状況

	2013年 (通年)		2016年 (通年)		2017年 (通年)	2018年 (通年)	2023年 (通年)
	目標値	実績値	目標値	実績値	実績値	実績値	目標値
後期課程修了留学生のうち日本国内で企業等に就職する留学生の割合	0.0%	0.0%	10.0%	24.1%	30.3%	28.6%	33.3%
後期課程修了留学生のうち日本以外で就職（アカデミア含む）する留学生の割合	13.3%	26.7%	18.0%	20.7%	36.4%	42.9%	33.3%

(実施状況の判定)

**実施状況が非常に優れている**

(判断理由)

留学生専門のキャリア支援 UEA と客員教授による留学生に対する多彩なキャリア支援が行えている。その結果、後期課程修了留学生のうち日本国内で企業等に就職する留学生の割合と日本以外で就職（アカデミア含む）する留学生の割合は2023年度の目標値である33.3%に近づいている。年度により実績値に変動があるが、留学生に対して十分なキャリア形成支援を行えていることから、本達成状況と判断した。

### ○小項目4「ダブルディグリープログラムの強化」に係る状況

2010年8月オウル大学との博士後期課程におけるダブルディグリー協定を締結以降、8機関（2019年12月現在）とダブルディグリープログラム協定を締結するなど着実に協定校を増やしている。ダブルディグリー協定校の所在地は特定の国や地域に偏ることなく、ヨーロッパ、アジア、オセアニアに分布している（表4-1参照）。また、スーパーグローバル大学創成支援事業採択（2016年10月）以降も協定先の拡充を図るとともに、協定更新時期を迎えたプログラムについては、今後の交流見込みを踏まえた上でプログラムを精査し、更新・終結を行っている。

ダブルディグリープログラムの受入及び派遣実施実績は2010年8月から2019年12月までの間で、受入：8名（修了3名、在学中4名、退学1名）、派遣：4名（修了2名、在学中2名）である。プログラムの強化策として、日本人学生を対象に渡航費及び滞在費の旅費を支援する長期留学支援事業を2019年12月に策定し、

## I. 全体概要

2020年度から本事業を実施する予定である。

これまで博士後期課程学生を対象としたダブルディグリープログラムを実施してきたが、博士前期課程学生を対象としたダブルディグリープログラムについても実施できるよう関係規則を整備し、2022年度までにプログラム実施を目指して相手機関との調整を進めている。

表 4-1 ダブルディグリープログラム協定校一覧

### <実施中プログラム>

	相手先機関名 (協定書記載名)	国・地域	協定締結日 (協定更新日)	学生受入/派遣実績 [学生在籍区分(在学生修了予定時期)]
1	ポールサバチエ大学 (Université Paul Sabatier)	フランス	2014年2月28日 (2019年2月28日)	受入1人 [在学中1(2021年8月まで)] 派遣3人 [修了2、在学中1(2021年3月まで)]
2	パリサクレ大学 (Université Paris-Saclay)	フランス	2018年4月23日	派遣1人 [在学中1(2022年9月まで)]
3	ソルボンヌ大学 (Sorbonne Université)	フランス	2019年4月29日	2020年4月入学分から学生募集開始
4	ウルム大学 (Ulm University)	ドイツ	2017年7月31日	受入1人 [在学中1(2021年3月まで)]
5	マラヤ大学 (University of Malaya)	マレーシア	2015年4月4日	受入1人 [在学中1(2020年3月まで)]
6	国立交通大学 (National Chiao Tung University)	台湾	①2015年11月19日 ②2015年11月19日 ③2017年3月3日	受入1人 [在学中1(2020年9月まで)]
7	ユニテック工科大学 (Unitec Institute of Technology)	ニュージーランド	2015年5月21日	受入2人 [修了1、退学1] (2020年5月20日終結)
8	マクコーリー大学 (Macquarie University)	オーストラリア	2019年7月10日	2020年4月入学分から学生募集開始

### <終結プログラム>

	相手先機関名 (協定書記載名)	国・地域	協定締結日 (協定終結日)	学生受入/派遣実績 その他参考情報
1	オウル大学 (University of Oulu)	フィンランド	2010年8月31日 (2015年8月30日)	受入2人 [修了2]

(実施状況の判定)

**実施状況が良好である**

(判断理由)

2010年8月に本学で最初のダブルディグリー協定を締結して以降、着実に協定校数を増やし、プログラム参加者数についても成果を上げている。また、プログラム更新時には今後の交流見込みを踏まえたスクラップ・アンド・ビルドを実施するなど、プログラムの質保証に取り組んでいることから、本達成状況と判断した。

## I. 全体概要

### (2) 中項目2「グローバル化」の分析

#### ○小項目1「海外での知名度向上」に係る状況

本学の海外教育連携拠点として、2016年4月インドネシア(ボゴール)に、2017年3月タイ(バンコク)に海外オフィスを開設した。インドネシアオフィスでは、外国人修士生ネットワークを活用した日本留学フェア参加、協定校訪問、シンポジウム開催等を行うことにより、諸大学、政府機関、同国に拠点を置く日系企業に対する本学のプレゼンスを高めている。タイオフィスにおいても、オフィスを拠点として、学生シンポジウムの毎年

度開催やインターンシップを活用した学生募集活動を行い、研究教育活動のプレゼンスと本学の知名度向上に努めている。大学として国際的な研究者ネットワークの戦略的な構築を図るため、アメリカ UC Davis (カリフォルニア大学デービス校)とフランスポールサバチエ大学に国際共同研究室を設置・運営している。

欧州圏での広報活動については、本学は JANET (Japan Academic Network in Europe、在欧日本学術拠点ネットワーク：主に欧州に拠点を持つ日本の大学・学術機関による日欧の学術情報交換を目的とした組織) に加盟し、本学教員が JANET の情報発信委員に就任することにより、海外研究者や留学生の獲得や大学間ネットワークの構築のため、大学紹介や広報活動を行っている。本学の URA (University Research Administrator) が URA 団体の国際的コンソーシアムである INORMS (International Network of Research Management Societies) に毎年度参加し、本学の広報活動を積極的に行っている。さらに、本学教員が 2020 年に広島で開催される INORMS の国際会議のプログラム委員長に就任し、関連する米国、欧州、豪州、アジアの国際会議において、本学を含め日本の大学の知名度向上のための情報発信を積極的に行っている。

毎年度、日本留学フェア(タイ、ベトナム、台湾、マレーシア、インドネシア)、大学院進学フェア(マレーシア)、赴日留学生予備学校説明会(中国)等への参加に加え、協定校訪問を実施し、本学の大学概要や研究内容を紹介し、本学の海外での知名度の向上に努めてきた(2013 年度教員派遣数: 141 名→2018 年度教員派遣数: 173 名)。

このほか、英語版大学ガイドブック及び研究室紹介冊子を作成し、協定校や国内外の関係機関へ配布するとともに、電子版を本学ウェブサイト上で公表することにより、本学の教育研究内容や国際交流について広く情報発信を

写真 1-1 NAIST インドネシアオフィスキックオフシンポジウム (2016 年 8 月)



写真 1-2 日本留学フェア(タイ)での本学の広報活動



## I. 全体概要

行っている。加えて、教育連携部門のウェブサイトリニューアルし、内容や英語版の充実を図ることにより、本学の国際活動状況を発信し、知名度の向上に取り組んでいる。

(実施状況の判定)

**実施状況が良好である**

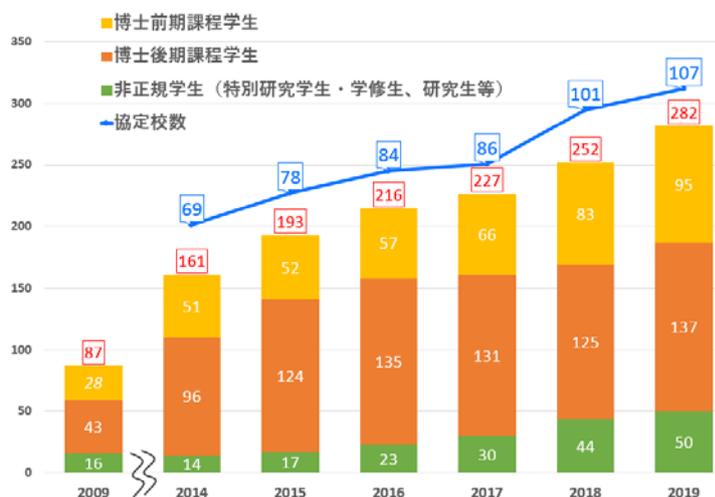
(判断理由)

本学海外オフィス、国際共同研究室、URA 団体の国際的コンソーシアム等を通じて本学を含め日本の大学の知名度向上のための情報発信を積極的に行っている。また、日本留学フェアへの参加、協定校訪問、ウェブサイトによる情報発信により海外での知名度の向上に取り組んでいることから、本達成状況と判断した。

### ○小項目2「グローバルキャンパスの実現」に係る状況

学術交流協定校の拡充（2014年5月1日：69件（25カ国・地域）→2019年5月1日：107件（29カ国・地域））、海外オフィス等における学生リクルート活動、学部学生を非正規生として受入れる特別学修生制度の設置等に取り組むことにより、留学生数が大幅に増加している（表2-1参照）。外国人留学生は、東南アジアを中心としつつも、出身国が特定の

表 2-1 留学生数及び学術交流協定校数の推移（各年度5月1日現在）



国に偏ることなく、世界37カ国・地域（2019年10月現在）出身であり、多様性を確保している。海外研究者については、国際共同研究のための海外研究者受入助成などを戦略的に実施することにより、毎年度、多くの海外研究者を受け入れている（2014年度181名→2019年度197名）。

海外FD・SD研修を毎年度実施し、海外FD研修においては、多様化する現場における教員の教育能力や研究室マネジメント力の向上に取り組んでいる。海外SD研修においては、多様な学生や教員のニーズに応じられる職員の養成を図っている。両研修終了後には、報告会を開催するなど本学教職員へのフィードバックを行っている。

留学生及び海外研究者の日本や本学での生活を、より充実したものにするために、Center for International Students and Scholars (CISS) を設置し、学業と私生活の両面において、文化の違いにより生じる問題の相談から、同伴する家族に関することまで、幅広い支援を行っている。さらに、留学生ハンドブック及び外国人研究者ハンドブックの編集・作成、外国人研究者向けオリエンテーションの実施、外

## I. 全体概要

国人研究者の窓口対応、英語でのクレジットカード取得説明会などを企画・実施するとともに、留学生のピアサポート制度としてアンバサダー制度を企画・開始した。また、キャンパス内の国や文化などの違いを超えたコミュニケーションの輪を広げることが目的として、留学生の出身国の文化などを紹介し、本学構成員と交流する国際交流会（NAIST Tea Time）を2015年から合計17回開催した。さらに、毎年、留学生奨学支援団体職員や地域の小学校教員などの関係者を招待し、国際交流懇話会を開催している（2019年度参加者数：294名）。このほか、日本人学生が留学生と積極的に交流するように、日本人学生を対象とした講習会「留学生との生活」を実施するなどグローバルキャンパスの実現に取り組んでいる。

写真 2-1 国際交流会（NAIST Tea Time）の様子



（実施状況の判定）

**実施状況が非常に優れている**

（判断理由）

グローバルキャンパスの実現に向けて留学生及び外国人研究者の受入れを推進しており、特に、全学生に占める留学生の割合については2019年5月の実績値（24.9%）が2023年5月の最終目標値（23.2%）を既に上回るなど大きな成果を上げている。また、CISSなどによる留学生・外国人研究者支援についても幅広く取り組んでいることから、本達成状況と判断した。

### ○小項目3「教員の多様性の促進」に係る状況

本学では教員の多様性に向けて、外国籍教員、外国の大学で学位を取得した教員及び外国で長期の教育研究歴を有する教員数の増加に取り組んでいる。優秀な外国人教員の獲得に向けた取組として、学長のリーダーシップの下、外国人教員採用インセンティブ制度を2018年4月に設置し、外国人教員を採用した領域に対し学長裁量経費を原資としたインセンティブ経費を配分することとしている。教員の採用についても、国際公募による教員の採用や海外での教育研究経験を重視した選考を行なっている。また、本学独自の長期海外派遣の取組として、国際的頭脳循環プロジェクト「若手研究者海外武者修行制度」による海外長期派遣の助成支援を継続的に実施し、毎年3～4名の若手教員を研究機関へ派遣している。

これらの取組を踏まえ、外国籍教員、外国の大学で学位を取得した教員及び外国で長期（1年以上）の教育研究歴を有する教員数は2013年5月1日32.9%（72名）から2019年5月1日には57.1%（129名）に増加するなど着実に成果を上げている。

（実施状況の判定）

**実施状況が良好である**

## I. 全体概要

(判断理由)

外国人教員採用インセンティブ制度の設置や本学独自の長期海外派遣等に取り組んでおり、外国籍教員、外国の大学で学位を取得した教員及び外国で長期（1年以上）の教育研究歴を有する教員数が毎年度着実に増加するなど成果を上げていることから、本達成状況と判断した。

### ○小項目4「事務職員の高度化」に係る状況

事務職員の外国語（英語）基準としてTOEIC750点以上を設定し、2023年度までに全専任事務職員数175人中47人が当該基準を満たすことを目指している。この目的達成のため、事務職員（技術職員含む）を対象にした英語研修や海外SD研修を実施している。

2014年度は、全専任職員（154人）対象にTOEIC-IPテストを実施した。受検者のスコアを分析し、開講すべきレベルを決定した。外部講師によるTOEIC試験対策を中心として、学内において英語研修講座を毎年度約3か月間開講した（受講状況は表4-1参照）。また、2020年度以降の英語研修のあり方について、2019年12月に全専任職員対象にアンケート調査を行い、TOEIC試験対策からE-mailを含む文書や会話など、実務型研修への変更を検討している。

表4-1 職員英語研修受講状況 (単位：人)

年度	2014		2015		2016		2017		2018		2019	
クラス	初中級	6	中級	6	中級	5	初級	6	初級	6	中上級	4
	中上級	6	上級	4	上級	4	上級	5	上級	6		
	計	12	計	10	計	9	計	11	計	12	計	4

海外SD研修では、実践的な英語能力の向上を目的に、現地での語学研修のみならず、現地大学職員とのミーティング及びジョブシャドウイング、業務内容についてのインタビュー調査等を実施した。なお、研修者の業務分野は、総務、会計、人事、教務、研究協力、国際とほぼ全てを網羅している。また、当該研修者には、学内報告会での発表とともに、報告書提出を課し、学内専用サイトで公開している。研修先等は、表4-2のとおりである。

表4-2 海外SD研修一覧

年度	研修先（国）	研修期間	人数	所属課（当時）
2014	ハワイ東海国際大学（米）	2014年11月10日（月）～11月23日（日）	2	学生課、会計課
2015	ハワイ東海国際大学（米）	2015年11月30日（月）～12月20日（日）	1	人事課
2016	ハワイ東海国際大学（米）	2016年11月7日（月）～11月19日（土）	1	国際課
	マッコーリー大学（豪）	2016年11月20日（日）～12月3日（土）	1	研究協力課
	カリフォルニア大学 デービス校（米）	2017年1月5日（木）～1月21日（土）	1	教育支援課
2017	ハワイ東海国際大学（米）	2017年11月6日（月）～11月17日（金）	1	企画総務課
	マッコーリー大学（豪）	2017年11月6日（月）～11月17日（金）	1	人事課
	マサチューセッツ工科大学、カリ フォルニア大学デービス校（米）	2018年1月11日（木）～1月19日（金）	1	国際課
2018	カリフォルニア大学 デービス校（米）	2019年1月4日（金）～1月18日（金）	2	会計課、研究協力 課
2019	ハワイ東海国際大学（米）	2019年11月4日（月）～11月17日（日）	2	国際課、研究協力 課
計	3大学（米） 1大学（豪）		13	

## I. 全体概要

なお、両研修の成果を測るため、毎年度、英語研修開講前と年度末に TOEIC-IP テストの受検を研修受講者には義務付けている。これらの取組により、2019年5月1日現在、設定基準 TOEIC750 点以上を全専任事務職員（技術職員含む）の 24.1%（166 人中 40 人）を有しており、2023 年度設定値 26.9%の達成が見込まれている。〔Ⅱ成果指標データの⑩参照のこと。〕

また、本学が行う研修以外として、(独)日本学術振興会国際学术交流研修制度を活用し、海外での実務研修（1年）を経験させることで、より高度な実務能力を獲得させている（海外勤務年度：2018年度〈1人〉、2020年度〈1人〉）。このほか、研究大学強化促進事業に関連した海外出張に帯同させるなど、より実践的な業務を経験させている。

2019年度は、事務職員発案で「大学の国際化」に関する勉強会（対象：事務職員及び技術職員）を開催した。第1回は、本学の現状を共有し、国際化に対する職員間での意見交換、第2回は、奈良県外国人支援センターの協力の下、日本文化及び奈良県の英語で紹介する講義を開催した。

（実施状況の判定）

**実施状況が非常に優れている**

（判断理由）

2019年5月1日現在、設定基準 TOEIC750 点以上を全専任事務職員（技術職員含む）の 24.1%（166 人中 40 人）を有しており、所期の目標値であった 21.7%（175 人中 38 人）を超えている。これにより事務局全ての課に最低1名は所定の英語能力を有する職員が配置されていることから、本達成状況と判断した。

### (3) 中項目3「ガバナンス改革」の分析

#### ○小項目1「国際化に対応した教育研究マネジメントの強化」に係る状況

学長のリーダーシップの下、柔軟かつ機動力を持った戦略的な運営体制を構築するため、学長を本部長とする戦略企画本部を 2015 年度に設置し、各種会議に分散していた教育研究の企画立案機能を一元化した。2017 年度からは、IR 担当の副学長を IR オフィス長として配置し、教育に関するデータだけでなく研究・人材育成・国際化・財務・産官学連携等に関する学内データを一貫して活用できるよう IR オフィスを事務局・部門等を横断する組織として拡充している（図 1-1 参照）。

学長の方針を全学的な見地から具体的かつ迅速に実行するための教育支援組織として、教育担当理事・副学長を責任者とする教育推進機構を設置し、各部門に UEA を配置するとともに、研究支援組織として、研究担当理事・副学長を責任者とする研究推進機構を設置し、各部門に URA を配置した（図 1-2 参照）。

教育推進機構の教育推進部門では、全学的見地からカリキュラムの質的向上を図るための改善を進めている。教育連携部門では、海外教育・研究機関との連携を強化するための取り組みを推進し、海外オフィスの設置・運営支援、新たなダブルディグリープログラムの構築、教職員の海外 FD・SD 研修等を実施している。キャリア支援部門では、留学生を含めたキャリア教育・支援を行っている。

研究推進機構では、現在アメリカ UC Davis（カリフォルニア大学デービス校）とフランスポールサバチエ大学に設置した国際共同研究室2箇所と、本学内に設置している国際共同研究室3箇所（アメリカ・カーネギーメロン大学、カナダ・ブリティッシュコロンビア大学、フランス・エコールポリテクニクと共同）を中心とし

# I. 全体概要

て、海外の大学及び研究機関との間で積極的に研究・教育活動を展開している。教育推進機構、研究推進機構、さらには戦略企画本部など、複数の部署との緊密な連携により、国際化に対応した研究・教育のマネジメントの強化に努めている。

図 1-1 IR オフィスの業務内容と運営体制

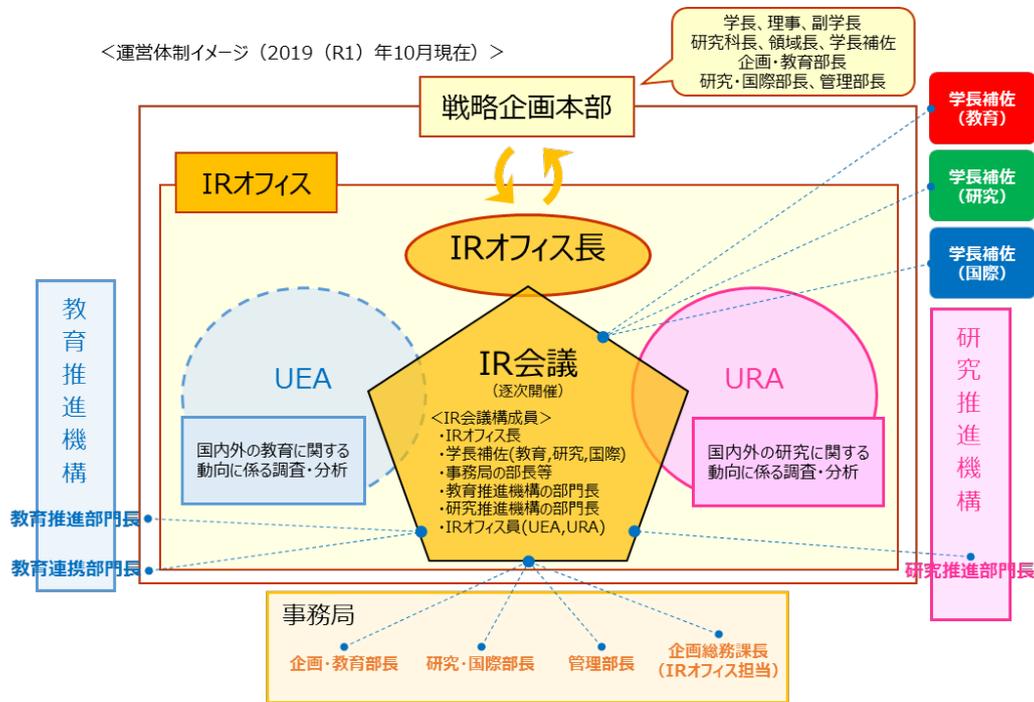
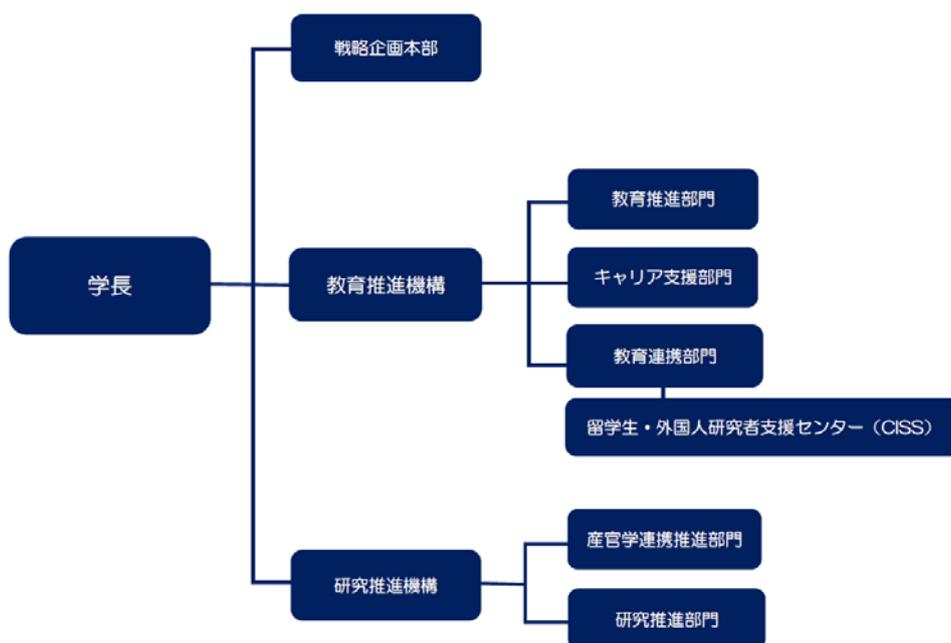


図 1-2 戦略企画本部・教育推進機構・研究推進機構 組織図



## I. 全体概要

(実施状況の判定)

**実施状況が良好である**

(判断理由)

学長を本部長とする戦略企画本部の設置や教育に関するデータだけでなく、研究・人材育成・国際化・財務・産官学連携等に関する学内データを一貫して活用できるようにした IR オフィスの組織拡充、教育推進機構及び研究推進機構など各部署の連携により、国際化に対応した教育研究マネジメントの強化に取り組んでいることから、本達成状況と判断した。

### I-2. 「自走化計画の進捗状況」の達成状況分析(大項目)

自走化を実現するためには、大学全体の自己収入を増加させ、学内予算を安定的に確保することが不可欠である。本分析では、2019 年度における取組状況について検証する。

本学では、競争的資金の獲得強化のため、URA を中心に申請書事前確認・助言等を合計 110 件（2019 年 12 月現在）実施している。この結果、2019 年 12 月現在、外部資金受入れ金額は、16.20 億円（民間等との共同研究：287,438 千円、受託研究：859,611 千円、寄附金：190,485 千円、その他の競争的資金：282,762 千円）である。科学研究費助成事業の補助金交付額は、11.20 億円である。これらの金額は、各々年間 10 億円以上を獲得という本学の目標を着実に上回っている。また、外部資金獲得に対する研究者個人の意識向上のため、外部資金に措置される間接経費等の獲得を通じた財務上の貢献が特に顕著な者を報奨する「財務貢献者報奨」を行っており、2019 年度は 41 名に報奨金を支給した。

「奈良先端科学技術大学院大学基金」については、一般の方からの寄附の促進を図るため、公開講座の会場となるミレニアムホールの座席の背板に、一件あたり累計 5 万円以上を寄附いただいた個人・法人のご芳名を刻印したプレートを 2019 年 7 月に設置し、より多くの寄附者の篤志を顕彰することとした。

新たな方策として、「ネーミングライツ事業」及び「クラウドファンディング事業」を開始した。前者については、2019 年 7 月 2 日から「ネーミングライツ・パートナー募集要項」を本学ウェブサイト上で公表し、対象の 7 施設・教室のうち、(株) エーアイとの協定に基づき、情報科学棟大講義室を愛称「エーアイ大講義室」（協定期間：2020 年 1 月 1 日～2024 年 12 月 31 日。金額 33 万円/年）とした。なお、他の施設・教室については、引き続き公募中である。後者については、2019 年 7 月 26 日に本学教職員、学生を対象にしたクラウドファンディングを活用した寄附事業に関する説明会を開催した。

上述に加えて、民間機関等からの依頼を受け、本学の教員が教育、研究及び技術上の専門的知識に基づき指導助言を行う「学術指導制度」を 2019 年度から新設し、7 件・合計：11,489 千円（消費税込み）の収入を得ている（2019 年 12 月現在）。

更なる多様な外部資金等の獲得に向けて、2020 年 4 月 1 日以降、民間機関等との共同研究における間接経費を直接経費に対し原則 30% とすることとし、2020 年 1 月に本学ウェブサイト上で公表した。

スーパーグローバル大学創成支援事業の事業規模を毎年度 250,840 千円で維持することとしている。2019 年度の国際化拠点整備事業費補助金（以下「補助金」という。）の交付決定額は 50,101 千円であり、補助金実績報告書に計上される大学負担（見込）額は 51,074 千円である。本事業の事業規模の単純合計額は 101,175 千円（対事業規模：40.3%）であり規模縮小に見える。しかしながら、運営費交付金及び機能強化経費によって内在化させた関連事業を実施しており、当初の事業規模の維持に努めている。

## I. 全体概要

(実施状況の判定)

**実施状況が良好である**

(判断理由)

競争的資金においては、科学研究費助成事業及び受託研究費等を各々各年間 10 億円以上獲得とする目標値を着実に超えている。また、2019 年度には、ネーミングライツ事業、クラウドファンディング事業、学術指導制度を新たに整備し、財源の多様化に努めている。また、運営交付金等の内在化を進めて事業規模の維持に努めていることから、本達成状況と判断した。

## I. 全体概要

## II. 成果指標データからの達成状況分析

### 分析成果指標データからの総括

共通指標のうち、主な 17 指標について、本学の実績値と 2014 年度にスーパーグローバル大学創成支援事業に採択された 37 件 [タイプ A (トップ型) 13 件、タイプ B (グローバル化牽引型) 24 件] (以下「採択校」) の実績等の平均割合を比較した。

本学における特筆すべき実績を上げている項目として、「全学生に占める外国人留学生の割合」について、各年 5 月 1 日現在 (④ - 1) 及び通年 (④ - 2) とともに、前回の中間評価が行われた 2016 年度以降も大きな伸びを示している。④ - 1 では、2019 年 5 月 1 日現在 24.9% (282 人) と、既に最終年度 2023 年度の本学目標値 23.2%、採択校平均割合 12.7%を超えている。大学間協定に基づく交流数・受入れ外国人留学生数 (⑥ - 2) でも、同様の傾向が得られている。

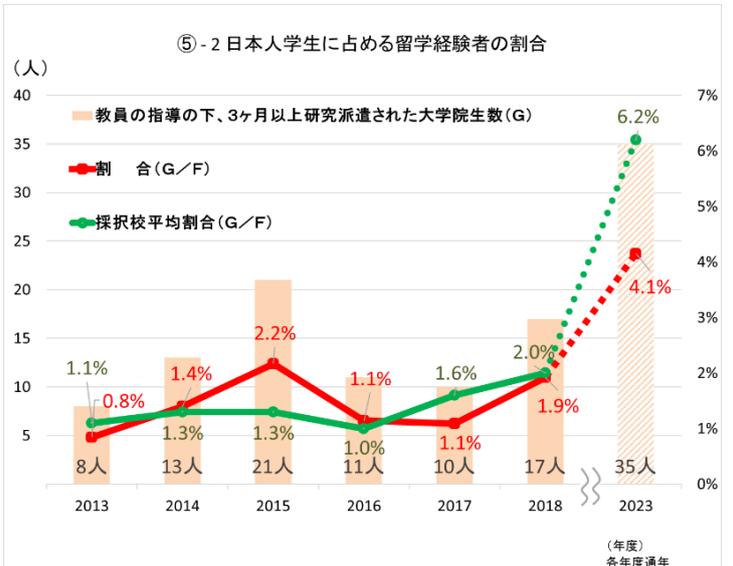
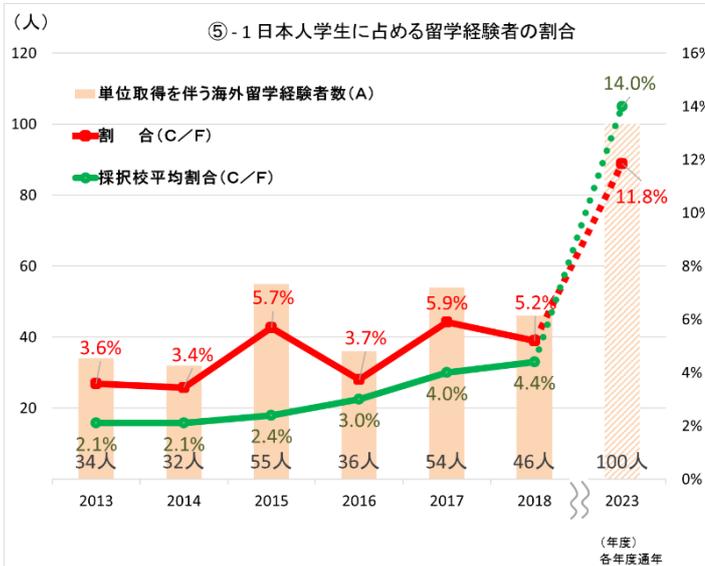
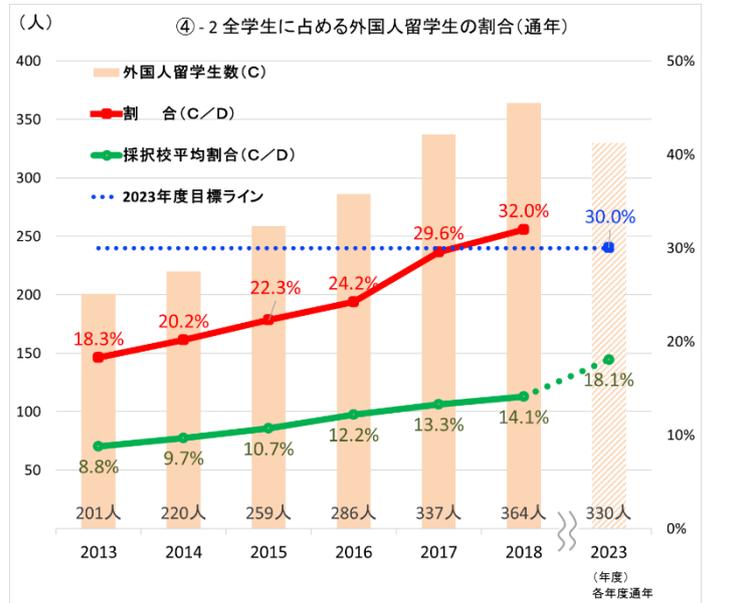
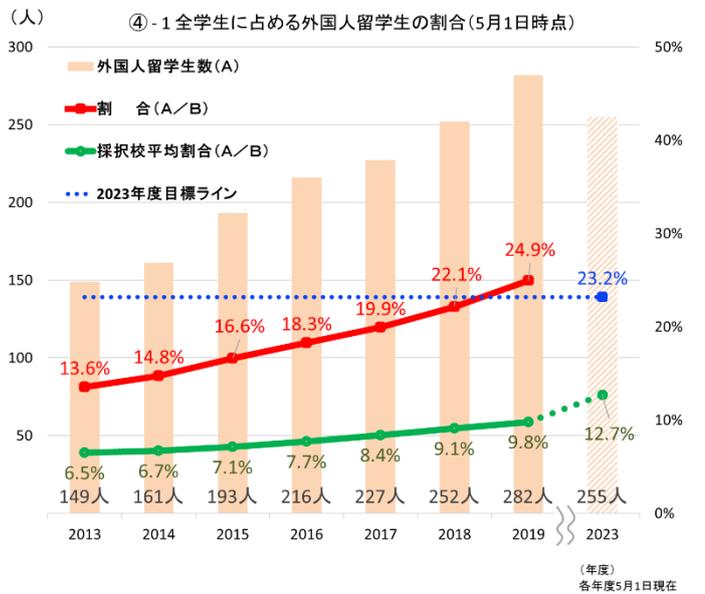
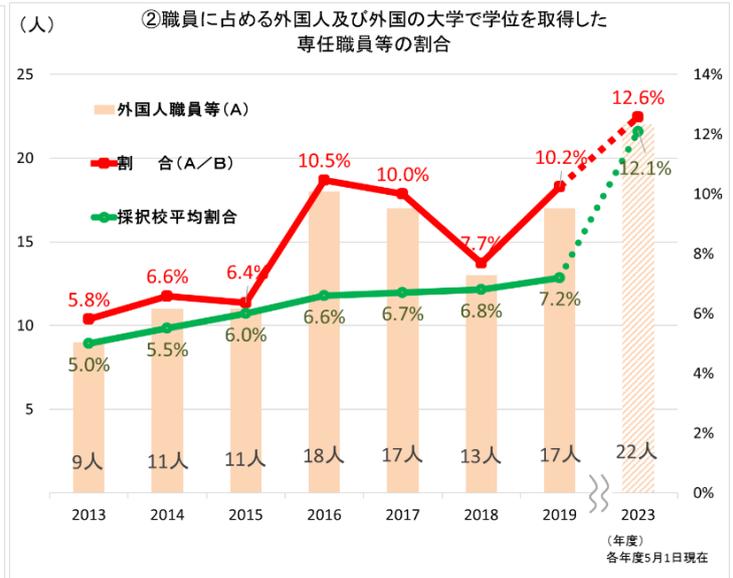
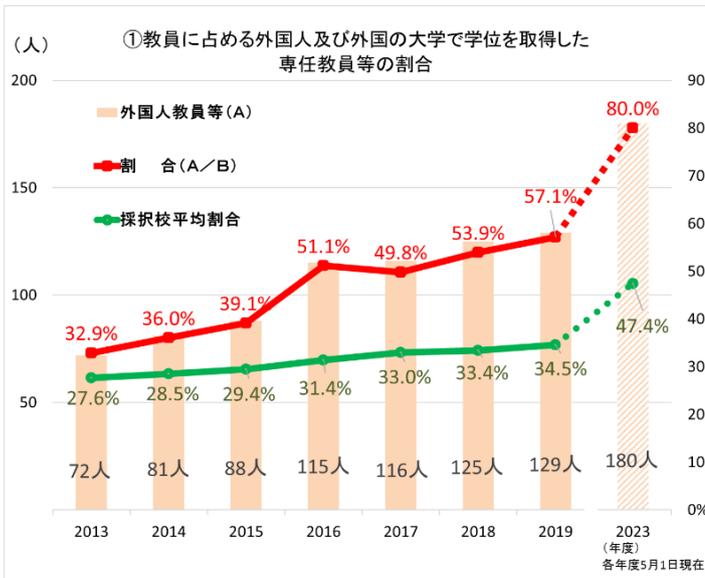
教育課程関係では、外国語による授業科目数・割合 (⑦) を着実に増やしている。2018 年度の一研究科への再編統合に伴い、外国語のみで卒業できるコースの数等は 100%を達成している。シラバスのナンバリング (⑩) 及び英語化 (⑪) は、2016 年度に完了している。

最も課題となる項目は、日本人学生に占める留学経験者の割合 (⑤ - 1、⑤ - 2) である。採択校平均値をやや上回っているが、最終年度の目標値 11.8% (採択校平均割合 14.0%) を達成するためには、今後更なる取り組みが必要である。大学間協定に基づく交流数・派遣日本人学生数 (⑥ - 1) は年度によるばらつきが大きい。

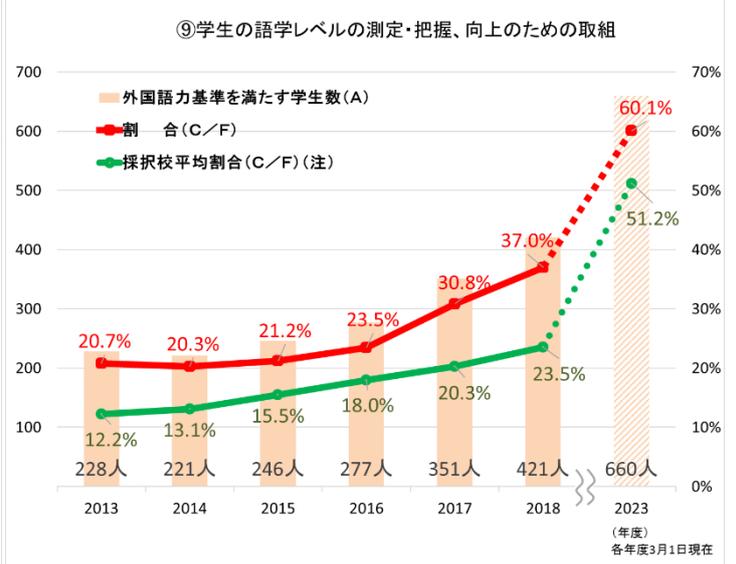
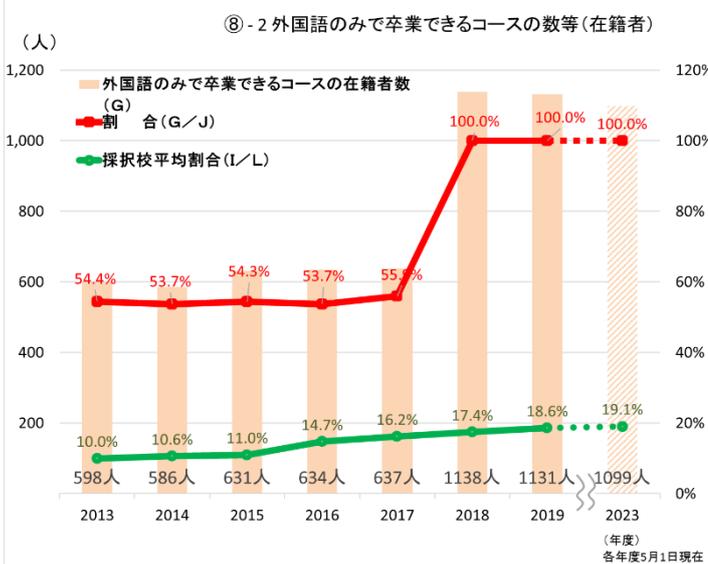
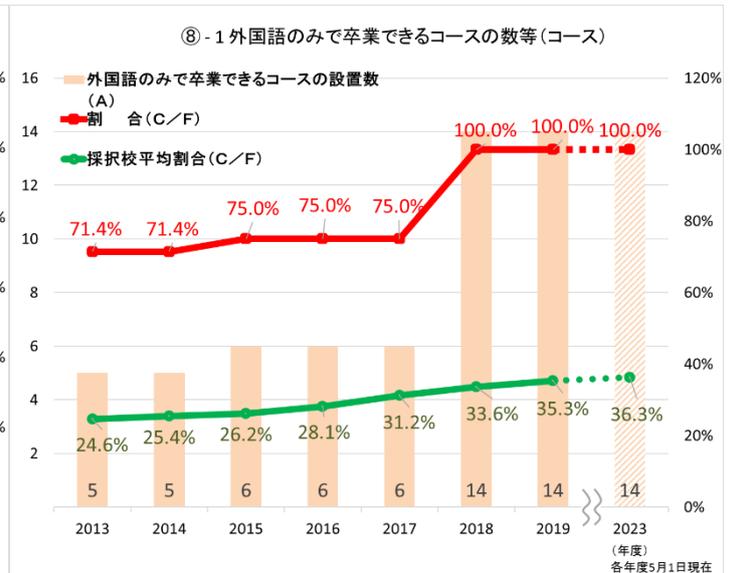
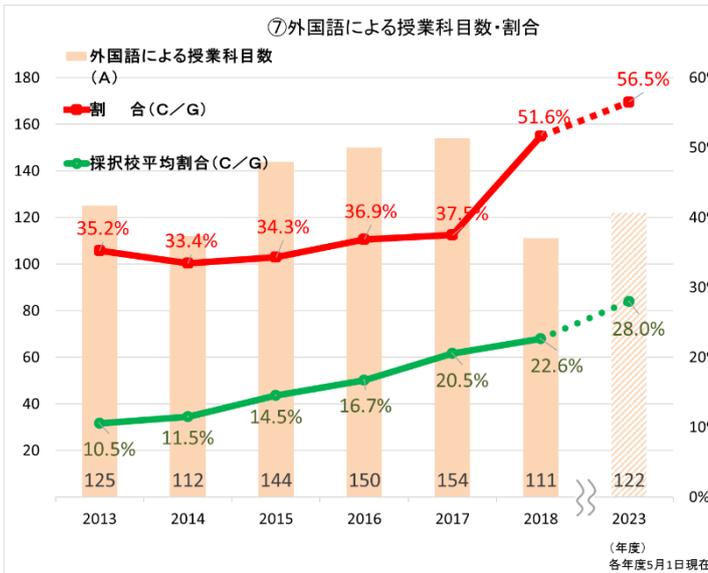
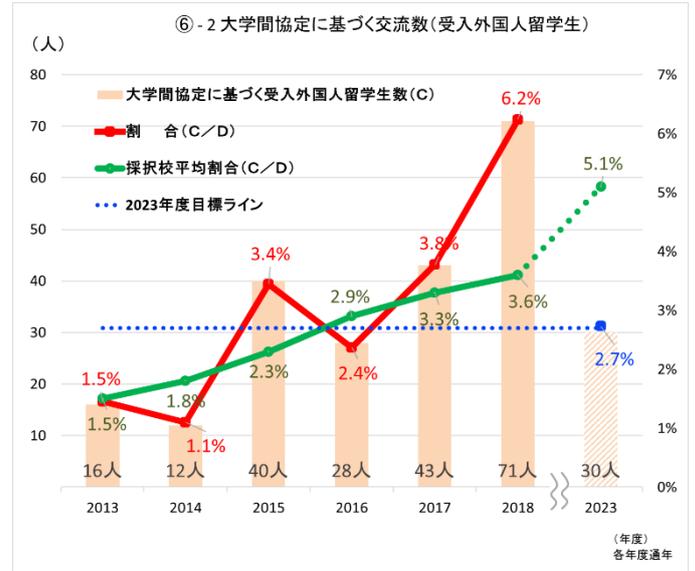
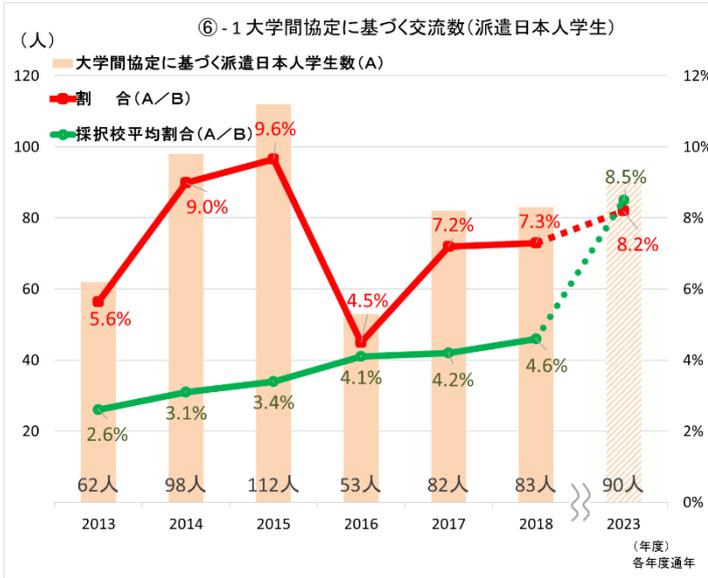
学生の語学レベル (⑨) については、着実に向上しており、外国語能力基準 (TOEIC スコア) を満たす学生数 37.0% (2019 年 5 月現在) は採択校平均値 23.5%を大きく上回っているが、最終年度の目標値 60.1% (採択校平均割合 51.2%) を達成するためには、大学院大学という特性を考慮しつつ、より一層の取り組みが必要である。

教員の国際化 (①) については、外国教員等の数は採択校平均値を上回っている。また、教員の年俸制 (⑭ - 1) についても、年俸制導入教員数は着実に増加している。事務職員については、外国能力基準 (TOEIC750 点以上) を満たす専任職員数は着実に増加しており、2019 年 5 月現在で 24.1%と高く、採択校平均値 17.4%を大きく上回っている。加えて、外国人職員等の数 (②) についても、着実に増加している。なお、事務職員の年俸制の導入 (⑭ - 2) の激減は、高度専門職系職員のキャリアパスを検討した結果、承継職員枠を使った月給制職員として制度設計を変更したためである。

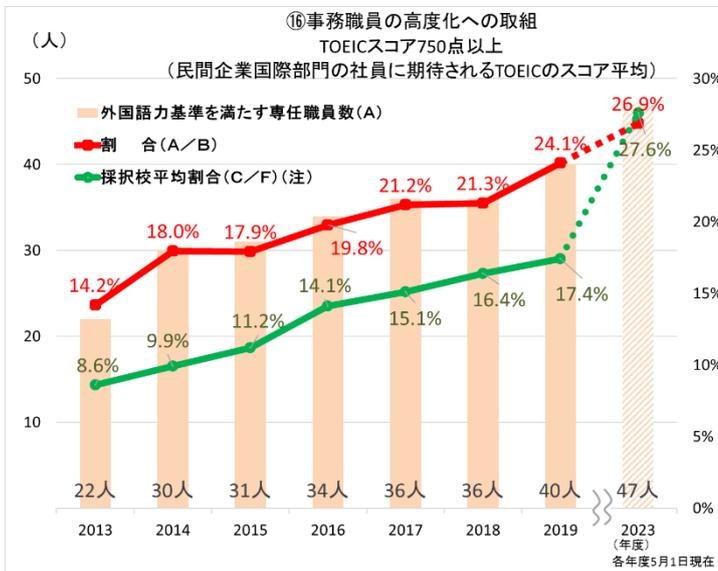
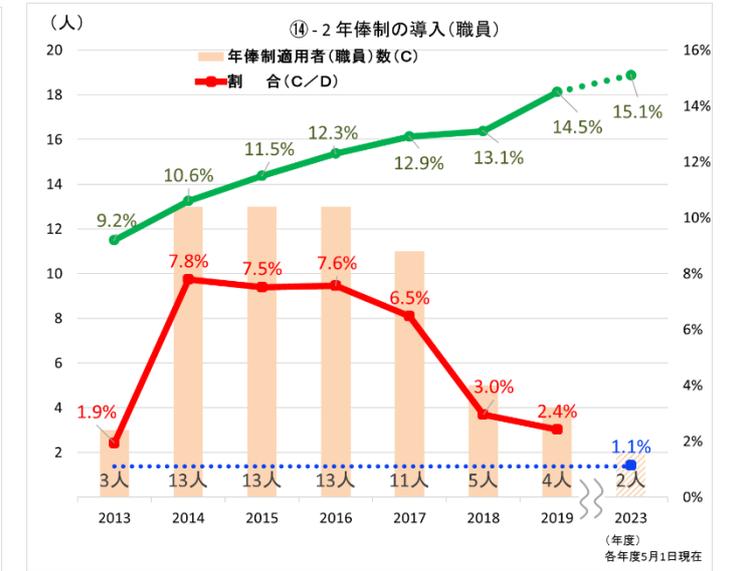
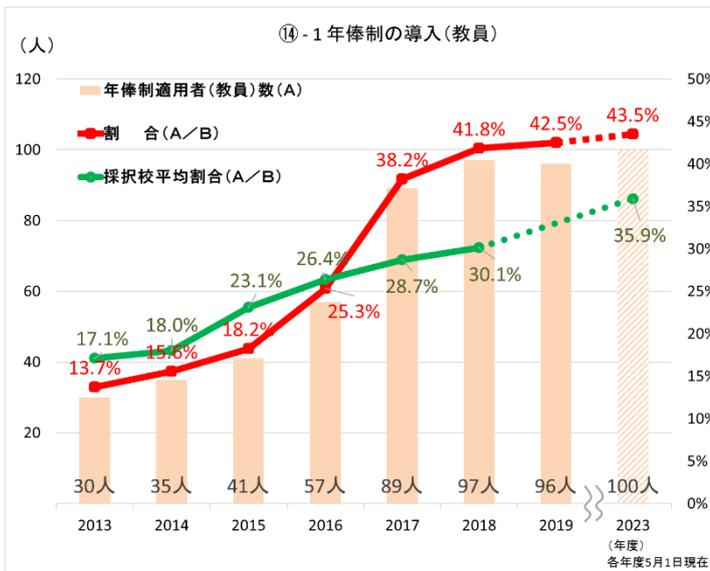
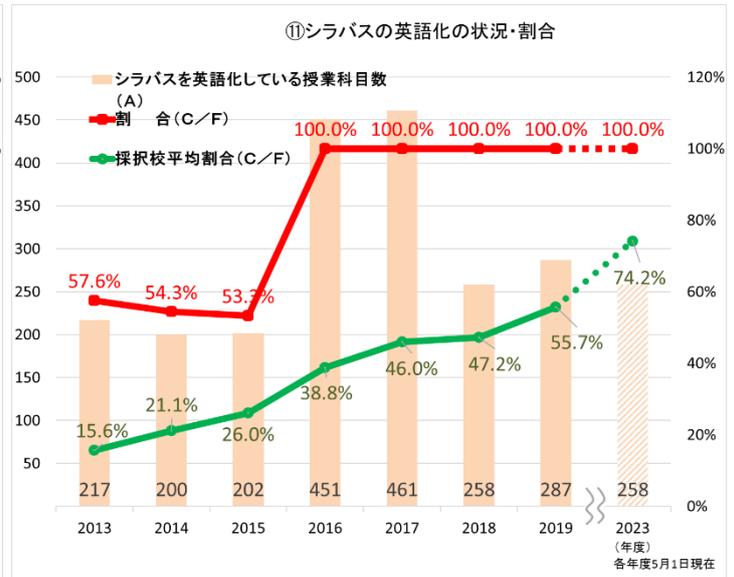
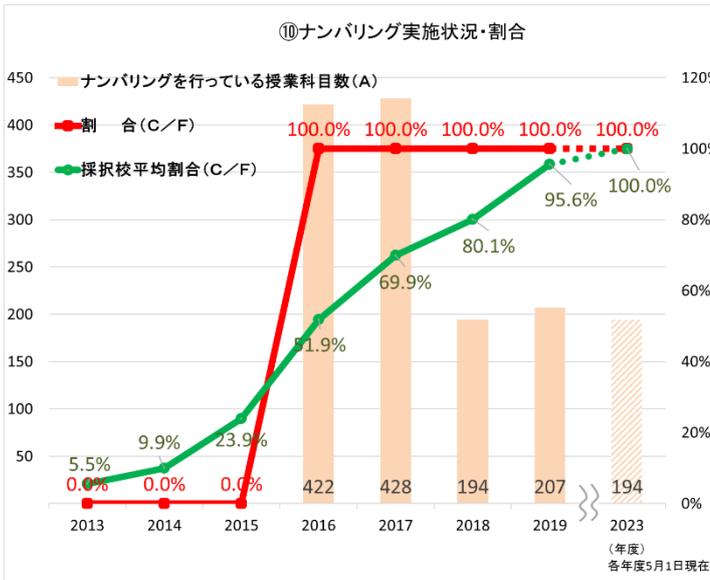
## II. 成果指標データからの達成状況分析



## II. 成果指標データからの達成状況分析



## II. 成果指標データからの達成状況分析



1. 国際化関連 (1) 多様性										
①教員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合										
	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)		平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	令和元年度 (R1.5.1)		令和5年度 (R5.5.1)
	実績値			目標値	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	目標値
外国人教員等(A)	72人	81人	88人	90人	115人	116人	125人	135人	129人	180人
うち外国籍教員	11人	13人	15人	13人	20人	23人	26人	16人	25人	20人
うち外国の大学で学位を取得した日本人教員	4人	3人	3人	5人	3人	3人	4人	7人	3人	12人
うち外国で通算1年以上3年未満の教育研究歴のある日本人教員	47人	49人	50人	60人	68人	59人	64人	96人	74人	117人
うち外国で通算3年以上の教育研究歴のある日本人教員	10人	16人	20人	12人	24人	31人	31人	16人	27人	31人
全専任教員数(B)	219人	225人	225人	225人	225人	233人	232人	225人	226人	225人
割合(A/B)	32.9%	36.0%	39.1%	40.0%	51.1%	49.8%	53.9%	60.0%	57.1%	80.0%
採択校平均割合	27.6%	28.5%	29.4%	33.4%	31.4%	33.0%	33.4%	39.8%	34.5%	47.4%

外国籍の教員、外国の大学で学位を取得した日本人教員、外国で1年以上または3年以上の教育研究歴のある日本人教員について、それぞれの数と全専任教員数を記入する。

1. 国際化関連 (1) 多様性										
②職員に占める外国人及び外国の大学で学位を取得した専任職員等の割合										
	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)		平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	令和元年度 (R1.5.1)		令和5年度 (R5.5.1)
	実績値			目標値	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	目標値
外国人職員等(A)	9人	11人	11人	15人	18人	17人	13人	18人	17人	22人
うち外国籍職員	1人	1人	0人	3人	1人	1人	1人	3人	1人	3人
うち外国の大学で学位を取得した日本人職員	3人	2人	3人	2人	4人	4人	2人	2人	3人	2人
うち外国で通算1年以上の職務・研修経験のある日本人職員	5人	8人	8人	10人	13人	12人	10人	13人	13人	17人
全専任職員数(B)	155人	167人	173人	175人	172人	170人	169人	175人	166人	175人
割合(A/B)	5.8%	6.6%	6.4%	8.6%	10.5%	10.0%	7.7%	10.3%	10.2%	12.6%
採択校平均割合	5.0%	5.5%	6.0%	6.7%	6.6%	6.7%	6.8%	8.8%	7.2%	12.1%

外国籍の職員、外国の大学で学位を取得した日本人職員、外国で1年以上の職務・研修経験のある日本人職員について、それぞれの数と全専任職員数を記入する。

1. 国際化関連 (1) 多様性										
④全学生に占める外国人留学生の割合										
	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)		平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	令和元年度 (R1.5.1)		令和5年度 (R5.5.1)
	実績値			目標値	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	目標値
外国人留学生数(A)	149人	161人	193人	210人	216人 (65人)	227人 (65人)	252人 (85人)	230人	282人 (93人)	255人
うち在留資格が「留学」の者 (うち女性)	144人	156人	188人	205人	214人 (63人)	229人 (64人)	250人 (85人)	225人	271人 (91人)	250人
うち在留資格が「留学」以外の者 (うち女性)	5人	5人	5人	5人	2人 (2人)	1人 (1人)	2人 (0人)	5人	11人 (2人)	5人
全学生数(B)	1,099人	1,091人	1,161人	1,099人	1,180人 (242人)	1,139人 (243人)	1,138人 (266人)	1,099人	1,131人 (269人)	1,099人
割合(A/B)	13.6%	14.8%	16.6%	19.1%	18.3%	19.9%	22.1%	20.9%	24.9%	23.2%
採択校平均割合(A/B)	6.5%	6.7%	7.1%	8.3%	7.7%	8.4%	9.1%	10.4%	9.8%	12.7%
	平成25年度 (通年)	平成26年度 (通年)	平成27年度 (通年)	平成28年度 (通年)		平成29年度 (通年)	平成30年度 (通年)	令和元年度 (通年)		令和5年度 (通年)
	実績値			目標値	実績値	実績値	実績値	目標値		
外国人留学生数(C)	201人	220人	259人	270人	286人 (83人)	337人 (93人)	364人 (121人)	300人	330人	
うち在留資格が「留学」の者 (うち女性)	193人	212人	244人	260人	282人 (82人)	314人 (87人)	346人 (116人)	290人	320人	
うち在留資格が「留学」以外の者 (うち女性)	8人	8人	15人	10人	4人 (1人)	23人 (6人)	18人 (5人)	10人	10人	
全学生数(D)	1,099人	1,091人	1,161人	1,099人	1,180人 (242人)	1,139人 (243人)	1,138人 (266人)	1,099人	1,099人	
割合(C/D)	18.3%	20.2%	22.3%	24.6%	24.2%	29.6%	32.0%	27.3%	30.0%	
採択校平均割合(C/D)	8.8%	9.7%	10.7%	11.4%	12.2%	13.3%	14.1%	14.7%	18.1%	

外国人留学生のうち、在留資格が「留学」の数に加え、「留学」の在留資格を有さない短期留学生等の数を記入する。

1. 国際化関連 (2)流動性									
①日本人学生に占める留学経験者の割合									
	平成25年度 (通年)	平成26年度 (通年)	平成27年度 (通年)	平成28年度 (通年)		平成29年度 (通年)	平成30年度 (通年)	令和元年度 (通年)	令和5年度 (通年)
	実績値			目標値	実績値	実績値	実績値	目標値	
単位取得を伴う海外留学経験者数(A) (うち女性)	34 人	32 人	55 人	45 人	36 人 (4 人)	54 人 (11 人)	46 人 (6 人)	75 人	100 人
うち学部(B) (うち女性)	－ 人	－ 人	－ 人	－ 人	－ 人 (－ 人)	－ 人 (－ 人)	－ 人 (－ 人)	－ 人	－ 人
うち大学院(C) (うち女性)	34 人	32 人	55 人	45 人	36 人 (4 人)	54 人 (11 人)	46 人 (6 人)	75 人	100 人
全学生数(D) (うち女性)	950 人	930 人	968 人	889 人	964 人 (162 人)	917 人 (178 人)	886 人 (181 人)	869 人	844 人
うち学部(E) (うち女性)	－ 人	－ 人	－ 人	－ 人	－ 人 (－ 人)	－ 人 (－ 人)	－ 人 (－ 人)	－ 人	－ 人
うち大学院(F) (うち女性)	950 人	930 人	968 人	889 人	964 人 (162 人)	917 人 (178 人)	886 人 (181 人)	869 人	844 人
割合(A/D)	3.6 %	3.4 %	5.7 %	5.1 %	3.7 %	5.9 %	5.2 %	8.6 %	11.8 %
割合(B/E)	－ %	－ %	－ %	－ %	－ %	－ %	－ %	－ %	－ %
割合(C/F)	3.6 %	3.4 %	5.7 %	5.1 %	3.7 %	5.9 %	5.2 %	8.6 %	11.8 %
採択校平均割合(C/F)	2.1 %	2.1 %	2.4 %	4.6 %	3.0 %	4.0 %	4.4 %	8.5 %	14.0 %
教員の指導の下、3ヶ月以上研究派遣された大学院生数(G)	8 人	13 人	21 人	15 人	11 人	10 人	17 人	20 人	35 人
割合(G/F)	0.8 %	1.4 %	2.2 %	1.7 %	1.1 %	1.1 %	1.9 %	2.3 %	4.1 %
採択校平均割合(G/F)	1.1 %	1.3 %	1.3 %	2.4 %	1.0 %	1.6 %	2.0 %	3.9 %	6.2 %

全学生数と、日本国籍を保有し正規課程に在籍する学生で、且つ、単位取得を伴う留学を経験した学生の数を記入する。留学期間は問わない。  
また、大学院生について、教員の指導の下、3ヶ月以上の研究派遣された学生の数を記入する。単位取得の有無は問わない。

1. 国際化関連 (2)流動性									
②大学間協定に基づく交流数									
	平成25年度 (通年)	平成26年度 (通年)	平成27年度 (通年)	平成28年度 (通年)		平成29年度 (通年)	平成30年度 (通年)	令和元年度 (通年)	令和5年度 (通年)
	実績値			目標値	実績値	実績値		目標値	
大学間協定に基づく派遣日本人学生数(A) (うち女性)	62 人	98 人	112 人	70 人	53 人 (7 人)	82 人 (17 人)	83 人 (16 人)	80 人	90 人
うち単位取得を伴う学部生数 (うち女性)	－ 人	－ 人	－ 人	－ 人	－ 人 (－ 人)	－ 人 (－ 人)	－ 人 (－ 人)	－ 人	－ 人
うち単位取得を伴わない学部生数 (うち女性)	－ 人	－ 人	－ 人	－ 人	－ 人 (－ 人)	－ 人 (－ 人)	－ 人 (－ 人)	－ 人	－ 人
うち単位取得を伴う大学院生数 (うち女性)	34 人	34 人	57 人	40 人	25 人 (2 人)	40 人 (8 人)	29 人 (3 人)	60 人	80 人
うち単位取得を伴わない大学院生数 (うち女性)	28 人	64 人	55 人	30 人	28 人 (5 人)	42 人 (9 人)	54 人 (13 人)	20 人	10 人
全学生数(B) (うち女性)	1,099 人	1,091 人	1,161 人	1,099 人	1,180 人 (242 人)	1,139 人 (243 人)	1,138 人 (266 人)	1,099 人	1,099 人
割合(A/B)	5.6 %	9.0 %	9.6 %	6.4 %	4.5 %	7.2 %	7.3 %	7.3 %	8.2 %
採択校平均割合(A/B)	2.6 %	3.1 %	3.4 %	3.8 %	4.1 %	4.2 %	4.6 %	5.9 %	8.5 %
大学間協定に基づく受入外国人留学生数(C) (うち女性)	16 人	12 人	40 人	20 人	28 人 (5 人)	43 人 (10 人)	71 人 (22 人)	25 人	30 人
うち単位取得を伴う学部生数 (うち女性)	－ 人	－ 人	－ 人	－ 人	－ 人 (－ 人)	2 人 (0 人)	0 人 (0 人)	－ 人	－ 人
うち単位取得を伴わない学部生数 (うち女性)	－ 人	－ 人	12 人	－ 人	9 人 (1 人)	5 人 (2 人)	13 人 (5 人)	－ 人	－ 人
うち単位取得を伴う大学院生数 (うち女性)	0 人	0 人	1 人	2 人	1 人 (0 人)	4 人 (0 人)	1 人 (1 人)	5 人	5 人
うち単位取得を伴わない大学院生数 (うち女性)	16 人	12 人	27 人	18 人	18 人 (4 人)	32 人 (8 人)	57 人 (16 人)	20 人	25 人
全学生数(D) (うち女性)	1,099 人	1,091 人	1,161 人	1,099 人	1,180 人 (242 人)	1,139 人 (243 人)	1,138 人 (266 人)	1,099 人	1,099 人
割合(C/D)	1.5 %	1.1 %	3.4 %	1.8 %	2.4 %	3.8 %	6.2 %	2.3 %	2.7 %
採択校平均割合(C/D)	1.5 %	1.8 %	2.3 %	2.3 %	2.9 %	3.3 %	3.6 %	3.6 %	5.1 %

外国の大学との連携・交流協定に基づき交流する／した学生数を記入する。  
また、日本人学生及び外国人留学生について、単位取得を伴う人数と、伴わない人数を学部生・大学院生別に記入する。

1. 国際化関連 (4) 語学力関係									
① 外国語による授業科目数・割合									
	平成25年度 (通年)	平成26年度 (通年)	平成27年度 (通年)	平成28年度 (通年)		平成29年度 (通年)	平成30年度 (通年)	令和元年度 (通年)	令和5年度 (通年)
	実績値			目標値	実績値	実績値		目標値	
外国語による授業科目数(A)	125 科目	112 科目	144 科目	140 科目	150 科目	154 科目	111 科目	104 科目	122 科目
うち学部(B)	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目
うち大学院(C)	125 科目	112 科目	144 科目	140 科目	150 科目	154 科目	111 科目	104 科目	122 科目
英語による授業科目数(D)	125 科目	112 科目	144 科目	140 科目	150 科目	154 科目	111 科目	104 科目	122 科目
うち学部	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目
うち大学院	125 科目	112 科目	144 科目	140 科目	150 科目	154 科目	111 科目	104 科目	122 科目
全授業科目数(E)	355 科目	335 科目	420 科目	355 科目	407 科目	411 科目	215 科目	216 科目	216 科目
うち学部(F)	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目
うち大学院(G)	355 科目	335 科目	420 科目	355 科目	407 科目	411 科目	215 科目	216 科目	216 科目
割合(A/E)	35.2 %	33.4 %	34.3 %	39.4 %	36.9 %	37.5 %	51.6 %	48.1 %	56.5 %
割合(B/F)	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %
割合(C/G)	35.2 %	33.4 %	34.3 %	39.4 %	36.9 %	37.5 %	51.6 %	48.1 %	56.5 %
採択校平均割合(C/G)	10.5 %	11.5 %	14.5 %	15.0 %	16.7 %	20.5 %	22.6 %	20.7 %	28.0 %
割合(D/E)	35.2 %	33.4 %	34.3 %	39.4 %	36.9 %	37.5 %	51.6 %	48.1 %	56.5 %

外国語及び英語による授業科目数と全授業科目数を記入する(語学としての授業を除く)。  
 なお、外国語(または英語)による授業科目とは、全授業を日本語ではなく外国語(または英語)で実施する授業科目とする。  
 また、同一の授業科目で複数セッションが設けられている場合は、それぞれ独立した授業科目として数に含める。

1. 国際化関連 (4) 語学力関係										
② 外国語のみで卒業できるコースの数等										
	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)		平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	令和元年度 (R1.5.1)	令和5年度 (R5.5.1)	
	実績値			目標値	実績値	実績値		目標値	実績値	目標値
外国語のみで卒業できるコースの設置数(A)	5 コース	5 コース	6 コース	8 コース	6 コース	6 コース	14 コース	14 コース	14 コース	14 コース
うち学部(B)	— コース	— コース	— コース	— コース	— コース	— コース	— コース	— コース	— コース	— コース
うち大学院(C)	5 コース	5 コース	6 コース	8 コース	6 コース	6 コース	14 コース	14 コース	14 コース	14 コース
全学位コースの設置数(D)	7 コース	7 コース	8 コース	10 コース	8 コース	8 コース	14 コース	14 コース	14 コース	14 コース
うち学部(E)	— コース	— コース	— コース	— コース	— コース	— コース	— コース	— コース	— コース	— コース
うち大学院(F)	7 コース	7 コース	8 コース	10 コース	8 コース	8 コース	14 コース	14 コース	14 コース	14 コース
割合(A/D)	71.4 %	71.4 %	75.0 %	80.0 %	75.0 %	75.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %
割合(B/E)	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %
割合(C/F)	71.4 %	71.4 %	75.0 %	80.0 %	75.0 %	75.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %
採択校平均割合(C/F)	24.6 %	25.4 %	26.2 %	27.0 %	28.1 %	31.2 %	33.6 %	32.3 %	35.3 %	36.3 %
外国語のみで卒業できるコースの在籍者数(G)	598 人	586 人	631 人	620 人	634 人	637 人	1,138 人	1,099 人	1,131 人	1,099 人
うち学部(H)	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人
うち大学院(I)	598 人	586 人	631 人	620 人	634 人	637 人	1,138 人	1,099 人	1,131 人	1,099 人
全学生数(J)	1,099 人	1,091 人	1,161 人	1,099 人	1,180 人	1,139 人	1,138 人	1,099 人	1,131 人	1,099 人
うち学部(K)	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人
うち大学院(L)	1,099 人	1,091 人	1,161 人	1,099 人	1,180 人	1,139 人	1,138 人	1,099 人	1,131 人	1,099 人
割合(G/J)	54.4 %	53.7 %	54.3 %	56.4 %	53.7 %	55.9 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %
割合(H/K)	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %
割合(I/L)	54.4 %	53.7 %	54.3 %	56.4 %	53.7 %	55.9 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %
採択校平均割合(I/L)	10.0 %	10.6 %	11.0 %	12.3 %	14.7 %	16.2 %	17.4 %	16.7 %	18.6 %	19.1 %

外国語のみで卒業できるコースの設置数、全学位コースの設置数、外国語のみで卒業できるコースの在籍者数及び全学生数を学部・大学院別に記入する。

1. 国際化関連 (4) 語学力関係									
④ 学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組									
外国語力基準	TOEICスコア 博士前期課程修了時 650点、博士後期課程修了時 750点								
	平成25年度 (H26.3.1)	平成26年度 (H27.3.1)	平成27年度 (H28.3.1)	平成28年度 (H29.3.1)		平成29年度 (H30.3.1)	平成30年度 (H31.3.1)	令和元年度 (R2.3.1)	令和5年度 (R6.3.1)
	実績値			目標値	実績値	実績値		目標値	
外国語力基準を満たす学生数(A)	228 人	221 人	246 人	440 人	277 人	351 人	421 人	660 人	660 人
うち学部(B)	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人
うち大学院(C)	228 人	221 人	246 人	440 人	277 人	351 人	421 人	660 人	660 人
全学生数(D)	1,099 人	1,091 人	1,161 人	1,099 人	1,180 人	1,139 人	1,138 人	1,099 人	1,099 人
うち学部(E)	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人	— 人
うち大学院(F)	1,099 人	1,091 人	1,161 人	1,099 人	1,180 人	1,139 人	1,138 人	1,099 人	1,099 人
割合(A/D)	20.7 %	20.3 %	21.2 %	40.0 %	23.5 %	30.8 %	37.0 %	60.1 %	60.1 %
割合(B/E)	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %
割合(C/F)	20.7 %	20.3 %	21.2 %	40.0 %	23.5 %	30.8 %	37.0 %	60.1 %	60.1 %
採択校平均割合(C/F)(注)	12.2 %	13.1 %	15.5 %	26.0 %	18.0 %	20.3 %	23.5 %	37.9 %	51.2 %

大学において定めた外国語力基準を記入するとともに、大学が定める時点において当該基準を満たす学生数、全学生数を学部・大学院別に記入する。  
 (注)本成果指標については各大学が任意で外国語力基準を定めているため本学の達成状況と採択校平均割合との単純比較はできない。

1. 国際化関連 (5) 教務システムの国際通用性										
① ナンバリング実施状況・割合										
	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)		平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	令和元年度 (R1.5.1)	令和5年度 (R5.5.1)	
	実績値			目標値	実績値	実績値		目標値	実績値	目標値
ナンバリングを行っている授業科目数(A)	0 科目	0 科目	0 科目	377 科目	422 科目	428 科目	194 科目	194 科目	207 科目	194 科目
うち学部(B)	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目
うち大学院(C)	0 科目	0 科目	0 科目	377 科目	422 科目	428 科目	194 科目	194 科目	207 科目	194 科目
全授業科目数(D)	377 科目	368 科目	379 科目	377 科目	422 科目	428 科目	194 科目	194 科目	207 科目	194 科目
うち学部(E)	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目
うち大学院(F)	377 科目	368 科目	379 科目	377 科目	422 科目	428 科目	194 科目	194 科目	207 科目	194 科目
割合(A/D)	0.0 %	0.0 %	0.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %
割合(B/E)	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %
割合(C/F)	0.0 %	0.0 %	0.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %
採択校平均割合(C/F)	5.5 %	9.9 %	23.9 %	68.4 %	51.9 %	69.9 %	80.1 %	96.4 %	95.6 %	100.0 %

ナンバリングを行っている授業科目数及び全授業科目数を学部・大学院別に記入する。

1. 国際化関連 (5) 教務システムの国際通用性										
③ シラバスの英語化の状況・割合										
	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)		平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	令和元年度 (R1.5.1)	令和5年度 (R5.5.1)	
	実績値			目標値	実績値	実績値		目標値	実績値	目標値
シラバスを英語化している授業科目数(A)	217 科目	200 科目	202 科目	377 科目	451 科目	461 科目	258 科目	258 科目	287 科目	258 科目
うち学部(B)	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目
うち大学院(C)	217 科目	200 科目	202 科目	377 科目	451 科目	461 科目	258 科目	258 科目	287 科目	258 科目
全授業科目数(D)	377 科目	368 科目	379 科目	377 科目	451 科目	461 科目	258 科目	258 科目	287 科目	258 科目
うち学部(E)	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目
うち大学院(F)	377 科目	368 科目	379 科目	377 科目	451 科目	461 科目	258 科目	258 科目	287 科目	258 科目
割合(A/D)	57.6 %	54.3 %	53.3 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %
割合(B/E)	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %
割合(C/F)	57.6 %	54.3 %	53.3 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %
採択校平均割合(C/F)	15.6 %	21.1 %	26.0 %	47.7 %	38.8 %	46.0 %	47.2 %	66.9 %	55.7 %	74.2 %

シラバスを英語化している授業科目数及び全授業科目数を学部・大学院別に記入する。  
 なお、同一の授業科目で複数セクションが設けられている場合、それぞれ独立した授業科目として数に含める。

2. ガバナンス改革関連 (1)人事システム										
①年俸制の導入										
	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)		平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	令和元年度 (R1.5.1)		令和5年度 (R5.5.1)
	実績値			目標値	実績値	実績値		目標値	実績値	目標値
年俸制適用者(教員)数(A)	30 人	35 人	41 人	36 人	57 人	89 人	97 人	92 人	96 人	100 人
全専任教員数(B)	219 人	225 人	225 人	225 人	225 人	233 人	232 人	230 人	226 人	230 人
割合(A/B)	13.7 %	15.6 %	18.2 %	16.0 %	25.3 %	38.2 %	41.8 %	40.0 %	42.5 %	43.5 %
採択校平均割合(A/B)	17.1 %	18.0 %	23.1 %	25.8 %	26.4 %	28.7 %	30.1 %	31.7 %	%	35.9 %
年俸制適用者(職員)数(C)	3 人	13 人	13 人	21 人	13 人	11 人	5 人	2 人	4 人	2 人
全専任職員数(D)	155 人	167 人	173 人	175 人	172 人	170 人	169 人	175 人	166 人	175 人
割合(C/D)	1.9 %	7.8 %	7.5 %	12.0 %	7.6 %	6.5 %	3.0 %	1.1 %	2.4 %	1.1 %
採択校平均割合(C/D)	9.2 %	10.6 %	11.5 %	11.0 %	12.3 %	12.9 %	13.1 %	12.2 %	14.5 %	15.1 %

教員及び職員について、年俸制適用者数(教員・職員別)、全専任教員数及び全専任職員数を記入する。

2. ガバナンス改革関連 (2)ガバナンス										
①事務職員の高度化への取組										
外国語力基準	TOEICスコア750点以上 (民間企業国際部門の社員に期待されるTOEICのスコア平均)									
	平成25年度 (H25.5.1)	平成26年度 (H26.5.1)	平成27年度 (H27.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)		平成29年度 (H29.5.1)	平成30年度 (H30.5.1)	令和元年度 (R1.5.1)		令和5年度 (R5.5.1)
	実績値			目標値	実績値	実績値		目標値	実績値	目標値
外国語力基準を満たす専任職員数(A)	22 人	30 人	31 人	30 人	34 人	36 人	36 人	38 人	40 人	47 人
全専任職員数(B)	155 人	167 人	173 人	175 人	172 人	170 人	169 人	175 人	166 人	175 人
割合(A/B)	14.2 %	18.0 %	17.9 %	17.1 %	19.8 %	21.2 %	21.3 %	21.7 %	24.1 %	26.9 %
採択校平均割合(C/F)(注)	8.6 %	9.9 %	11.2 %	14.3 %	14.1 %	15.1 %	16.4 %	20.0 %	17.4 %	27.6 %

大学において定めた外国語力基準を記入するとともに、当該基準を満たす専任職員数を記入する。

(注)本成果指標については各大学が任意で外国語力基準を定めているため本学の達成状況と採択校平均割合との単純比較はできない。

Ⅲ. 資料編

3. 経費(補助金)の使用状況

構想調書及び実績報告書に基づき、平成26～30年度の経費の使用状況を記載

＜平成26年度＞【1ページ】				(単位:千円)
経費区分	補助金額 (a)	大学負担額 (b)	支出実績 (a+b)	備考
<b>【物品費】</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
①設備備品費	0	0	0	
・			0	
・			0	
・			0	
②消耗品費	0	0	0	
・			0	
・			0	
・			0	
<b>【人件費・謝金】</b>	<b>25,333</b>	<b>0</b>	<b>25,333</b>	
①人件費	23,685	0	23,685	
・UEA(国際展開担当(常勤職員))2名分	7,483		7,483	
・国際連携コーディネーター(常勤職員)	2,212		2,212	
・国際展開支援要員(非常勤職員(時間雇用))	518		518	
・UEA(キャリア支援担当(常勤職員))	3,837		3,837	
・外国人英語講師(常勤職員)3名分	9,635		9,635	
②謝金	1,648	0	1,648	
・日本語講師謝金	1,348		1,348	
・スーパーグローバル大学創成支援事業シンポジウム講演謝金	300		300	
			0	
<b>【旅費】</b>	<b>5,211</b>	<b>0</b>	<b>5,211</b>	
・教育推進機構設置のための国内大学の調査等	36		36	
・スーパーグローバルセミナー等旅費(国内旅費・延べ6件)	130		130	
・平成26年度海外SD研修旅費	468		468	
・海外学術交流協定校への調査等	1,092		1,092	
・スーパーグローバル大学創成支援事業キックオフシンポジウム等招聘旅費	3,485		3,485	
			0	
			0	
			0	
<b>【その他】</b>	<b>14,966</b>	<b>0</b>	<b>14,966</b>	
①外注費	13,132	0	13,132	
・TOEIC受験料(学生・職員)	1,779		1,779	
・海外SD研修プログラム参加費	417		417	
・スーパーグローバル大学創成支援事業Webサイト制作業務	915		915	
・スーパーグローバル大学創成支援事業キックオフシンポジウム準備・運営業務一式	2,121		2,121	
・米国Science誌「スーパーグローバル～特集」記事広告	2,152		2,152	
・学内文書英訳外注費	5,748		5,748	
②印刷製本費	664	0	664	
・英語版大学ガイドブック	664		664	
			0	
③会議費	435	0	435	
・会議費(スーパーグローバル大学創成支援事業キックオフシンポジウムレセプション等)	435		435	
④通信運搬費	3	0	3	
・シンポジウム使用ポスター返送料	3		3	
・			0	
⑤光熱水料	0	0	0	
⑥その他(諸経費)	732	0	732	
・キックオフシンポジウム設営用テーブル 外	294		294	
・外国送金手数料(海外SD研修)	6			
・第2回 Go Global Japan Expo 参加費	432			
			0	
平成26年度 合計	45,510	0	45,510	

＜参考＞構想調書上の事業規模(単位:千円)	補助金申請額 (a)	大学負担額 (b)	事業規模 (a+b)
	68,340	25,760	94,100

### Ⅲ. 資料編

#### 3. 経費(補助金)の使用状況

構想調書及び実績報告書に基づき、平成26～30年度の経費の使用状況を記載

＜平成27年度＞【1ページ】				(単位:千円)
経費区分	補助金額 (a)	大学負担額 (b)	支出実績 (a+b)	備考
<b>【物品費】</b>	<b>1,148</b>	<b>0</b>	<b>1,148</b>	
①設備備品費	353	0	353	
・(PC)パソコン HP ENVY 750-170jp/CT 日本HP 1式	353		353	
②消耗品費	795	0	795	
・日本語教育教材(できる日本語 初級本冊)	99		99	
・日本語教育副教材(MISJ初級(welcome)講座教材)	548		548	
・スピーカ(設備備品購入パソコン付属品)	5		5	
・事務用封筒(本学ロゴマーク有り)1000枚入り	143		143	
<b>【人件費・謝金】</b>	<b>53,149</b>	<b>0</b>	<b>53,149</b>	
①人件費	51,886	0	51,886	
・UEA(国際展開担当(常勤職員))2名分	13,077		13,077	
・国際連携コーディネーター(常勤職員)	4,452		4,452	
・UEA支援要員(非常勤職員(時間雇用))	1,739		1,739	
・UEA(キャリア支援担当(常勤職員))	7,680		7,680	
・UEA支援要員(非常勤職員(時間雇用))2名分	2,184		2,184	
・CISSスタッフ	1,124		1,124	
・外国人英語講師(常勤職員)3名分	21,342		21,342	
・日本語非常勤講師手当	288		288	
②謝金	1,263	0	1,263	
・日本語講師謝金	900		900	
・スーパーグローバルパンフレット原稿校閲・校正	333		333	
・スーパーグローバル創成支援事業シンポジウム講演謝金	30		30	
<b>【旅費】</b>	<b>20,945</b>	<b>0</b>	<b>20,945</b>	
・非常勤講師旅費(日本語教育)	262		262	
・スーパーグローバルセミナー等旅費(国内旅費・延べ15件)	690		690	
・平成27年度海外FD・SD研修旅費(事前打合せ含む)	3,780		3,780	
・ダブルディグリー調印式(Unitec、エコル・リテック)	2,021		2,021	
・平成27年日本留学フェア(タイ・ベトナム・マレーシア)	3,025		3,025	
・日本留学説明会(東北師範大学中国赴日予備校)	973		973	
・インドネシア拠点設置についての協議	1,610		1,610	
・協定校訪問・NAFSA・APAIE打合せ	5,548		5,548	
・第2回スーパーグローバルシンポジウム旅費	3,036		3,036	
<b>【その他】</b>	<b>14,245</b>	<b>0</b>	<b>14,245</b>	
①外注費	9,002	0	9,002	
・TOEIC受験料(学生・職員)	4,573		4,573	
・海外FD研修/海外SD研修プログラム参加費	2,329		2,329	
・職員英語研修実施費	960		960	
・日本語教育eラーニング年間ライセンス費用	180		180	
・英語版ガイドブック写真撮影料	16		16	
・スーパーグローバルシンポジウム同時通訳等業務	944		944	
②印刷製本費	2,134	0	2,134	
・英語版大学ガイドブック/研究科紹介	1,723		1,723	
・スーパーグローバルシンポジウムプログラム等作成費	411		411	
③会議費	0	0	0	
④通信運搬費	19	0	19	
・日本留学フェア資料発送(タイ/ベトナム/マレーシア)	19		19	
⑤光熱水料	0	0	0	
⑥その他(諸経費)	3,090	0	3,090	
・NAFSA/Go Global Japan Expo/APAIE参加費	874		874	
・営業広告掲載料(SGUシンポジウム)産経新聞 京都版	162		162	
・CMS移行作業費用(英語サイト)	1,499		1,499	
・日本留学フェア機関負担分(タイ/ベトナム/マレーシア)	555		555	
平成27年度 合計	89,487	0	89,487	

＜参考＞構想調書上の事業規模(単位:千円)	補助金申請額 (a)	大学負担額 (b)	事業規模 (a+b)
	194,540	42,900	237,440

Ⅲ. 資料編

3. 経費(補助金)の使用状況

構想調書及び実績報告書に基づき、平成26～30年度の経費の使用状況を記載

＜平成28年度＞【1ページ】				(単位:千円)
経費区分	補助金額 (a)	大学負担額 (b)	支出実績 (a+b)	備考
<b>【物品費】</b>	<b>602</b>	<b>0</b>	<b>602</b>	
①設備備品費	0	0	0	
・			0	
②消耗品費	602	0	602	
・日本語教育教材(できる日本語 初級本冊)	99		99	
・日本語教育eラーニング副教材(MISJ初級 welcome)	456		456	
・日本語教育副教材(漢字たまご)	47		47	
<b>【人件費・謝金】</b>	<b>69,307</b>	<b>0</b>	<b>69,307</b>	
①人件費	68,287	0	68,287	
・UEA(カリキュラム担当(常勤職員))2名分	10,338		10,338	
・UEA支援要員(非常勤職員(時間雇用))	1,758		1,758	
・UEA(国際展開担当(常勤職員))2名分	14,535		14,535	
・国際連携コーディネーター(常勤職員)	4,373		4,373	
・UEA支援要員(非常勤職員(時間雇用))	1,919		1,919	
・UEA(キャリア支援担当(常勤職員))2名分	13,149		13,149	
・UEA支援要員(非常勤職員(時間雇用))2名分	1,967		1,967	
・外国人英語講師(常勤職員)3名分	19,563		19,563	
・日本語非常勤講師手当	577		577	
・日本文化入門TA経費	108		108	
②謝金	1,020	0	1,020	
・日本語講師謝金	900		900	
・日本文化入門講師謝金	120		120	
<b>【旅費】</b>	<b>10,932</b>	<b>0</b>	<b>10,932</b>	
・非常勤講師旅費(日本語教育)	298		298	
・平成27年度海外FD・SD研修旅費(事前打合せ含む)	3,559		3,559	
・海外オフィス開所式・コラボレーションセンター開所式 外	1,844		1,844	
・平成27年日本留学フェア(タイ・ベトナム・マレーシア)	2,811		2,811	
・国費留学生候補者向け留学説明会参加(北京外国語大学)	809		809	
・協定校訪問・NAFSA・APAIE打合せ	1,611		1,611	
<b>【その他】</b>	<b>13,659</b>	<b>0</b>	<b>13,659</b>	
①外注費	11,671	0	11,671	
・TOEIC受験料(学生・職員)	3,935		3,935	
・海外FD研修/海外SD研修プログラム参加費	2,030		2,030	
・職員英語研修実施費	900		900	
・日本語教育eラーニング年間ライセンス費用	360		360	
・日本文化入門フィールドトリップバス借上げ料	49		49	
・HPリニューアル費用	1,611		1,611	
・英語版ガイドブック写真撮影料	49		49	
・規約の英語翻訳	2,737		2,737	
②印刷製本費	1,038	0	1,038	
・英語版大学ガイドブック/研究科紹介	1,038		1,038	
③会議費	0	0	0	
・			0	
④通信運搬費	32	0	32	
・日本留学フェア資料発送(タイ/ベトナム/マレーシア)	32		32	
⑤光熱水料	0	0	0	
・			0	
⑥その他(諸経費)	918	0	918	
・NAFSA/APAIE参加費	394		394	
・外国送金手数料(海外FD研修/海外SD研修)	18		18	
・日本留学フェア機関負担分(タイ/ベトナム/マレーシア)	506		506	
<b>平成28年度 合計</b>	<b>94,500</b>	<b>0</b>	<b>94,500</b>	

＜参考＞構想調書上の事業規模(単位:千円)	補助金申請額 (a)	大学負担額 (b)	事業規模 (a+b)
	199,840	50,900	250,740

Ⅲ. 資料編

3. 経費(補助金)の使用状況

構想調書及び実績報告書に基づき、平成26～30年度の経費の使用状況を記載

＜平成29年度＞【1ページ】				(単位:千円)
経費区分	補助金額 (a)	大学負担額 (b)	支出実績 (a+b)	備考
<b>【物品費】</b>	<b>34</b>	<b>0</b>	<b>34</b>	
①設備品費	0	0	0	
・			0	
②消耗品費	34	0	34	
・タイオフィスシンポジウム名札ケース	4		4	
・タイオフィスシンポジウム証書ホルダー	8		8	
・タイオフィスシンポジウム看板	22		22	
<b>【人件費・謝金】</b>	<b>71,372</b>	<b>8,296</b>	<b>79,668</b>	
①人件費	69,322	7,612	76,934	
・UEA(カリキュラム担当(常勤職員))2名分	7,447	6,727	14,174	
・UEA支援要員(非常勤職員(時間雇用))	885	885	1,770	
・UEA(国際展開担当(常勤職員))2名分	13,353		13,353	
・国際連携コーディネーター(常勤職員)	4,570		4,570	
・UEA支援要員(非常勤職員(時間雇用))	1,938		1,938	
・UEA(キャリア支援担当(常勤職員))2名分	14,391		14,391	
・UEA支援要員(非常勤職員(時間雇用))2名分	2,174		2,174	
・外国人英語講師(常勤職員)3名分	23,603		23,603	
・日本語・日本文化入門非常勤講師手当	757		757	
・留学生キャリア支援非常勤講師手当	204		204	
②謝金	2,050	684	2,734	
・チューター謝金	1,030	684	1,714	
・日本語・日本文化入門講師謝金	1,020		1,020	
<b>【旅費】</b>	<b>11,576</b>	<b>0</b>	<b>11,576</b>	
・非常勤講師旅費(日本語教育)	318		318	
・国内企業訪問旅費	73		73	
・海外FD・SD研修旅費	2,515		2,515	
・海外企業訪問	301		301	
・海外オフィス開所式の整備及び活動旅費	962		962	
・日本留学フェア参加旅費(タイ/ベトナム/インドネシア/マレーシア)	3,602		3,602	
・国費留学生候補者向け留学説明会参加(北京)	973		973	
・協定校訪問等	2,832		2,832	
<b>【その他】</b>	<b>10,043</b>	<b>0</b>	<b>10,043</b>	
①外注費	7,215	0	7,215	
・TOEIC受験料(学生・職員)	4,194		4,194	
・海外FD研修/海外SD研修プログラム参加費	1,678		1,678	
・職員英語研修実施費	847		847	
・日本語教育e-ラーニング年間ライセンス費用	360		360	
・日本文化入門フィールドトリップバス借り上げ料	49		49	
・ホームページ掲載用研究科統一告知サイト(英語版)	87		87	
②印刷製本費	1,302	0	1,302	
・英語版大学ガイドブック/研究科紹介	1,216		1,216	
・1研究科告知のパンフレット英語版	86		86	
・			0	
③会議費	0	0	0	
・			0	
④通信運搬費	75	0	75	
・日本留学フェア資料発送(タイ/ベトナム/インドネシア/マレーシア)	75		75	
・			0	
・			0	
⑤光熱水料	0	0	0	
・			0	
⑥その他(諸経費)	1,451	0	1,451	
・タイオフィススクォアシンポジウム会場借料	711		711	
・外国送金手数料(海外FD研修/海外SD研修)	12		12	
・日本留学フェア機関負担分(タイ/ベトナム/インドネシア/マレーシア)	728		728	
平成29年度 合計	93,025	8,296	101,321	

＜参考＞構想調書上の事業規模(単位:千円)	補助金申請額 (a)	大学負担額 (b)	事業規模 (a+b)
	199,140	50,900	250,040

### Ⅲ. 資料編

#### 3. 経費(補助金)の使用状況

構想調書及び実績報告書に基づき、平成26～30年度の経費の使用状況を記載

＜平成30年度＞【1ページ】				(単位:千円)
経費区分	補助金額 (a)	大学負担額 (b)	支出実績 (a+b)	備考
<b>【物品費】</b>	<b>81</b>	<b>0</b>	<b>81</b>	
①設備品費	0	0	0	
・			0	
②消耗品費	81	0	81	
・国際郵送事務用封筒	81		81	
・			0	
<b>【人件費・謝金】</b>	<b>29,730</b>	<b>41,944</b>	<b>71,674</b>	
①人件費	28,830	41,944	70,774	
・UEA(カリキュラム担当(常勤職員))2名分		14,231	14,231	
・UEA支援要員(非常勤職員(時間雇用))		1,739	1,739	
・UEA支援要員(非常勤職員(時間雇用))		1,629	1,629	
・UEA(国際展開担当(常勤職員))1名分	4,147		4,147	
・UEA支援要員(非常勤職員(時間雇用))	900		900	
・UEA支援要員(非常勤職員(時間雇用))	1,841		1,841	
・UEA(キャリア支援担当(常勤職員))2名分		12,838	12,838	
・UEA支援要員(非常勤職員(時間雇用))		1,809	1,809	
・CISSスタッフ(研究技術員)		5,842	5,842	
・CISS支援要員(非常勤職員(時間雇用))		1,721	1,721	
・外国人英語講師(常勤職員)3名分	20,314		20,314	
・日本語非常勤講師手当	577		577	
・UEA(留学生・外国人研究者支援担当)	1,051		1,051	
・客員教授(キャリア支援担当)		2,135	2,135	
・UEA支援要員(非常勤職員(時間雇用))			0	
・UEA支援要員(非常勤職員(時間雇用))			0	
②謝金	900	0	900	
・日本語講師謝金	900		900	
<b>【旅費】</b>	<b>9,087</b>	<b>0</b>	<b>9,087</b>	
・非常勤講師旅費(日本語教育)	300		300	
・海外FD・SD研修旅費	2,497		2,497	
・国費留学生候補者向け留学説明会参加(中国・タイ)	1,978		1,978	
・日本留学フェア(タイ/インドネシア)	1,214		1,214	
・協定校学生募集活動(フィリピン/ベトナム)	1,797		1,797	
・NAISTコラボレーションオフィス、インドネシアオフィスの検証活動	1,001		1,001	
・海外インターンシップ受入企業の開拓	300		300	
<b>【その他】</b>	<b>10,316</b>	<b>0</b>	<b>10,316</b>	
①外注費	7,302	0	7,302	
・TOEIC受験料(学生・職員)	4,494		4,494	
・海外FD研修/海外SD研修プログラム参加費	1,593		1,593	
・職員英語研修実施費	855		855	
・日本語教育e-ラーニング年間ライセンス費用	360		360	
・			0	
②印刷製本費	1,887	0	1,887	
・英語版大学ガイドブック/研究科紹介	1,887		1,887	
・			0	
③会議費	0	0	0	
・			0	
④通信運搬費	89	0	89	
・日本留学フェア資料発送(タイ/インドネシア)	89		89	
・			0	
⑤光熱水料	0	0	0	
・			0	
⑥その他(諸経費)	1,038	0	1,038	
・日本留学フェア(タイ/インドネシア)会場借料等	375		375	
・国際ビジネスコミュニケーション協会 賛助会年会費	103		103	
・海外SD研修ホームステイ費用	143		143	
・外国送金手数料(海外FD・SD研修・ホームステイ費用)	18		18	
・規程等の英語翻訳	399		399	
<b>平成30年度 合計</b>	<b>49,214</b>	<b>41,944</b>	<b>91,158</b>	

＜参考＞構想調書上の事業規模(単位:千円)	補助金申請額 (a)	大学負担額 (b)	事業規模 (a+b)
	199,940	50,900	250,840

## 1. 構想の概要

### 【構想の名称】

先端科学技術を担うグローバルリーダー育成のための世界水準の大学院大学の構築

### 【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】

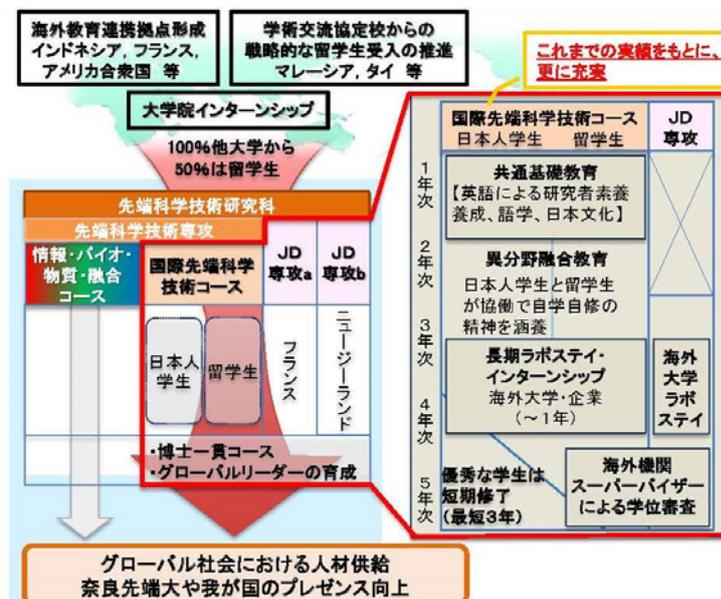
本学は、先端科学技術分野で世界を先導する研究の推進と、世界の将来を担うグローバルリーダーの育成において、世界に確かな存在感を示し、世界から高く評価される大学を目指す。「NAIST Global<sup>3</sup>」(※)を旗印に、グローバルリーダー育成のための国際コースの拡充と整備、世界トップ水準の研究力にもとづく大学院教育の実践とモデルシステム開発、異分野融合教育の展開と異文化混在のグローバル キャンパスの拡充を推進していく。

(※) NAIST Global<sup>3</sup> (ナイストグローバルキューブド) : cultivating Global leaders through Global standard graduate education on a Global campus



### 【構想の概要】

先端科学技術の基盤となる情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学の3分野において、世界トップ水準の研究力に基づく大学院教育の実践とモデルシステム開発をすすめる。新たな1研究科体制において、従来、3研究科で行っていた区分制の博士前期・後期課程教育を、情報科学・バイオサイエンス・物質創成科学・融合領域コースに発展的に再編する。また、現行の博士5年一貫コースと国際コースを統合して、異文化・異文化混在の環境で教育を行う、5年制の国際先端科学技術コースを設置する。さらに、同コースの一部として、海外大学とのジョイントディグリー専攻を設置する。世界レベルの大学院教育を提供し続けるために、教職員の海外研修を継続・充実させ、教育研究体制のグローバル化を推進する。また、留学生・外国人研究者支援センターを設置し、多様な文化を背景に持つ者が、お互いに尊重して生き生きと暮らせるキャンパスを実現させる。



【10年間の計画概要】

●海外サテライト研究室・オフィスの設置

東南アジア(インドネシア)、北米(アメリカ・カリフォルニア)、そして欧州(フランス)に、海外教育および研究拠点を置き、留学生などの受け入れや就職支援、教育研究連携の支援業務を行うほか、周辺諸国でも活動する。

●日本語教育の実施

全学教育科目として日本語語学科目や「日本文化入門」を、カリキュラムに導入する。また、日本語の会話パートナーなどチューター制度やホストファミリー制度、そして文化活動行事への参加を通し、留学生の日本語習得や日本社会に対する理解を促進する。日系企業へ就職を希望する留学生のための就職ガイダンスを開催する。

●1研究科1専攻体制の設置

研究科の枠を超えた教育指導を可能にし、社会、時代の要請にあった融合領域や新しい研究分野への挑戦を容易にするため、現在の3研究科を1研究科に改組する。また、国際先端科学技術コースを設置する。

●ジョイントディグリープログラムの実施

これまでのダブルディグリープログラムを継続・強化するとともに、5年一貫の国際先端科学技術コース内に、海外大学とのジョイントディグリー専攻を設置する。また、海外留学・海外インターンシップを義務づける。

●学内の英語化

1研究科体制においては、全てのコースで英語のみで学位取得を可能とする。また、学内規則や文書のみならず、食堂メニューなどの英語化も進める。

●UEAの設置

UEA(エデュケーション・アドミニストレーター)を設置し、組織的なカリキュラム編成および国内外の教育機関・企業との連携の開拓・実質化ならびに一貫したキャリア支援などを行う。

●留学生・外国人研究者支援センターの設置

異文化混在グローバルキャンパスを作るため、地域との連携により教育研究の徹底したグローバル化と生活支援を推進できる体制を整える。

【特徴的な取組(国際化、ガバナンス改革、教育改革等)】

学部を置かない大学院大学の強みを生かし、研究科の枠を超えた教育プログラムを展開し、世界と未来の問題解決に貢献する「代わるものがない」大学として、世界の科学技術の進展やイノベーション創出を担うグローバル人材育成のための大学院教育モデルを示していくとともに、融合領域や新しい研究分野へ挑戦し続けることで、時代と社会の要請にダイナミックに応えていく。そのために、教育研究の計画と実績について自己評価し、問題のあるところを常に強化していくというPDCAサイクルにもとづく大学運営を行うための組織体制を構築した。この体制のもと、学長直下に設置した戦略企画本部が大学の将来像を明確に示し、学長のリーダーシップを強力に支えることにより、調査分析・評価等による活動内容と効果の恒常的な見直しを行いつつ、10年、20年後を見据えた教育研究機能の強化・充実を進めていく。

準備・検討	組織・体制整備								実践・改善	
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度		34年度
海外サテライト研究室の設置										
海外オフィス設置先の検討・開設準備		海外オフィスの設置			海外オフィスの活動状況評価					
日本語教育のトライアル			日本語教育の実施							
ダブルディグリープログラムの実施										
ジョイントディグリープログラムの検討開始		ジョイントディグリー専攻設置準備	ジョイントディグリープログラムの設置審査		ジョイントディグリープログラムの学生受け入れ					
年俸制導入の検討、制度設計		若手教員への年俸制導入								
教員評価制度の検討					1研究科1専攻体制のための大学設置審査					
1研究科1専攻に係る協議						1研究科1専攻での学生受け入れ				
英語化すべき学内規則・文書等の検討		学則以下大学諸規定の英語化		学内通知・教授会資料等の英語化						
UEAの配置										
			UEAのキャリアパス検討		UEAのキャリアパス確定					
			戦略企画室の設置							
			教育推進機構の設置							
			留学生・外国人研究者支援センターの設置							
					国際コースの整備・全学共通教育の実施					
				自己点検評価	改善・計画の修正		自己点検評価	改善・計画の修正	自己点検及び計画の修正	事後評価のための自己点検
					中間評価					事業展開の検討
										新たな事業展開の準備

## 2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

### ■ 共通の成果指標と達成目標

#### 国際化関連

##### ●スーパーグローバル大学創成支援事業キックオフシンポジウム

先端科学を担う大学院教育における今後の展望について、平成26年3月に東南アジアの協定校学長・国際担当副学長等及びカリフォルニア大学デービス校の初代国際担当プロボストを本学に招へいして本事業シンポジウムを開催した。国際的に活発に発展する大学としての共通課題に集点をあてて講演を行い、今後も継続的に関係を深める重要な機会となった。また、留学生等の受入や教育研究連携の支援を行う海外拠点の設置可能性についても、立地条件等も含めた意見交換が行われた。

##### ●英語版ガイドブックなどの英語化推進

各学術交流協定校での入試セミナーや日本留学フェア等において、本学の教育研究について英語による情報発信を強化し、さらなる留学生の獲得につなげた。また、英語版ガイドブックを各国際機関等に配布することで本学の海外でのプレゼンスをさらに高めた。

##### ●国際教育連携プログラム実施のための調査

大学設置基準等の一部を改正する文部科学省令(平成26年第34号)等の施行に鑑み、ジョイントディグリーに関して改めて検討することにした。ダブルディグリーについては、ユニテック工科大学の担当教員が1月に来訪した際に最終協議を行い、平成27年5月に協定書に署名する運びとなった。これらの取組により、学生に対して国際教育連携プログラム及び学位取得への道筋を明確にした。

##### ●海外SD研修の実施

海外SD研修(ハワイ東海大学)と職員英会話研修を通じて、教育研究のグローバル化を支援する部署等の組織的対応力を強化した。



#### ガバナンス改革関連

##### ●戦略企画本部の設置準備

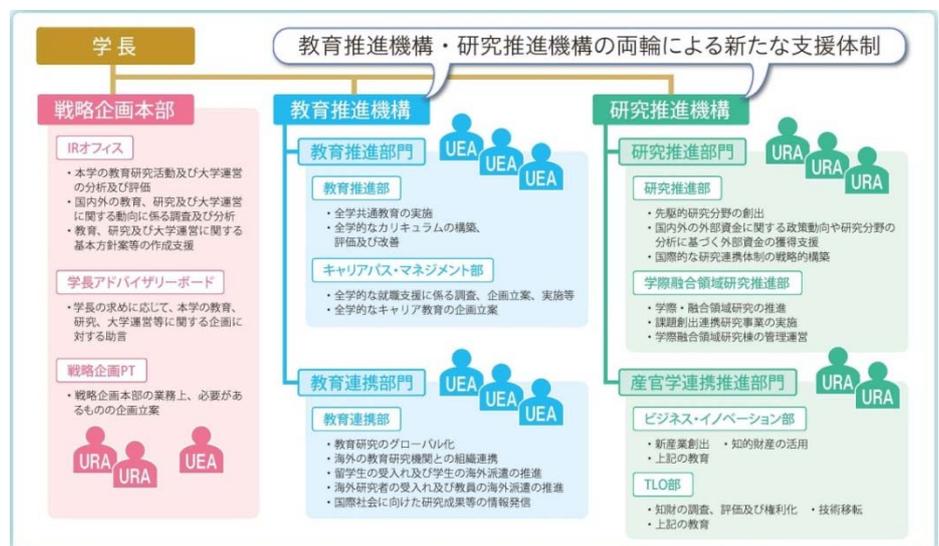
大学の将来構想や教育研究戦略の策定を担う戦略企画本部を学長直下に設置し、学長を本部長として新しい教育研究戦略の企画一元化を行う準備を整えた。戦略企画本部は、大学運営・改革の司令塔であり、学長が、IR (Institutional Research) オフィスでの調査・分析結果、アドバイザーボードによる助言、部員からの具申などにより、大学運営に関して時代・社会の要請に応じた的確な判断・指示を迅速に行える体制とする準備を整えた。

##### ●教育推進機構と研究推進機構の設置準備

世界水準の大学院教育を行うために、教育プログラムの企画、推進、評価を担う教育支援組織である教育推進機構を新設し、研究大学強化促進事業において設けられた研究支援組織である研究推進機構と両輪となって、学長のリーダーシップの下、戦略的に本学の教育研究を推進していく準備を整えた。

##### ●UEA、URAの適正配置

教育系のIRを担当するUEA (University Education Administrator) をIRオフィスに配置し、学生の資質能力の調査と教育効果の検証、教育プログラムの評価、世界の大学院教育の改革動向の調査分析を行い、組織的カリキュラム編成、評価と検証、改善、実施のPDCAサイクルを担う。また、カリキュラム、キャリア支援、国際展開を担当するUEAを教育推進機構に配置し、個々の学生に応じたきめ細かな指導、アドバイス等を行うとともに、教員と協力して新たな国際連携の開拓を支援する。



## 教育改革関連

### ●海外FD研修

10月にカリフォルニア大学デービス校における海外FD研修に新任教授等を参加させ、多様な学生のニーズに応じて積極的な学習意欲を引き出すアクティブ・ラーニング等の全学的導入を進めることにより、学生が世界水準の大学院教育を享受できる学習環境を整えた。

### ●留学生の日本語能力向上

留学生が将来、日本企業に就職する際に必要となる日本語コミュニケーション能力の獲得につながるよう、初心者クラスを「MISJ」に、初級クラスを「奈良日本語塾」に委嘱したところ、それぞれの実績を考慮した上で、平成27年度より正規の授業科目として位置付け、組織的な日本語教育に向けた準備を整えた。また、ボランティア団体「ネットワークいこま」による日本語教室も引き続き開講することで、留学生の更なる日本語力向上につなげた。

### ●日本人学生の英語能力向上

博士前期課程では英語論文を読解し、英語で行われる講義・セミナーを理解できる力を身に付けさせ、博士後期課程では英語で研究発表や質疑応答、交渉やトラブルに対処できる能力を修得させることを全学の目標とし、1月にTOEIC試験を実施し、目安とすることで学生の英語力向上への指導等に役立てた。

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

### ●学内諸規定等の英語化

外国人教員の参加を促すため、会議資料や諸通知に英語化を促進するという点で平成26年度より会議資料の議題に関して全研究科で英語化を実現した。また、学内諸規定の英語化については鋭意、準備を進めている。



### ●留学生や外国人研究者の生活環境整備の促進

学内食堂でのメニューの英語化に加え、売店でのハラルフード販売コーナーを設けるなどして、宗教的、文化的に多様な背景を持つ留学生や外国人研究者に配慮した取組を行った。また、家族連れで来日する留学生が増えたため、子供を幼稚園・保育園に入園させる際の手続きを支援したり、市役所からの検診や予防接種の案内なども確実に伝わるように支援している。

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

### ●日本企業に就職を希望する留学生の支援

博士後期課程を修了した留学生のうち、日本企業に就職した留学生の割合が3割に達した。



### ●母国の大学教員等として就職を希望する留学生の支援

博士後期課程を修了した留学生のうち、母国の大学教員等として就職した留学生の割合が2割に達した。

## ■ 自由記述欄(取組について自由にアピールしてください)

### ● Science 誌特集「スーパーグローバル大学支援採択機関特集」記事

本学の進める戦略的大学運営強化のための制度の設計および整備計画等を広く世界に発信して本学の知名度向上を図り、また、グローバルキャンパス実現のための企画を効果的に実施していくために、Science 誌に記事広告とバナー広告を掲載した。(記事広告掲載3月27日号・バナー広告3月の1ヶ月間)



### 3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

#### ■ 共通の成果指標と達成目標

##### 国際化関連

###### ○ 海外教育連携拠点 インドネシア・オフィス

本学初となる海外教育連携拠点を、ボゴール(インドネシア)に開設した。今後、優秀な留学生やインターン生の確保、海外協定校や現地企業などへの情報発信、本学修士との連携の深化など、アジアの教育ハブとしてさらなる国際化を展開していく。

###### ○ 第2回スーパーグローバル大学創成支援事業シンポジウム

アメリカ国立科学財団(NSF)、欧州委員会、シンガポール科学技術研究庁(A\*STAR)より有識者を招き、理工系グローバルリーダー育成のための大学院教育のあり方について複眼的に検証し、将来への展望を切り開いた。

###### ○ 国内大学との教育連携

国際基督教大学との連携・協力の推進に関する基本協定を締結し、理工系大学院教育におけるグローバル人材育成を促進した。

###### ○ 職員研修

海外SD研修(ハワイ東海大学)と学習段階別英会話研修を通じて、事務職員の英語力および国際性を高め、国際的な素養と総合的な企画力を向上させた。



〈インドネシア・オフィス開所式〉

##### ガバナンス改革関連

###### ○ 組織改革

教育推進機構の設置により、全学的な教育改善を進め、教育面からガバナンス改革を開始した。また、戦略企画本部の設置により、将来構想や教育研究戦略などの策定に関わる調査分析機能を強化した。

###### ○ UEAの配置

教育連携部にUEA(国際展開担当)を配置し、海外連携プログラムの実施・支援、海外FD、SD研修に関わる機能を強化した。また、個々の学生に応じた履修指導や就学進捗管理に関わるUEA(キャリア支援担当)や、カリキュラムの構築・評価・改善や全学共通教育の実施に係わるUEA(カリキュラム担当)の配置を検討し、キャリアパス・マネジメント部門および教育支援部門の機能を強化した。

###### ○ 留学生や外国人教員・研究者の支援体制

外国人教員・留学生の大幅な増加に対応可能なワンストップ・サービスを可能にするため、支援スタッフの配置を進めたほか、就業規則など学内規則の英語化を推進し、外国人教員、研究者、留学生のさらなる利便性の向上を図った。



〈シンポジウム・プログラム〉

##### 教育改革関連

###### ○ 留学生向け日本語科目

日本語科目を留学生向けに全学教育科目として実施することにより、将来日本国内および日系企業で就職する際に必要となる日本語コミュニケーション能力の獲得につなげた。また、補完的にボランティア団体による日本語学教室を通して、留学生の継続的な日本語力の向上を支援した。

###### ○ 国際共同学位プログラム

すでに実施しているプログラム(フィンランド・オウル大学、フランス・ポールサバティエ大学)のほか、国立交通大学(台湾)、ユニテック工科大学(ニュージーランド)、およびマラヤ大学(マレーシア)とのダブルディグリープログラムを新たに開始し、留学生のさらなる獲得と、日本人学生が世界水準の大学院教育を受ける機会を広げた。

###### ○ 海外FD研修

カリフォルニア大学デービス校において海外FD研修を実施し、世界における大学院教育の動向や、国際的に通用する講義方法に係わる教員の知見と能力を向上させた。



〈シンポジウム講演者他〉



〈海外FD研修〉

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

### ○ 学生および職員対象のTOEIC試験実施

海外連携プログラムや国際共同研究等の支援に必要な英語力が要求される部署の担当職員が設定基準を満たすことを目標とし、教育研究のグローバル化を支援できる職員数の増加を目指した。また、博士前期課程では英語論文の読解力と英語による講義などの理解力を向上させ、博士後期課程では英語による研究発表（質疑応答を含む）プレゼンテーション能力や、国際的な交渉に参加できる能力を習得させることを目指した。TOEICを目標達成の指標とし教育指導に活用するため、学生には年2回のTOEIC受験を義務付けており、博士前期課程修了時に650点、博士後期課程修了時に750点を目標にしている。

### ○ シラバスの英語化

教育体制の徹底したグローバル化を推進する取組の一環として、全開講科目のシラバスを英語化した。このことにより、国際先端科学技術コースの設置と、研究科の枠を超えた教育指導を可能にする1研究科1専攻体制への移行を容易にする。



〈海外協定校での入試説明会〉



〈英語版各研究科紹介ガイドブック〉

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

### ○ 英語による広報物

大学紹介および各研究科紹介ガイドブックの英語版を作成し、海外協定校での入試説明会や日本留学フェア、教育研究に関する情報発信を強化した。また、本学のスーパーグローバル大学創成支援事業の取組を紹介するパンフレットを教育連携部門が作成し、大学・研究科紹介と共に、海外協定校や各国大使館等に幅広く配布することにより、本学の国際的なプレゼンス向上を図った。

### ○ 生活および就学支援

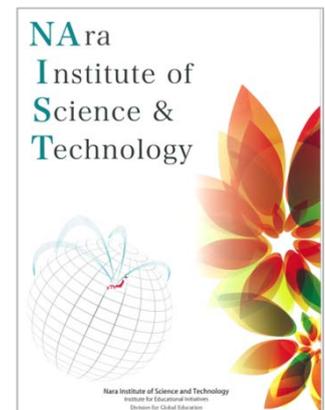
留学生および外国人教員・研究者への支援体制の整備を進めた。外国人教員、留学生および家族を含む渡日前後の手続き、生活サポートの提供を検討していく。

### ○ 留学生キャリア支援

日本および海外の日系企業就職を志望する留学生のキャリアパス支援を強化するため、キャリア担当UEAを配置した。今後、留学生向け就職ガイダンスを企画し、学内開催する。また、海外教育連携拠点（インドネシア）を中心に同窓会組織などを通じた修了生と在学中留学生のネットワーク作りを後押しし、母国でのキャリア情報交換を支援する。

### ○ 留学生向け「日本文化入門(英語)」「日本語語学科目」(再掲)の全学開講

留学生向け全学教育科目に、「日本語語学科目」を組込むことで、日本での生活と学修や日本文化・社会に対する理解を深まり、修了後のキャリアパスにつなげた。また、「日本語文化入門(英語)」を全学科目として拡充し、地域の特徴を生かし、奈良等への見学旅行および春日大社や薬師寺等での講話や写経・華道体験、和菓子作りや忍者体験といった文化活動に参加させ、知日派人材の育成する。



〈教育連携部門 取組紹介パンフレット〉

## ■ グローバルキャンパス実現に向けた取組

### ○ 異文化交流キャンパスイベントの開催

様々な文的背景を持つ本学留学生と日本人学生・教職員が飲み物を片手に、出身地の違う複数のプレゼンターによる発表を聞き、歓談を楽しむ「NAIST Tea Time」を定期的に開催し、異文化理解・相互理解を深める。

### ○ 留学生のニーズに応じた食品の提供

学内コンビニエンス・ストアの開店により、提供するハラル・フードの種類を増やした。



〈NAIST Tea Time〉

## 4. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【奈良先端科学技術大学院大学】

### ■ 共通の成果指標と達成目標

#### 国際化関連

##### ○ 海外教育連携拠点 インドネシアオフィス

インドネシア同窓会と協働し、4月に本学初となる海外教育連携拠点であるインドネシアオフィスをボゴールに開設した。8月には、キックオフシンポジウムを同地にて開催し、諸大学や政府機関、また同国に拠点を置く日系企業に本学のプレゼンスを示した。

##### ○ ガジャマダ大学とのコラボレーション・オフィス

ガジャマダ大学(インドネシア)のバイオテクノロジー研究センター内に、インドネシアにおける本学との共同研究の推進などを目的として、コラボレーション・オフィスを6月に開設した。同国の本学修了生(同窓生)との教育研究連携を推進し、アジアにおける本学の役割を強化した。

##### ○ 海外教育連携拠点 タイオフィス

タイのカセサート大学工学部キャンパス内に、海外教育連携拠点を3月に開設した。今後は、インドネシアオフィスとともにアジアの拠点として、留学生の募集と選考、協定校との連携、また修了生(同窓生)とのネットワークを深化させるなど、教育研究のグローバル化を推進する。



〈インドネシアオフィス・キックオフシンポジウム〉



〈コラボレーション・オフィスの開設〉

#### ガバナンス改革関連

##### ○ 戦略企画本部

戦略企画本部会議において、国際交流の進捗状況の確認と海外の教育研究機関などとの連携の方向性について検討した。

##### ○ 1研究科1専攻体制への移行

学生のニーズを反映し、領域横断的な履修を可能にする1研究科1専攻体制への移行に向けて準備した。教育推進部門にカリキュラム担当UEAを配置し、学際融合教育に向けたカリキュラム設計などの準備を着実に進めた。

##### ○ 留学生・外国人研究者支援センター

留学生・外国人研究者支援センター(Center for International Students and Scholars (CISS))を4月に設置し、地域の行政機関との対応を含めた留学生へのサポートや、外国人研究者の受入れに伴う市役所や銀行の手続きなど、留学生や外国人研究者に対するワンストップサービスを実現した。



〈タイオフィス開所式〉

#### 教育改革関連

##### ○ 海外FD研修の実施

参加者のニーズを踏まえて海外FD研修のカリキュラムを見直し、より実践的な教授法が習得できるように改善した。カリフォルニア大学デービス校における研修に参加した教員の指導能力と技術を世界水準へと向上させ、学内報告会や各研究科でのFD研修会などにおいて情報の共有を図った。

##### ○ 職員を対象にした研修の実施

英会話研修により事務職員の英語力を向上させたほか、海外SD研修をジョブシャドウイングを中心とした上級レベル(オーストラリア・マコーリー大学)とインタビューを中心とした中級レベル(カリフォルニア大学デービス校およびハワイ東海インターナショナルカレッジ)に拡充し、参加職員の国際性を涵養させた。

##### ○ 国際共同学位プログラム

ダブルディグリープログラムにおいて、ポール・サバチエ大学(フランス)へ本学の学生2名を派遣したほか、留学生をユニテック工科大学(ニュージーランド)から2名とオウル大学(フィンランド)から1名を受け入れることで、海外教育連携プログラムの実質化を図った。さらに、国立交通大学(台湾)とのダブルディグリープログラムへの候補者を増やすため、新たに同大学院との協定書を締結した。



〈海外FD研修〉



〈海外SD研修〉

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

### ○ 学生および職員の語学力の向上

英語学習の進捗状況を確認するため、全研究科で学生対象にTOEICを実施した。また、職員対象のTOEICでは、750点以上を取得した職員の割合が平成28年度の目標値を大きく上回るなど、教育研究のグローバル化の支援に必要な語学力が着実に向上した。

### ○ 規則やシラバスなどの英語化

留学生および外国人教員や研究者などの利便性を高めるため、英語化すべき学内規則および文書の英訳を完了した。また、全開講科目のシラバスの英語化に取り組むことにより、1研究科1専攻体制における教育カリキュラムへの移行につなげた。



〈日本留学フェアへの参加〉

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

### ○ 修了生(同窓生)ネットワークの活用

本学修了生(同窓生)が核となり、ポゴール農科大学(インドネシア)で行われた「就職・留学フェア」において、本学のブースを設置するなど、積極的な広報活動を展開した。また、インドネシアオフィス(ポゴール)において、現地同窓会に業務委託した常駐スタッフ(本学修了生)を配置し、英語のみならずインドネシア語での情報発信を可能にした。

### ○ 海外への情報発信

全学ホームページのリニューアルに伴い、デザインを日英で統一するとともに、全てのページの見直しと更新を行った。加えて、ホームページをスマートフォン対応にしたことで、留学希望者や留学生が必要とする情報を容易に得られるようになった。また、スーパーグローバル大学創成支援事業における本学のホームページの内容を更新し、デザインを一新することにより、これまでの取組を紹介するとともに、利便性を高めた。また、海外協定校訪問および入試説明会、日本留学フェア、さらに本学海外オフィスなどで幅広く英語版広報物を配布し、教育研究に関する情報発信を強化した。

### ○ 海外の教育研究機関との連携

世界トップ水準の研究力に基づく大学院教育に向けて、海外の研究大学(シンガポール・南洋理工大学、インド工科大学ボンベイ校など)と新たに学術交流協定を締結した。また、学術交流協定校との国際学生ワークショップや合同シンポジウムの開催、およびラボステイを実施するなどして、本学学生の派遣や協定校との学生交流の推進を図った。

### ○ 日本語・日本文化入門の実施

日本語コミュニケーション能力の向上と、日本の伝統文化や慣習への理解を深化させるため、日本語・日本文化に関する授業科目を開講した。また、自学自習用に導入した日本語eラーニングシステムを授業にも活用し、留学生の日本語能力の向上に役立てた。

### ○ 留学生のキャリア支援

留学生キャリア支援担当UEAを配置したことにより、英語による支援体制が強化された。また、留学生対象のキャリア支援の学内向けホームページを開設したことで、留学生の相談件数が増加した。さらに、留学生が希望する日系企業などへの橋渡しを行うことで、就職率の向上につなげた。



〈学術交流協定校での入試説明会〉



〈本学修了生を核とした広報活動〉



〈留学生対象キャリア支援学内HP〉

## ■ グローバルキャンパス実現に向けた取組

### ○ グローバルキャンパス・イベントの開催

定期的で開催している「NAIST Tea Time」では、さまざまな文化的背景を持つ本学留学生や教職員と、日本人学生・教職員、そして地域住民が、飲み物を片手につろいだ雰囲気の中で、世界各国のプレゼンターによる自国の紹介などを楽しむことで、異文化理解・相互理解を深めた。



〈グローバルキャンパス・イベントの開催〉

## 5. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【奈良先端科学技術大学院大学】

### ■ 共通の成果指標と達成目標

#### 国際化関連

##### ○ 海外教育連携拠点 インドネシアオフィス

インドネシアオフィスに常駐スタッフ配置のためのNAISTインドネシア同窓会との委託契約を成立させたことにより、本学修了生をインドネシアオフィスの常駐スタッフとして配置し、現地での就職・留学フェア等において現地の言語で広報活動を行うことが可能となった。

##### ○ 海外教育連携拠点 タイオフィス

タイ大学連絡会(JUNThai)に参加し、タイにおける教育研究機関とのネットワークを構築するとともにスーパーグローバル大学創成支援事業の一環として、9月にバンコクにおいてタイオフィス開設記念シンポジウムを開催し、同国における本学の教育研究活動のプレゼンスを高めた。また、本学修了生との連携を通し、トップクラス大学(チェンマイ大学)と新たに学術交流協定を締結した。

##### ○ 多様な教職員及び外国人留学生の受入れ

国際公募による教員の採用や、海外で通算1年以上の教育研究経験を重視した選考、教員の長期海外派遣事業等の継続的な取組により、多様な教職員を確保している。また、日本留学フェアへの参加や、学術交流協定校での学生募集活動を積極的に行い、外国人留学生が特定の国に偏ることなく、東南アジアを中心としつつも、世界33カ国・地域(平成30年3月現在)からの受入れ、質の高い多様性を確保している。

#### ガバナンス改革関連

##### ○ 海外FD研修の実施

授業見学と担当教員やTAとの授業後面談を通して、PBL、アクティブ・ラーニング、TAの役割等について学び、学生の主体的な学修を促進する教育プログラムの構築につなげた。また、学内報告会や各研究科でのFD研修会を通して、本学構成員へのフィードバックを行うなどして、教員の教育能力向上に取り組んだ。

##### ○ 事務職員の高度化

英語研修や海外SD研修を継続的に実施することにより、本学が掲げる外国語力基準(TOEIC 750点以上)を満たす専任職員数の実績(平成30年3月時点で37名)は構想調書で掲げた当初の目標を着実に達成しており、平成29年度には外国語力基準を満たす専任職員を事務局の全ての課・室に配置することを実現した。このことは平成29年度スーパーグローバル創成事業の中間評価結果においても高く評価されている。また、研修内容を改善した英語研修を継続的に実施することにより、職員TOEICスコアの全体的な底上げも行われている。

#### 教育改革関連

##### ○ 「1研究科」への移行

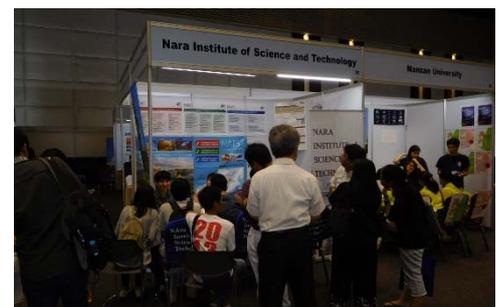
これまでの3研究科の教育カリキュラムを基盤としつつ、社会的要請に応える先端3分野に関わる融合領域教育カリキュラムを柔軟かつタイムリーに構築できる体制とするため、3研究科3専攻を統合し、1研究科1専攻へ平成30年度から改組することを決定した。1研究科の教育では、先端科学技術の専門性と幅広い視野を持つグローバル人材を育成するため、世界レベルの研究力を持つ教員が、これまでの研究科の枠を越えて集まり、社会が求める専門性と広い視野を身につける教育、異分野連携・融合教育などを展開する7つの教育プログラムを設けることとした。



〈インドネシア人常駐スタッフによる広報活動〉



〈タイオフィス開設記念シンポジウム〉



〈日本留学フェアでの活動〉



〈海外SD研修報告会〉



〈1研究科への移行〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 留学生・外国人研究者支援体制の強化

留学生・外国人研究者支援センター(CISS)の体制を強化し、学内広報を行った結果、多くの相談に対応できたことにつながった(支援件数:762件)。また、構想調書で計画していた外国人教員採用を後押しするためのPartner Opportunities Program (POP)や、NAIST International Student Ambassador (留学生生活相談)を制度化し、情報提供を開始するなど新たな外国人研究者や留学生の生活支援の拡充を行うことができた。

○ 地域とも連携した異文化混在グローバルキャンパスの拡充

構成員間及び地域住民との国際交流を促進するためのグローバルキャンパスイベントとして、「NAIST Tea Time」を継続して実施しており、平成29年度は7月6日(第13回)と、12月15日(第14回)を開催した。そのほか、平成30年1月に実施した国際交流懇話会(留学生懇話会)では、参加者数は過去最高の321名を記録するなど、留学生支援団体・自治体関係者と本学の留学生、外国人研究者、教職員との交流の促進に大きな役割を果たしている。



〈留学生・外国人研究者支援センター(CISS)〉



〈グローバルキャンパス・イベント〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ ダブル・ディグリー・プログラムの取組の強化

平成30年2月に本学のダブルディグリープログラムガイドラインを策定し、教育の質の保証に努めるとともに、平成29年度は本学で初となるダブルディグリープログラム修了学生に博士の学位授与を行った。特に本学から派遣したポール・サバティエ大学との国際共同指導によるダブルディグリープログラム修了生が2018年3月の学位記授与式において2名ともに最優秀学生賞に選ばれるなど、取組の成果が上がっている。

また、ダブルディグリープログラムの取組をさらに強化するため、ドイツ・ウルム大学とのダブルディグリープログラムに関する協定書を締結(2017年7月)するとともに、平成30年3月のフランス・パリサクレ大学訪問では、同校とのダブルディグリープログラム協定の新たな締結につなげることができた。



〈学位記授与式(2018年3月)〉

○ 1研究科に向けた広報活動

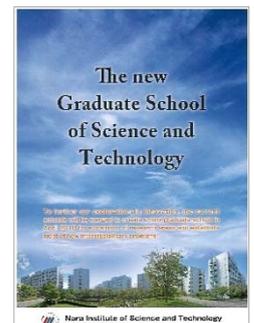
2018年版英語版大学ガイドブック及び研究室紹介については、平成30年度からの1研究科体制を踏まえ、所要の改訂を行った。また、1研究科体制が特に留学生にとっていかに魅力的なものであるかをアピールするために12月には1研究科移行の日本語版に対応する英語版リーフレットを作成し、海外の各機関や海外オフィスで配布し、情報提供を行った。加えて、英語版ウェブサイトについても平成30年4月からの1研究科を踏まえて改修を進めるとともに、11月には英語版ウェブサイトに1研究科の説明に特化した専用ページを設けて、留学希望者や留学生が必要とする情報へ容易にアクセスできるようにした。

○ 留学生のキャリアパス支援

日本企業から高い日本語能力を求められることがあるため、国内外の日本企業への就職を希望するものについては、日本語能力試験N1~N2取得に受けた対策講座を実施した。留学生と企業の橋渡しをするジョブフェアを学内で開催。ベンチャーの立ち上げに関心のある学生向けに、外部機関と連携してビジネススタートアップセミナーを開催するなど、幅広いキャリア支援を行った。



〈英語版研究室紹介〉



〈1研究科移行リーフレット〉



〈1研究科特設ウェブサイト〉

## 6. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【奈良先端科学技術大学院大学】

### ■ 共通の成果指標と達成目標

#### 国際化関連

##### ○ 海外教育連携拠点の活動ーNAIST海外オフィスー

本学はアジア地域における教育研究連携の拠点としてインドネシアオフィスとタイオフィスを開設しており、これらオフィスを拠点として様々な交流活動を展開している。

インドネシアオフィスに関しては2018年4月に同オフィス常駐スタッフがボゴール農科大学主催の就職・留学フェアにブース出展し、新たな本学入学者の発掘に取り組んだ。タイオフィスに関しては2018年11月に同オフィスを拠点とした学生シンポジウムをタイで開催し、チェラロンコン大学、マヒドン大学及びカセサート大学との学術交流の推進及び優秀な留学生の獲得に貢献している。

また、インドネシアオフィス及びガジャマダ大学とのコラボレーションオフィスに関する活動状況の評価を実施し、検証の結果、これまでの活動内容から、同オフィスの設置を継続することが適切であることが大学執行部において確認された。

##### ○ 学生海外派遣支援体制の強化

グローバル人材育成として博士後期課程学生を対象に、語学研修、ラボステイプログラムを実施した。平成30年度のプログラムでは、学生の海外での危機管理の認識を高めるため、研究科及び英語教育担当教員らと教育連携部門UEAが連携し、海外安全渡航、危機管理に特化したオリエンテーションを実施した。



〈インドネシアオフィス検証〉



〈タイ学生シンポジウム〉

#### ガバナンス改革関連

##### ○ UEAの新人事制度の実施

平成29年度に確定した、新たなUEAの人事制度(採用5年目に任期の定めのない雇用への転換がある高度専門職系職員)を平成30年4月から施行し、同年7月及び平成31年2月に教育連携部門において、新制度に基づくUEA(国際展開担当、留学生・外国人研究者支援担当)2名をそれぞれ採用した。このことにより、長期的視点で国際展開、留学生・外国人研究者支援を行う体制を構築した。

##### ○ 職員の語学力の向上とグローバル対応力の強化

海外SD研修を実施し、参加者は、カリフォルニア大学デービス校にて大学職員へのインタビュー、語学プログラムへの参加を行った。海外SD研修については、報告会の開催とこれまでの成果報告書を学内ウェブサイト上で公表することにより本学職員へのフィードバックを行うことで事務職員の国際性の向上と高度化に貢献している。



〈海外SD研修〉

#### 教育改革関連

##### ○ 教員向けFD研修の実施

海外FD研修を実施し、理工系分野の授業見学、教員・ティーチング・アシスタント(TA)との意見交換等を通じ、教授法や学生の学習意欲向上のための実践的方法論等の学習ができ、本学構成員に授業改善に向けた意識啓発を行うことができた。研修終了後に報告会を開催することにより研修内容をフィードバックさせることができた。教育連携部門のUEAが同行し研修内容の確認及び課題の洗い出しを行うなど、研修の質の保証に努めた。

##### ○ 1研究科体制始動に伴うカリキュラム、教育支援システムの充実

教育推進部門において、1研究科体制の教育プログラムに対応した教育支援システム(シラバス、履修登録、教育カルテ等)の整備、学生授業評価アンケートの実施、授業改善に向けた意識啓発など教育支援の充実を図った。



〈海外FD研修の様子〉

## ■ 大学独自の成果指標と達成目標

### ○ 全学キャリアパス支援

日本人学生向けキャリア支援において、就職ガイダンスの内容の吟味、実施時期や講師の見直しに取り組むなど、従来のキャリア支援を改善し、さらなる充実を図った。特に、日本人学生向け企業インターンシップ支援として国内外のインターンシップ先の開拓に取り組み、次年度に初の米国企業インターンシップへの学生参加につなげるなど、海外インターンシップを促進した。留学生向けキャリア支援として、英語でのキャリア相談、就職ガイダンス、Networking event（留学生と留学生採用を考える企業との交流会）、日系企業就職に向けた日本語能力試験対策講座などを実施した。



〈 Networking event 〉

### ○ 留学生・外国人研究者支援の取組強化

平成28年度に発足したCISS（Center for International Students and Scholars）において、留学生と外国人教員・研究者の生活環境の改善に向けた支援の実施、体制の強化を行った。新たな取り組みとして、留学生交流係と連携し、「留学生のためのクレジットカード申込み説明会」を開催し、日本での生活の利便性向上に貢献した。留学生の生活相談に対する体制を強化することを目的とし、学内関係部署と連携し留学生ピアサポートシステム「NAIST留学生アンバサダープログラム」を新たに創設、10名の留学生をアンバサダーに任命し、プログラムの運用を開始した。



〈 NAIST留学生アンバサダー任命式 〉



〈 アンバサダー研修の様子 〉

## ■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組(タイプBのみ)

### ○ 学生向け語学教育の強化

新たな学生の英語力強化プログラムとして「プロフェッショナルコミュニケーション特別強化学生制度」（英語力強化）を設け、特別強化学生がTOEICスコア650点以上の取得を目指す体制を構築し、特別強化学生の英語力強化を図った。留学生を対象とする日本語教育科目の開講や正規の授業科目以外にも地域ボランティアによる日本語補講を実施し、日本での生活・就職等に必要となるコミュニケーション能力の獲得や、親日派・知日派人材の育成に貢献した。また、地域ボランティア団体による日本語教室（週2回）を開催し、平成30年4月～平成31年3月に入学した留学生の80%が受講し、本学の留学生の日本語能力向上に貢献した。

### ○ 大学情報の発信と手続きの可視化

英語版大学ガイドブック及び研究科紹介の作成と協定校や国内外の関係機関への配布、電子版を本学ウェブサイト上で公表することにより本学の教育研究内容や国際交流について広く情報発信を行った。英語版ウェブサイト上で協定校からの交流学生の受入れ手順等を公表し、手続きの可視化を進めた。また、教育連携部門(DGE)のウェブサイトをリニューアルすることにより特に海外留学情報やダブルディグリー・プログラム協定の手続き等に関する情報を新たに掲載するなど本学学生・教職員に対する利便性を高めることができた。



〈リニューアルされたDGEホームページ〉

### ○ 海外教育研究機関との協定拡充及び学生募集活動

学術交流協定校の拡充（平成31年4月現在：29カ国・地域105件）に取り組み、留学生の大幅な増加によりキャンパスのグローバル化の実現につながった。（留学生数 平成26年4月現在：161名→平成31年4月現在：267名）日本留学フェアへの参加に加え、学術交流協定校で学生募集活動を展開し、優秀な外国人留学生の獲得につながった。

### ○ ダブルディグリープログラムの取組の強化と実質化

ダブルディグリー・プログラムについては、2件新規締結（パリサクレ大学、ソルボンヌ大学）することにより協定先の拡充を図るとともに、協定更新時期を迎えたプログラムについては、これまでの交流実績を踏まえて更新1件（ポール・サバチエ大学）、終結1件（オウル大学）を行うなど更新プログラムを精査することにより本学ダブルディグリー・プログラムの実質化に取り組んだ。



〈 留学フェアでの活動 〉

**Nara Institute of Science and Technology**  
**Top Global University Project**  
**Self-examination and Evaluation Report**

February 12<sup>th</sup>, 2020

Global Education Working Group  
Nara Institute of Science and Technology

## Forward

NAIST, having been chosen for the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology's (MEXT) Top Global University (TGU) Project in 2014, aims to structure a graduate school education model to produce globally active human resources to lead global developments in science and technology and pursue innovation. In the individual yearly plans of the project outline, the implementation of a self-examination and evaluation is included in the 2019 academic year and, in accordance, it was executed by the Global Education Working Group, under the guidance of the NAIST TGU Project Supervisor.

In this self-examination and evaluation, based on the basic policy concerning the MEXT 2020 mid-term evaluation, the first part is an analyzation of the achieved results for each area related to initial outcomes of NAIST's logic model and the second part is an analyzation of the progress made through the TGU Project by comparing the achievement results based on our performance indexes with the overall achievement results from the 37 institutions (including NAIST) that were chosen for the TGU Project. These are followed by a third reference part which includes the collected performance index data, expense (grant) data, and the outline of yearly achievements.

This self-examination and evaluation is a record of NAIST's TGU Project activities and results from the 2014 academic year to December 2019. This report is sent to all external evaluators and NAIST will interview each evaluator to obtain advice and opinions concerning the present project conditions and will use their comments to further guide the NAIST TGU Project. We would like to sincerely thank all those supporting NAIST in this project for their time and contributions for NAIST.

HIROTA Shun

Global Education Working Group Chairperson

February 12<sup>th</sup>, 2020

# Top Global University Project Self-examination and Evaluation Report

## Table of contents

### I . Overall outline

I -1. Analysis of the Achievement Status of the “Logic Model Initial Outcomes”(Primary category)

[【Nara Institute of Science and Technology Top Global University \(TGU\) Project Logic Model】](#)

(Page)

#### ( 1 ) Secondary category #1 “Organizational and Educational Reform”

- Tertiary category #1 “Improving Education in Interdisciplinary Fields” . . . . . 1
- Tertiary category #2 “Internationally Applicable Graduate School Education” . . . . . 3
- Tertiary category #3 “Diverse Career Path Creation for International Students” . . . . . 4
- Tertiary category #4 “Double Degree Program Enhancement” . . . . . 6

#### ( 2 ) Secondary category #2 “Globalization”

- Tertiary category #1 “Improvement of Overseas Brand Recognition” . . . . . 8
- Tertiary category #2 “Achieving a Global Campus” . . . . . 9
- Tertiary category #3 “Promoting Faculty Diversity” . . . . . 11
- Tertiary category #4 “Administrative Staff Development” . . . . . 12

#### ( 3 ) Secondary category #3 “Governance Reform”

- Tertiary category #1“Improvement Education and Research Management for Globalization” . . . . . 14

I -2 . Analysis of the Achievement Status of the “Progress towards Sustainable Measures”(Primary category) . . . . . 16

### II . Analysis of the Achievement Status from the Performance Index Data . . . . . 18

< Globalization > . . . . . 19

- ① Percentage of international faculty members of the total faculty  
(includes faculty members with degrees from overseas institutions, etc.)
- ② Percentage of international staff members of the total staff  
(includes staff members with degrees from overseas institutions)
- ④ Percentage of international students of the total student population (as of May 1st and per academic year)
- ⑤ Percentage of Japanese students who studied abroad of the total Japanese student population
- ⑥ Student exchange based on academic agreements (Japanese students dispatched

and international students accepted)

- ⑦ Number and percentage of subjects taught in English
- ⑧ Courses taught solely in English, etc. (Courses, students enrolled)
- ⑨ Measures to assess, understand and improve students' English language ability
- ⑩ Subject numbering system implementation status and percentage of completion
- ⑪ English subject description status and percentage of completion

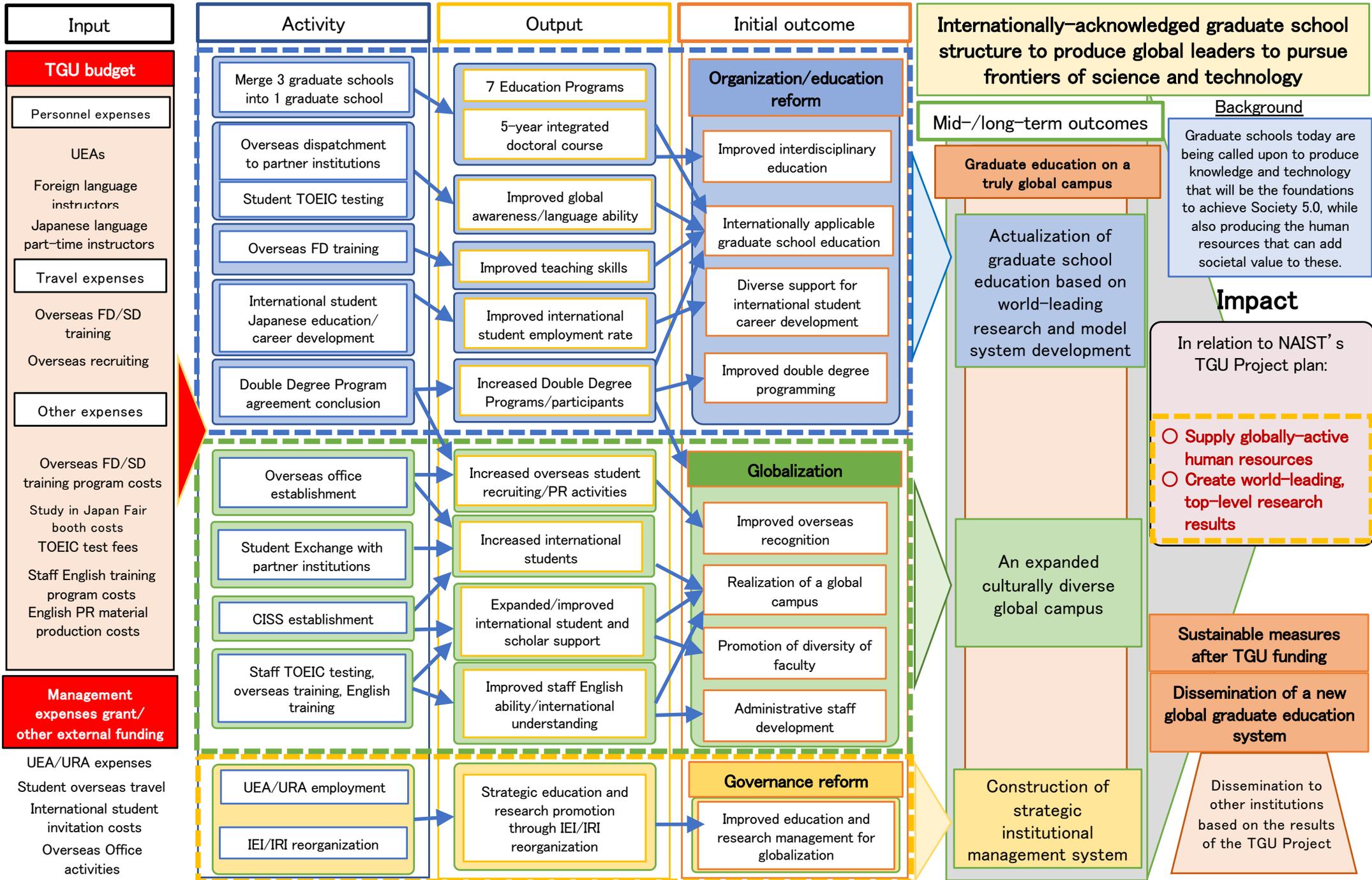
< Governance reform > . . . . . 21

- ⑭ Implementation of the annual salary system (faculty and staff)
- ⑮ Administrative staff development for TOEIC score improvement

### III. References

III- 1 . Performance Index Data . . . . .	22
III- 2 . Status of expenditure of TGU budget (subsidy) . . . . .	31
III- 3 . TGU Project annual progress report . . . . .	36

# Nara Institute of Science and Technology Top Global University (TGU) Project Logic Model



## I . Overall outline

### I -1 . Analysis of the Achievement Status of the “Logic Model Initial Outcomes”(Primary category)

#### ( 1 ) Analysis of “Organizational and Educational Reform” (Secondary category #1)

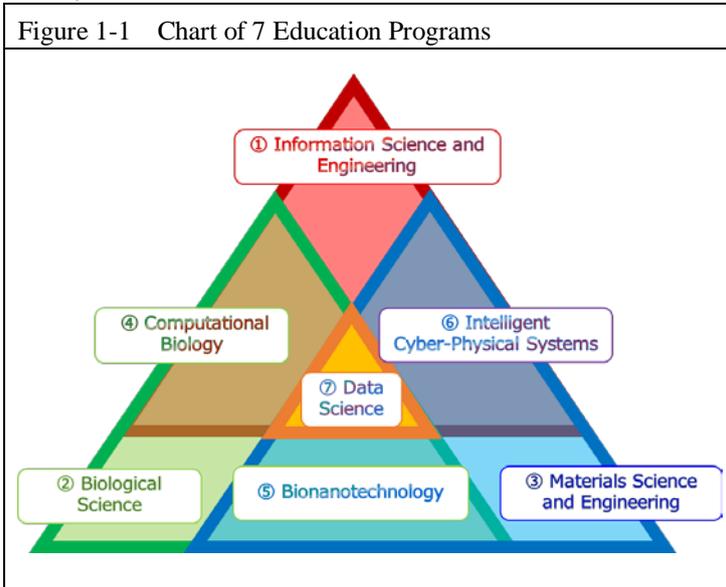
##### ○ Current Results of “Improving Education in Interdisciplinary Fields” (Tertiary category #1)

In order to solve current and future issues that humankind will face, NAIST aims to continue as an educational institution that produces human resources with advanced specialized knowledge and a broad understanding of science across fields that will open up new frontiers through their abilities to collaborate with research areas outside of their specializations. For this, in 2018 NAIST reorganized its three graduate school structure to create a single graduate school to strengthen interdisciplinary education and achieve a curriculum to foster a spirit of challenge, well-roundedness, multi-disciplinary understanding and global perspectives.

In order to realize this single graduate school structure, the Working Group to Achieve a Single Graduate School Plan was established to offer opinions about creating a plan for the single graduate school while also collecting opinions for this throughout the campus. In 2015 the Working Group launched a 2-year investigation into the actual educational system and the outline of interdisciplinary field education for the single graduate school. The working group was able to achieve the transformation to a single graduate school one year earlier than was originally planned.

In the single graduate school structure seven Education Programs were established: 3 Education Programs based on the fields of the original Graduate Schools of Information Science, Biological Sciences and Materials Science, 3 Education Programs based on interdisciplinary fields encompassing pairs of each of the original research fields, and the Data Science Education

Program which spans and merges the 3 original research fields. Each of the Education Programs set clear objectives for human resource development, and, along with the Graduate School of Science and Technology Diploma Policy, clarified the educational goals of each program. Additionally, for the master’s course, along with required Core Subjects, Program specific Introductory Subjects were introduced as compulsory



subjects and PBL Subjects to clearly represent the educational characteristics of each program. For students who are starting studies in areas outside of their undergraduate focuses, the necessary basic fundamental knowledge for their Education Program can be attained through Basic Subjects.

## I . Overall outline

In PBL Subjects focused on group work and active learning, interdisciplinary education is further improved through students from different academic backgrounds cooperating to tackle problems and tasks together. Also, outside of the required subjects, the system allows for the selection of a broad variety of elective subjects under guidance of the supervising professor

Chart 1-1 shows the number of students who chose interdisciplinary Education Programs. With the goal set at the time of the Education Program establishment for 100 master's students choosing to enter the interdisciplinary Programs each year, it can be seen here how they were mostly met from the beginning. Until 2019, most of the doctoral students had come from the original education structure of the 3 graduate schools and the research was structured on education without much focus on interdisciplinary Education Programs, so there were not many students who chose the interdisciplinary Education Programs. However, from 2020 the doctoral students continuing their studies at NAIST will have studied under the new educational structure, so an increase in interdisciplinary filed students is expected.

Chart 1-1 Number of students who chose interdisciplinary Education Programs

		Total students (as of Nov. 1 each year)	Those who chose interdisciplinary Education Programs
2018	Master's course	364	98
	Doctoral course	97	10
2019	Master's course	712	185
	Doctoral course	212	21

On the other hand, the concept of active learning, such as various program students collaborating together in PBL Subjects, has not been adopted by enough of the faculty. Along with this, students are physically separated into the 3 graduate school building complexes and there is a lack of facilities such as a learning commons where students can gather and interact together.

(Evaluation of implementation status)

Current status is very good.

(Evaluation explanation)

As well as achieving the transition to the single graduate school system to promote interdisciplinary area education 1 year earlier than originally planned, each Education Program set individual, clear human resource objectives and clarified each Program's educational goals. Also, considering the overall achievement of the established goals for the number of students choosing interdisciplinary Programs in the master's course, the status was evaluated as above.

## I . Overall outline

### ○ Current Status of “Internationally Applicable Graduate School Education” (Tertiary category #2)

In order to ensure the international applicability of the education support systems, an English version of the entire academic subject descriptions and subject numbering system was completed. From the transition to the single graduate school structure in 2018, English and Japanese mirror versions of the syllabus are available on the Internet. In the new graduate school, the quarter system was adopted to maintain a flexible education system to avoid problems regardless of entrance timing, spring or fall. (Fall is when more international students enter NAIST) Under the three graduate school structure there was one all-English International Course offered where international student education was undertaken, but in the single graduate school structure there is no specific International Course and instead the expansion of subjects that can be taken in English was planned. Now, both Japanese and international students are studying together in the same class and same groups.

In order to promote the international applicability of the subject contents and the effective implementation of subjects offered in English, every year 3-6 faculty members are sent to University of California, Davis (UC Davis) for faculty development training to study graduate school teaching methodology. Additionally, in 2019 NAIST invited a UC Davis faculty member to the campus to view classes taught in English to offer advice to improve teaching quality, and an on-campus faculty development training session was held to introduce internationally recognized education for transferrable skills and techniques for instruction in English. The training session was also held as a pre-faculty development session for doctoral students who aim to enter academia to develop instruction skills that can be used globally, and credits were offered to those who participated. Also, the number of double degree programs were increased from 2 in 2014 to 8 in 2019 with 4 NAIST students going abroad to partner institutions and 8 students from partner institutions coming to NAIST as part of NAIST’s continuing promotion of globally-applicable graduate school education.

Education quality assurance is undertaken through student evaluation surveys for all of the subjects offered at NAIST, where the results are given back to the lecturers, and through external evaluations of subjects by faculty from other institutions for a select number of subjects offered at NAIST. For the promotion of English education and skills master’s students are required to complete at least 2 credits worth of English subjects and take the TOEIC-IP test at least 3 times. For international students, Japanese subjects for levels N1 to N5 of the Japanese-Language Proficiency Test are offered in a system that responds to needs ranging from those of newly-arrived students and to those looking to work in Japan.

In regards to subject completion, strict rules for subject registration, etc. have been set and the GPA system was adopted with the percentage for ‘S’ and ‘A’ evaluations being set at roughly 30%, in order to secure a globally-accessible academic evaluation system. For evaluation of progress towards thesis completion, an evaluation system based on rubrics in the electronic education record system was established to perform objective evaluation while promoting student research self-management.

## I . Overall outline

In addition to the above, the percentage of subjects offered in English rose from 33.4% in 2014 to 51.6% in 2018 in the new single graduate school structure, creating an educational structure allowing for course completion using only English in all 7 Education Programs. In the 2020 academic year, all of the subjects offered by the Division of Information Science are currently scheduled to be in English.

On the other hand, there are many Japanese students who cannot follow the internationally applicable courses taught in English and therefore, 28.8% of the subjects offered are offered both in Japanese and English, which is an additional load for faculty members. NAIST is still searching for the most effective English subject design to successfully support both research and education.

(Evaluation of implementation status)

Current status is very good.

(Evaluation explanation)

The English version of the entire academic subject descriptions and subject numbering system was completed in 2016. Through the holding of the International Faculty Development Training Program and the various on-campus Faculty Development events every year, and the International Faculty Development Seminar from 2019, NAIST is taking measures to ensure the global competitiveness of its educational contents. The acceptance and dispatchment of students through the double degree programs also contributes to the internationalization of our educational programming. Finally, in regards to evaluating educational results, introducing the GPA system and the implementation of a globally standard evaluation system with milestones and capstones to evaluate progress of doctoral thesis research based on rubrics are also reasons justifying the above evaluation status.

○ Current Status of “Diverse Career Path Creation for International Students”  
(Tertiary category #3)

In 2015, the Institute for Educational Initiatives (IEI) was established with the Division for Educational Development which maintained the Department for Career Development. In 2016, a UEA (University Education Administrator) was hired to take charge of career development support in English for international students, and held individual counseling sessions for international students (roughly 10/month, 100 in total) and career guidance sessions in English (Held 6 times, 56 participants in total). As a result of this, the percentage of doctoral graduates who found employment upon graduation increased 1.8 times. A career guidance class has been held in the spring and fall semesters for incoming students since 2017 (The class is held 8 times in each semester.) and is an important opportunity for international students to develop an understanding of the distinctive features of the Japanese job-hunting process. Also, in 2016 an Adjunct Professor who worked for foreign-affiliated corporations with many ties to industry was hired to offer support for international students’ career development. This led to the implementation of continued support activities such as the on-day industry visitation program for

## I . Overall outline

international students and the mid-term industry experience program. The Department for Career Development was upgraded to the Division for Career Development within IEI in 2018 and aims to further expand its support programming.

In order to develop Japanese skills close to the N1 or N2 of the JPLT test, which most Japanese corporations, etc. look for when recruiting international students, the Division for Career Development UEA initiated the opening of the “Japanese Lectures” in 2017 and 2018. From 2019, this became an official part of the curriculum as “Japanese V” and along with establishment of “Japanese 1-IV” to cover levels N5-N3 of the JLPT test, became a structure offering a wide variety of Japanese language education in NAIST’s curriculum. Along with these courses in the curriculum, a volunteer-based Japanese language program is operated to offer Japanese language education for both students and their families as well.

Various career development events have been held since 2017, including job fairs where students can meet with the Japanese-affiliated companies they wish to work at, business start-up seminars collaborating with outside institutions for international students thinking of starting their own business, and networking events for international students and companies looking to hire international students.

NAIST is also taking steps to offer support for career path development and job-hunting for NAIST graduates in their home country through the Indonesian and other alumni associations. The results of the above diverse career support measures can be found in Chart 3-1, which shows the employment percentages for doctoral course graduates.

Chart 3-1 Employment percentages for doctoral course graduates

Calendar year	2013		2016		2017	2018	2023
	Goal	Actual	Goal	Actual	Actual	Actual	Goal
Percentage of international students who found work in Japanese industry	0.0%	0.0%	10.0%	24.1%	30.3%	28.6%	33.3%
Percentage of international students who found work outside of Japan (including academia)	13.3%	26.7%	18.0%	20.7%	36.4%	42.9%	33.3%

(Evaluation of implementation status)

Current status is excellent.

(Evaluation explanation)

A diverse array of career development support is being offered to international students by the career development support UEA and the Adjunct Professor hired specifically for international student support. This has resulted in moving closer to 2023 goal of 33.3% of the international

## I . Overall outline

student graduates of the doctoral program entering Japanese industry, etc. after graduation and 33.3% gaining employment (including academia) outside of Japan. While the percentages fluctuate every year, substantial career development support is offered every year for international students, so the status was evaluated as above.

### ○ Current Status of “Double Degree Program Enhancement” (Tertiary category #4)

Since the signing of the double degree agreement with University of Oulu for the doctoral program in August, 2010, to date NAIST has concluded 8 agreements for double degree programs, steadily increasing the number of double degree partner institutions. The double degree partner institutions are located throughout the globe, including Europe, Asia and Oceania. (See Chart 4-1) Even after being chosen for the Top Global University project, NAIST continued to expand its international partnerships while carefully reviewing those double degree program agreements which were to expire to determine whether or not they should be renewed, based on the projected possible joint activities.

For the period between August 2010 and December 2019, the number of students dispatched and accepted in the double degree program is 8 students (3 students graduated, 4 are currently enrolled and 1 has withdrawn) accepted and 4 students (2 students have graduated and 2 are currently enrolled) dispatched to the partner institutions. In order to expand the programs, the long-term study abroad support project was formulated in December 2019 to support Japanese students when they travel abroad by funding travel and living expenses and this shall begin in 2020.

Double degree programs have only been offered for doctoral students up to now, but the related regulations to allow for double degree programs to be offered to master’s students as well have been revised and NAIST is working together with a partner institution to implement a master’s course double degree program in 2022.

## I . Overall outline

Chart 4-1 Double degree partner institutions

< Current programs >

	Partner institutions (Names as indicated in agreements)	Countries/regions	Concluded (renewed) in	Student acceptance/dispatchment history
1	Université Paul Sabatier	France	February 28, 2014 (February 28, 2019)	Acceptance: 1 student (1 enrolled until August, 2021) Dispatchment: 3 students (2 graduated, 1 enrolled until March 2021)
2	Université Paris-Saclay	France	April 23, 2018	Dispatchment: 1 student [1 enrolled until September, 2022]
3	Sorbonne Université	France	April 29, 2019	Call for applications will open for 2020 spring enrollment
4	Ulm University	Germany	July 31, 2017	Acceptance: 1 student (1 enrolled until March 2021)
5	University of Malaya	Malaysia	April 4, 2015	Acceptance: 1 student (1 enrolled until March 2020)
6	National Chiao Tung University * Note: 3 departmental agreements	Taiwan	① November 19, 2015 ② November 19, 2015 ③ March 3, 2017	Acceptance: 1 student (1 enrolled until September 2020)
7	Unitec Institute of Technology	New Zealand	May 21, 2015	Acceptance: 2 students (1 graduated, 1 withdrawn) (Agreement will end in May 20, 2020)
8	Macquarie University	Australia	July 10, 2019	Call for applications will open for 2020 spring enrollment

< Ended program >

	Partner institutions (Names as indicated in agreements)	Countries/regions	Concluded (terminated) in	Student acceptance/dispatchment history
1	University of Oulu	Finland	August 31, 2010 (August 30, 2015)	Acceptance: 2 students (2 graduated)

(Evaluation of implementation status)

Current status is very good.

(Evaluation explanation)

Beginning with the signing of the first double degree agreement at NAIST in August 2010, the number of double degree program partner institutions and participants has steadily increased. With the use of a scrap and build process, programs are reviewed before their agreements are renewed in order to guarantee the double degree programs' content quality, so the status was evaluated as above.

## I . Overall outline

### ( 2 ) Analysis of “Globalization” (Secondary category #2)

#### ○Current Status of “Improvement of Overseas Brand Recognition” (Tertiary category #1)

NAIST opened overseas offices in Indonesia (Bogor) in April 2016 and in Thailand (Bangkok) in March 2017. In Indonesia, NAIST is strengthening its presence by participation of the NAIST alumni network in study abroad fairs, visits to international partner institutions and holding symposiums to appeal to universities, government offices and Japanese businesses with operations in Indonesia. The Thailand office is also used as a base for annually-held student

symposiums and for student recruiting events incorporating internships at NAIST, effectively expanding NAIST’s research and education prowess in Thailand. In order to strategically structure an international researcher network, NAIST has established and operates international collaborative laboratories at UC Davis and Université de Paul Sabatier.

For PR activities in Europe, NAIST has joined JANET (Japan Academic Network in Europe), an organization mostly composed of Japanese universities and academic institutions with extensions, etc. in Europe which promotes the exchange of academic information between Japan and Europe. A NAIST faculty member serving as the Information Dissemination Committee Chairperson actively promotes NAIST and its activities while expanding our network with other educational institutions and recruiting talented students and researchers. NAIST URAs (University Research Administrators) participate in the international URA consortium INORMS (International Network of Research Management Societies) every year and promote NAIST activities there as well. A NAIST faculty member is the Program Committee Chairperson for the INORMS 2020 World Congress to be held in Hiroshima, and participates in related conventions in the US, Europe, Australia and Asia actively disseminating information while promoting NAIST and other Japanese universities.

Every year, in addition to participating in the Japan Study Abroad Fairs (Thailand, Vietnam, Taiwan, Malaysia, Indonesia), the Post Graduate Education Fair (Malaysia), and the Information Session for Students to study in Japan (China), NAIST visited international partner institutions to introduce NAIST and the education and research being undertaken in order to further increase our overseas presence. (From 141

Picture 1-1 NAIST Indonesia Office Kick-off Symposium (August 2016)



Picture 1-2 NAIST booth at Study in Japan Fair (Thailand)



## I. Overall outline

faculty members sent abroad in 2013 to 173 faculty members sent in 2018)

In addition to these activities, NAIST produces English versions of the NAIST Guidebook and Laboratory Introduction, sending and distributing them to international partners and related institutions, while also making them available on the NAIST homepage in order to widely disseminate information concerning our education and research activities and international activities. The Division for Global Education homepage was also renewed in order to expand and organize the information offered in both languages as another measure to send out information about NAIST international activities and our international presence.

(Evaluation of implementation status)

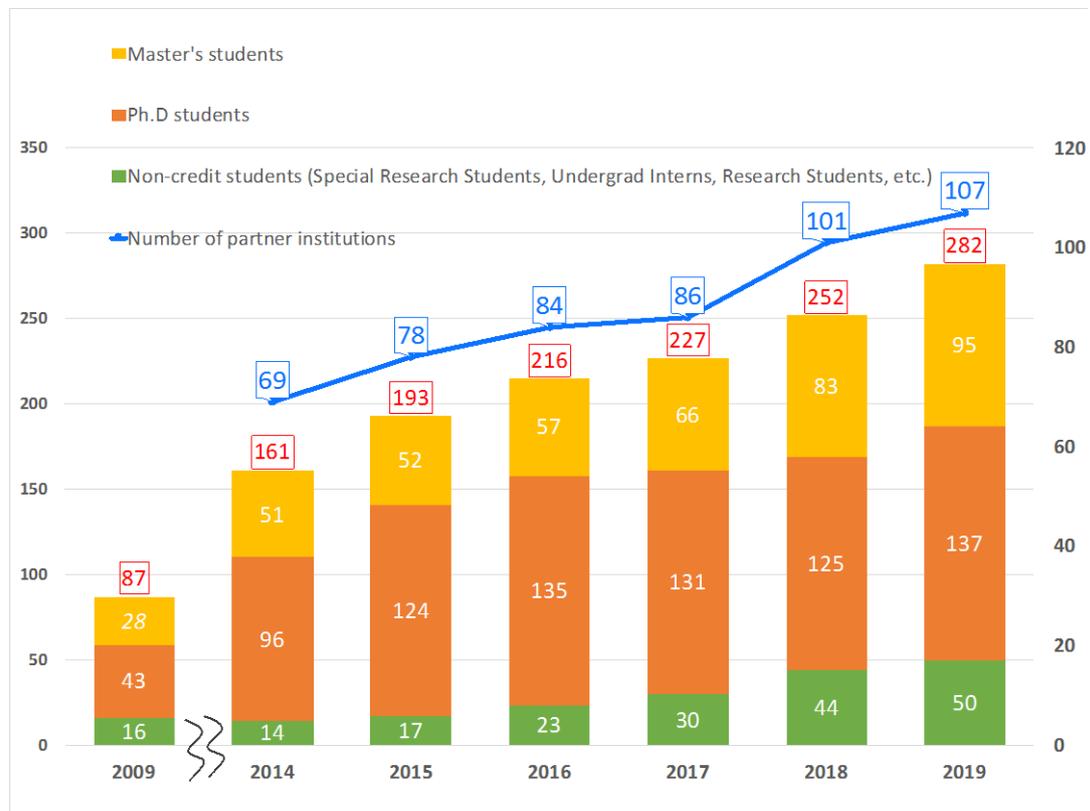
Current status is very good.

(Evaluation explanation)

Through the NAIST overseas offices, the collaborative laboratories, and the URA group consortium, NAIST has actively disseminated information to strengthen the presence of both NAIST and other Japanese universities. Also, considering efforts to increase NAIST's brand recognition including participation study abroad fairs, partner institution visits and homepage renewal, the status was evaluated as above.

### ○Current Status of “Achieving a Global Campus” (Tertiary category #2)

Chart 2-1 International student and international partner institution growth (As of May 1<sup>st</sup> every year)



## I . Overall outline

Through efforts including the expansion of international partner institutions (From 69 institutions from 25 countries/ regions as of May 2014 to 107 institutions from 29 countries and regions as of 2019), student recruiting activities from the overseas offices, etc., and the establishment of the Undergraduate of Internship Student System to accept undergraduate students at NAIST, the number of international students at NAIST has greatly increased. (See Chart 2-1) While the international student population is centered on Southeast Asian countries, the population is balanced without a specific country being overly represented and it maintains a strong diversity with students from 37 different countries. (As of October 2019) Concerning international (non-Japanese) researchers, through support strategically implemented for international researcher acceptance for collaborative research, every year many international researchers are accepted to NAIST. (From 181 international researchers in 2014 academic year to 197 researchers in 2019)

Every year the Overseas Faculty Development Program and Staff Development Program are held and these programs aim at further improving teaching skills in various environments and laboratory management. The Staff Development Program aims to develop experienced staff that is able to respond to the various needs of students and faculty. Both of these programs end with a debriefing session in order to ensure that the faculty and staff experiences achieved through the program are given as valuable feedback to the entire campus.

In order to facilitate international students and researchers in making the most of their time in Japan, NAIST established the Center for International Students and Scholars (CISS) to help students and scholars in a wide spectrum of both academic and private matters, from cultural issues in the lab and on campus to support for their accompanying family members. In addition to the production and revision of the Handbook for International Students and the International Staff and Researcher's Handbook, the implementation of orientations for international researchers, the expansion of counter services for international researchers, and the planning and execution credit card application sessions, etc., the Ambassador Program, a peer support program for international students, was planned and begun. Also, NAIST Tea Time, an on-campus event for faculty staff and students that encourages building ties and cross cultural communication where students introduce their country's history, culture, etc., has been held 17 times since 2015. Along with this, the International Friendship Meeting, an annual international exchange meeting for NAIST members is held and representatives from groups supporting the international community, local elementary faculty and other local community members are invited. (2019 participants: 294) These and other efforts such as the

Picture 2-1 On-campus event for cross cultural communication "NAIST Tea Time"



## I . Overall outline

presentation “Studying with International Students”, held for incoming Japanese students to stimulate and facilitate active interaction between international and Japanese students are being implemented to further develop NAIST’s global campus.

(Evaluation of implementation status)

Current status is excellent.

(Evaluation explanation)

In order to achieve NAIST’s global campus the acceptance of talented international students and researchers is encouraged and, especially when looking at the percentage of international students on campus at NAIST, the actual percentage of international students at NAIST in May 2019 (24.9%) is already higher than the final goal percentage for May 2023. (23.2%) Also, considering the various measures undertaken for international student and researcher support through the Center for International Students and Scholars (CISS), the status was evaluated as above.

### ○Current Status of “Promoting Faculty Diversity” (Tertiary category #3)

NAIST is working to increase the number of international faculty members, faculty members with degrees from abroad and faculty members with extensive experience abroad to ensure the diversity of the faculty. Under the leadership of the President, the international faculty recruitment incentive program, a program where incentive funding approved by the President is given to divisions which hire international faculty members as a measure to promote the employment of distinguished international faculty. In recruiting new faculty members, advertisements and calls for researchers are released internationally and the selection process stresses education and research experience abroad. Also, through NAIST’s original long-term overseas dispatchment program, the Global Brain Circulation Project’s Young Researcher’s Overseas Experience Program, continued support is offered for long-term faculty dispatchment and every year 3-4 young faculty members are sent to overseas research institutions. The concrete result achieved through these efforts is an increase in the percentage of international faculty members, faculty members with degrees from abroad and faculty members with extensive experience abroad (one year or more), from 32.9% (72 faculty members) as of May 2013 to 57.1% (129 faculty members) as of May 2019.

(Evaluation of implementation status)

Current status is very good.

(Evaluation explanation)

Considering the definite yearly increases in international faculty members, faculty members with degrees from abroad and faculty members with extensive experience abroad (one year or more) through the implementation of the international faculty recruitment incentive program and NAIST’s original Global Brain Circulation Project’s Young Researcher’s Overseas Experience Program, the status was evaluated as above.

## I . Overall outline

### OCurrent Status of “Administrative Staff Development” (Tertiary category #4)

The standard foreign language (English) score for administrative staff members was set at 750 pts. or higher in the TOEIC test, and NAIST is aiming to have 47 of the 175 full-time administrative staff members meet this standard. The English Training Program and the Overseas Staff Development Program are held for the administrative staff (including technical staff) in order to achieve this goal.

In 2014 the TOEIC-IP test was held for full-time staff members (154) and their scores were analyzed to determine what levels of English instruction were appropriate. Every year a 3-month English Training Program is held on campus focused on TOEIC testing skills led by an outside lecturer. (See the number of participants in Chart 4-1) Also, in 2019 a survey of the full-time administrative staff concerning the future contents of the English Training Program was held and, as a result, content changes from TOEIC–focused contents to practical training contents such as E-mail writing, English conversation, etc., are currently being deliberated.

Chart 4-1 Staff English Training Course Participation (number of participants)

Academic year	2014		2015		2016		2017		2018		2019	
Level	Beginner/ Intermediate	6	Intermediate	6	Intermediate	5	Beginner	6	Beginner	6	Intermediate/ Advanced	4
	Intermediate/ Advanced	6	Advanced	4	Advanced	4	Advanced	5	Advanced	6		
	Total	12	Total	10	Total	9	Total	11	Total	12	Total	4

In the Overseas Staff Development Program, in addition to language training abroad, participants had meetings with corresponding staff at the host institutions, participated in job-shadowing and held investigative interviews. The participants came from offices including general affairs, accounting, personnel, educational affairs, cooperative research and international affairs, representing most of the administration. The participants gave reports in debriefing sessions and submitted written reports which were released on NAIST’s intranet homepage. The program information can be found in Chart 4-2.

Chart 4-2 Overseas Staff Development Program Information

Academic year	Institution (Country)	Program period	Number of participants	Participant’s section (at that time)
2014	Hawaii Tokai International College	Nov. 10 – 23, 2014	2	Student Affairs Division, Finance Division
2015	Hawaii Tokai International College	Nov. 30 - Dec. 20, 2015	1	Personnel Division
2016	Hawaii Tokai International College	Nov. 7 – 19, 2016	1	International Affairs Division
	Macquarie University	Nov. 20 – Dec. 3, 2016	1	Cooperative Research Division
	University of California,	Jan. 5 – 21, 2017	1	Educational Affairs Division

## I . Overall outline

	Davis			
2017	Hawaii Tokai International College (USA)	Nov. 6 – 17, 2017	1	Planning and General Affairs Division
	Macquarie University	Nov. 6 – 17, 2017	1	Personnel Division
	Massachusetts Institute of Technology and University of California, Davis (USA)	Jan. 11 – 19, 2018	1	International Affairs Division
2018	University of California, Davis(USA)	Jan. 4 – 18, 2019	2	Finance Division, Cooperative Research Division
2019	Hawaii Tokai International College	Nov. 4 – 17, 2019	2	International Affairs Division, Cooperative Research Division
計	3 universities (USA) 1 university (AU)		13	

Furthermore, in order to evaluate the overall results of these programs, every year the participants are required to take the TOEIC-IP test before participation and at the end of the academic year. Also, by implementing these programs, the percentage of full-time administrative staff members (including technical staff) who met the standard foreign language (English) score, having scored 750 points or more on the TOEIC test, was 24.1% (40 people out of 166) and reaching the final project goal of 26.9% set for 2023 is deemed achievable. (See graph ⑩ in II Performance Index Data)

In addition to the NAIST programs, staff members are sent abroad for practical training (1 year) to further develop advanced skills by using the Japan Society for the Promotion of Science's International Academic Exchange Training Program. (1 staff member sent abroad in 2018 and 1 in 2020) Also, staff members accompany faculty and administrative executives on overseas business trips related to the Program for Promoting the Enhancement of Research Universities to gain more practical experiences in different settings.

In 2019, study meetings for staff members (administrative and technical staff) proposed by a fellow staff member were held with the theme of "Internationalization at NAIST". The first meeting focused on explaining the current programs and efforts concerning NAIST's global community and activities to the participants, and was followed with a discussion and question and answer session. The second meeting dealt with explaining and introducing Japanese culture, life in Japan and local tourist/historical locations in English, with the cooperation of the Nara Prefecture International Citizens Support Center.

(Evaluation of implementation status)

Current status is excellent.

(Evaluation explanation)

As of May 2019, 24.1% (40 people out of 166) of the administrative staff (including technical staff) members met the standard foreign language (English) score, scoring 750 points or more on the TOEIC test, which is more than the original goal of 21.7% (38 people out of 175) established for this period. Considering that through achieving this NAIST was able to position at least one

## I . Overall outline

person who can speak English well in each division of the administration offices, the status was evaluated as above.

### (3) Analysis of “Governance Reform” (Secondary category #3)

#### ○Current Status of “Improvement Education and Research Management for Globalization” (Tertiary category #1)

In order to arrange a strategic management structure that is both flexible and highly responsive, the Center for Strategy and Planning was established under the leadership of the President to centralize the planning and development functions for education and research that were spread across various committees. From 2017, the Vice President in charge of institutional research (IR) has been positioned as the Institutional Research (IR) Office Director and the office was expanded to reach across all administrative offices to thoroughly make use of not only data related to education but also data related to research, human resource development, internationalization, finances, and industry-government-academia collaboration. (See Figure 1-1)

In order to implement the President’s policies concretely, rapidly and across the entire institution, IEI was established with the Executive Director in charge of education/Vice President as its head with UEAs positioned at each Division as an educational support organization and the Institute for Research Initiatives (IRI) was established with the Executive Director in charge of research/Vice President as its head with URAs positioned at each Division as a research support organization. (See Figure 1-2)

In the Division for Educational Development of IEI, improvements are being furthered to enhance the curriculum contents institute-wide. The Division for Global Education is promoting efforts to expand collaboration with overseas partners and institutions, supporting the establishment and management of overseas offices, constructing new double degree programs and implementing the faculty and staff development programs, etc. for faculty and staff members. The Division for Career Development offers education and support for career planning for both Japanese and international students.

IRI is actively pursuing the development of research and educational activities with international partners and research institutions, centered around the two Overseas Collaborative Laboratories maintained in University of California, Davis (US) and Paul Sabatier University (France), and the three on-campus Collaborative Laboratories, (Carnegie Mellon University (US), The University of British Columbia (Canada), and Ecole Polytechnique (France). IEI and IRI, along with the IR Office, are fortifying the management of research and education for internationalization through close collaboration with various offices on campus.

# I. Overall outline

Figure 1-1 IR Office Duties and Operating Structure

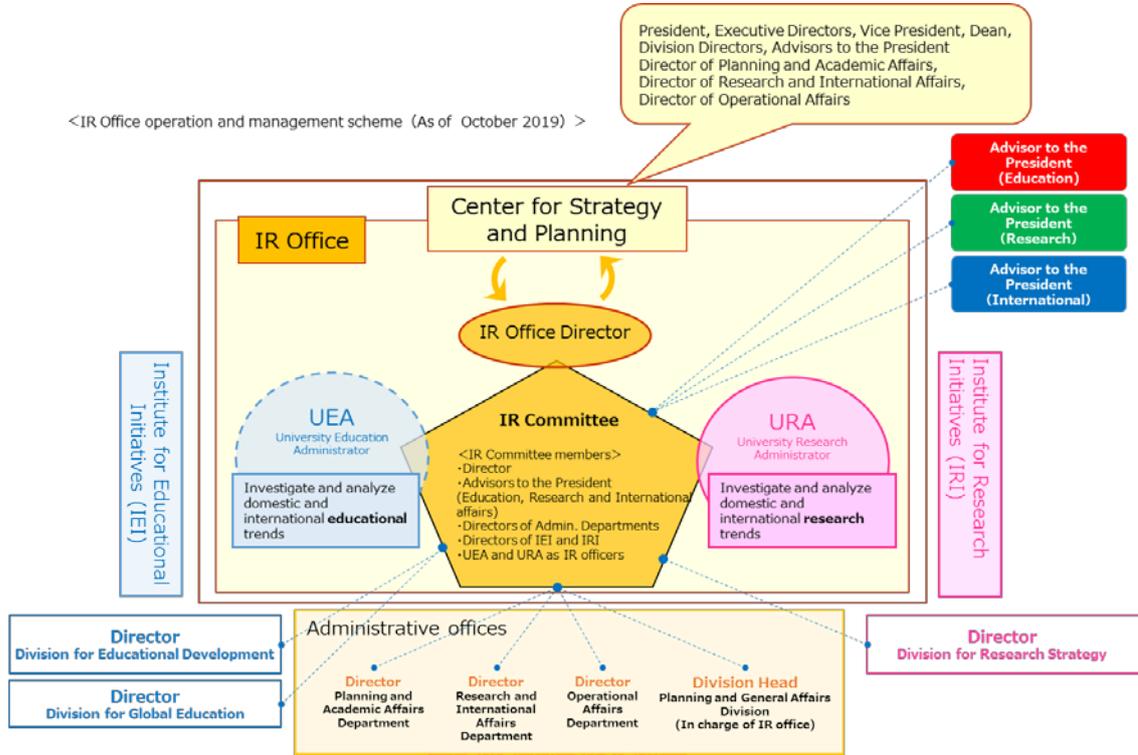
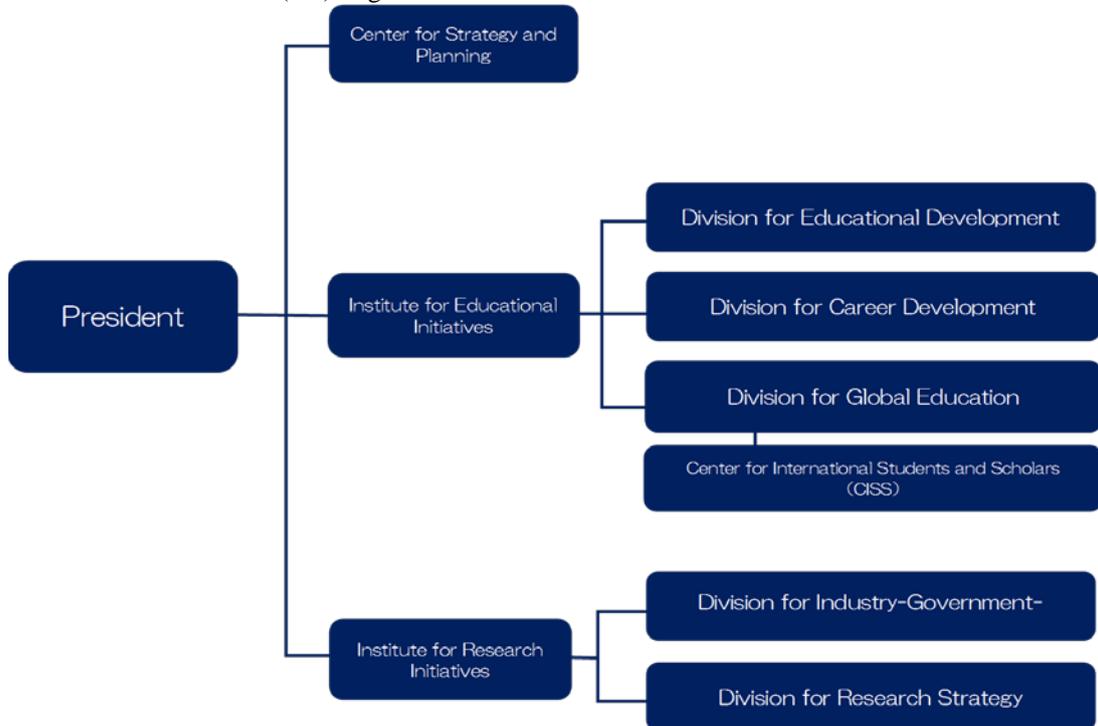


Figure 1-2 Center for Strategy and Planning, Institute for Educational Initiatives (IEI), and Institute for Research Initiatives (IRI) Organization Chart



## I . Overall outline

(Evaluation of implementation status)

Current status is very good.

(Evaluation explanation)

Considering the measures to improve management of research and education for internationalization achieved through the Center for Strategy and Planning led by the President, the expanded organizational structure of the IR Office to be able to make use of not only data concerning education, but also NAIST data concerning research, human resource development, internationalization, finances, industry-government-academia collaboration, etc., and the collaboration of the Institute for Educational Initiatives (IEI) and the Institute for Research Initiatives (IRI) with various offices throughout the campus, the status was evaluated as above.

### I -2. Analysis of the Achievement Status of the “Progress towards Sustainable Measures”(Primary category)

In order to achieve sustainable measures through this program, it is essential that NAIST increase its overall income and secure a stable campus budget. This analysis looks at the progress of measures undertaken as of the 2019 academic year.

At NAIST to increase the amount of competitive funding acquired, there have been roughly 110 cases (as of December 2019) where URAs, etc. checked and gave advice about applications for this funding. As a result, the total amount of external funding received as of Dec.2019 is 1.62 billion yen. (287,438,000 yen from collaboration with industry, 859,611,000 yen from consignment research, 190,485,000 yen from donations, and 282,762,000 yen from competitive funding) Funding from Grants-in-Aid for Scientific Research totaled 1.12 billion yen. These amounts together are considerably more than NAIST’s yearly goal of receiving more than 1 billion yen external funding every year. Additionally, in order to promote awareness about external funding acquisition among researchers, NAIST established an incentive system for those researchers who substantially contribute financially to NAIST, through the funding received as part of overhead costs which is included in the external funding the researcher has achieved. In the 2019 fiscal year, 41 researchers received monetary awards through this system.

In order to increase interest in possible contributors outside of NAIST in considering donations to the institute, the Nara Institute of Science and Technology Fund implemented a program from July 2019 where individuals or businesses who donate 50,000 yen or more have a commemorative engraved nameplate attached to a seat in the Millennium Hall, the lecture hall where open lectures for the public are held. Through this program we were able to better publicize the benevolent donations that NAIST received from even more contributors than previous years.

New measures started include the Naming Rights Project and the Crowdfunding Project. For the first project, the Application Guidelines for Naming Rights partners were made public on the NAIST homepage on July 2<sup>nd</sup>, 2019 and, of the 7 facilities and rooms available, the large seminar hall of the Information Science Complex was renamed “AI, Inc. Seminar Hall” (Agreement

## I . Overall outline

period: Jan. 1<sup>st</sup>, 2020 to Dec. 31<sup>st</sup>, 2024; Agreement amount: 330,000 yen per year) upon negotiation with AI, Inc. The other facilities and rooms are currently still open for naming. For the latter project, NAIST held an explanatory meeting for NAIST faculty, staff and students on July 26<sup>th</sup>, 2019 to introduce how crowdfunding could be used for NAIST's research and education activities.

In addition to the above efforts, the Academic Instruction Program was newly established in 2019 where NAIST faculty members, upon being requested by private industry, etc., offer instruction and advice based on their educational, academic and technical knowledge and experience. As of December 2019 there have been 7 requests to NAIST for instruction and this has net a total of 11.5 million yen in income. (Including consumption tax)

In order to increase various types of external funding, NAIST has decided, in principal, from April 1<sup>st</sup>, 2020 to add 30% of the direct costs for collaborative research with private industry, etc. to the total amount of costs to cover indirect research costs incurred. This policy change was announced on the NAIST website in January 2020.

NAIST is maintaining the project size of our Top Global University (TGU) Project at 250 million yen every year. The grant amount in 2019 for the International Hub Development Project Grant within the TGU Project was 50 million yen and the actual planned burden on NAIST is listed as 51 million in the grant report. The sum of these, the simple figure representing the TGU Project's financial size, is 101 million yen (40% of the scale being maintained), demonstrating a reduction in scale from the actual size. However, through the absorption of costs of parts of the TGU Project into management expense grants and the Program for Promoting the Enhancement of Research Universities, NAIST is striving to continue to maintain the original TGU Project scale.

(Evaluation of implementation status)

Current status is very good.

(Evaluation explanation)

NAIST achieved considerably more competitive funding from Grants-in-Aid for Scientific Research, consignment research, etc. every year than its yearly goal of 1 billion yen or more a year. In 2019 NAIST established the Naming Rights Project, the Crowdfunding Project and the Academic Instruction Program in pursuit of diversification of NAIST's financial sources. Also, considering the efforts to maintain the original scale of the TGU Project by absorbing the part of its cost into management expense grants, etc., the status was evaluated as above.

## I . Overall outline

## II . Analysis of the Achievement Status from the Performance Index Data

### Overall Summary based on Analysis of Performance Index Data

The percentage of achievement for 17 of the performance indexes for the TGU Project was compared between NAIST and the average of the 37 institutions (Top Type: 13 projects and Global Traction Type: 24 projects (including NAIST)) that were chosen for the TGU Project.

Of the categories which have distinguishing achievements, the number of international students has continued to grow greatly, both in the graph ④ - 1 showing the percentage of international students as of May 1<sup>st</sup> of each year and graph ④ - 2 showing the percentage of international students overall for each year, since the previous mid-term evaluation. In graph ④ - 1 the percentage of international students as of May 1<sup>st</sup>,2019 is 24.9% (282 international students), which is already higher than goal set for the final project year 2023, 23.2%, and this is higher than the overall average of the participating institutions. The same rising trend has been achieved in the acceptance of international students based on international academic agreements as shown in graph ⑥ - 2.

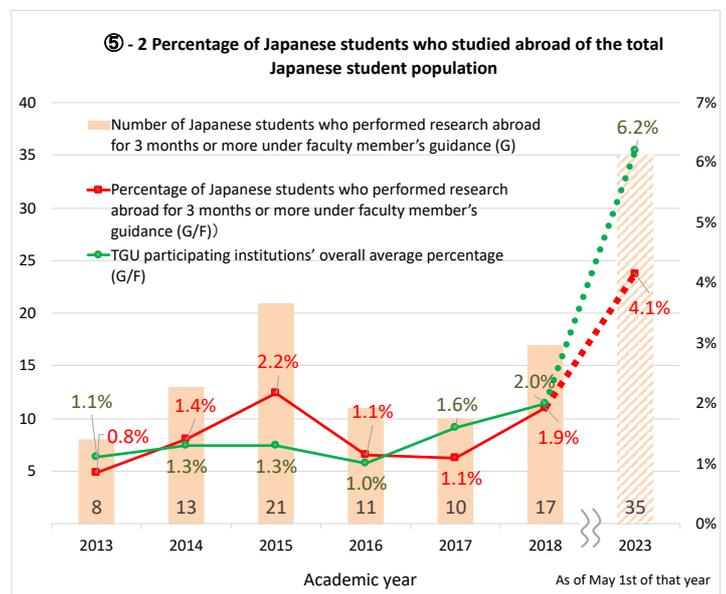
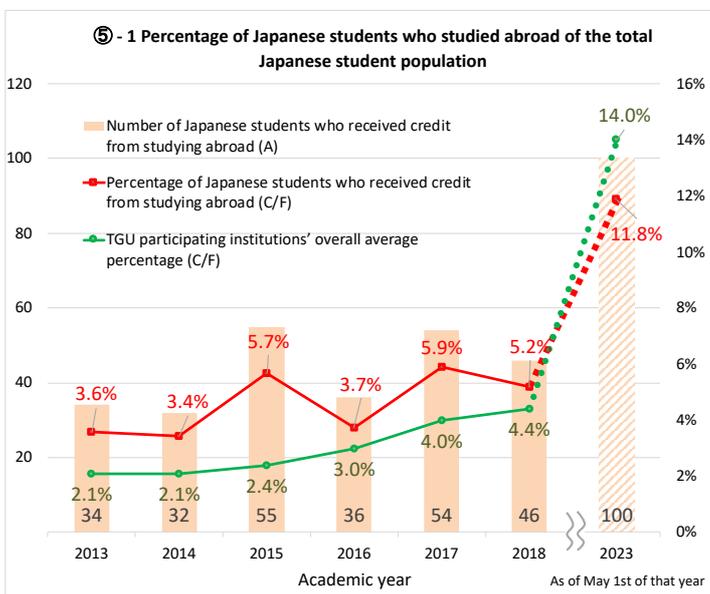
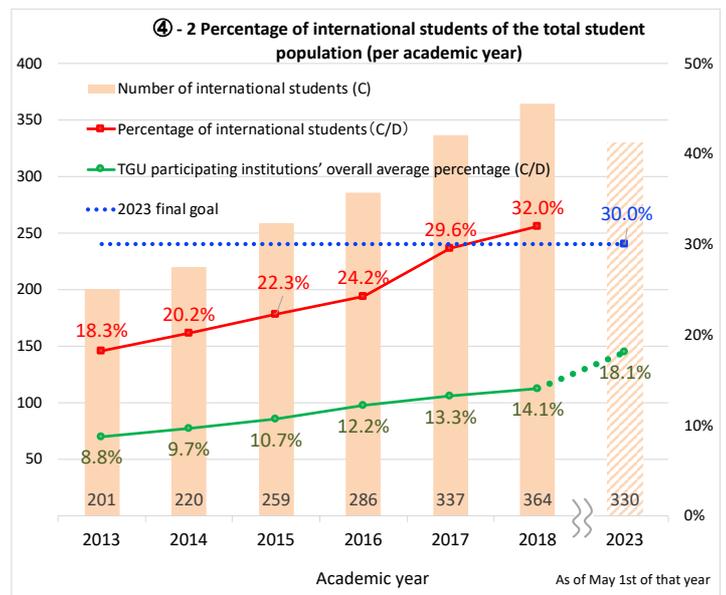
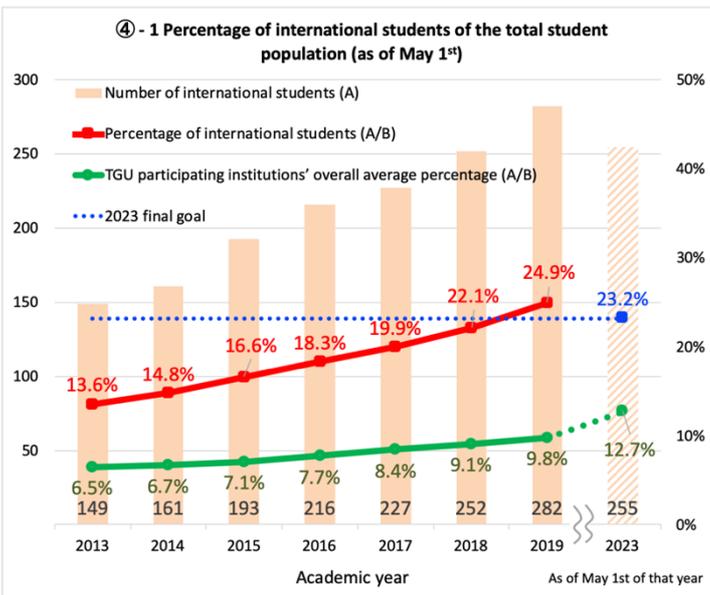
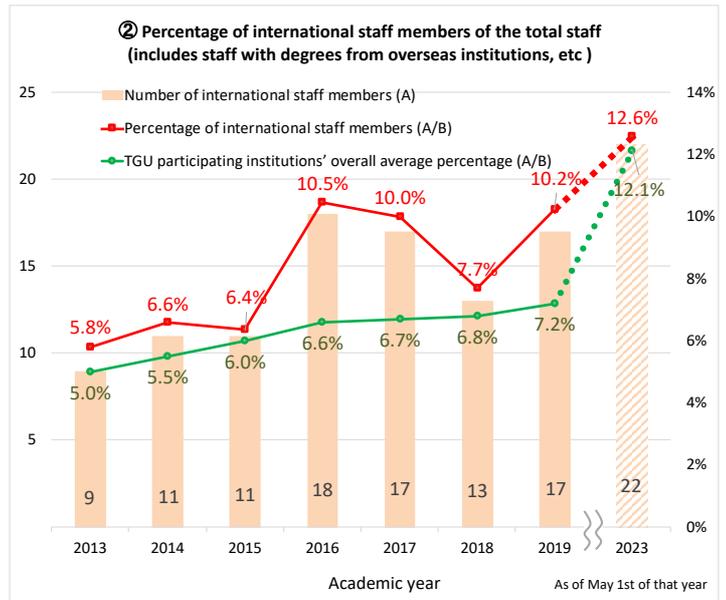
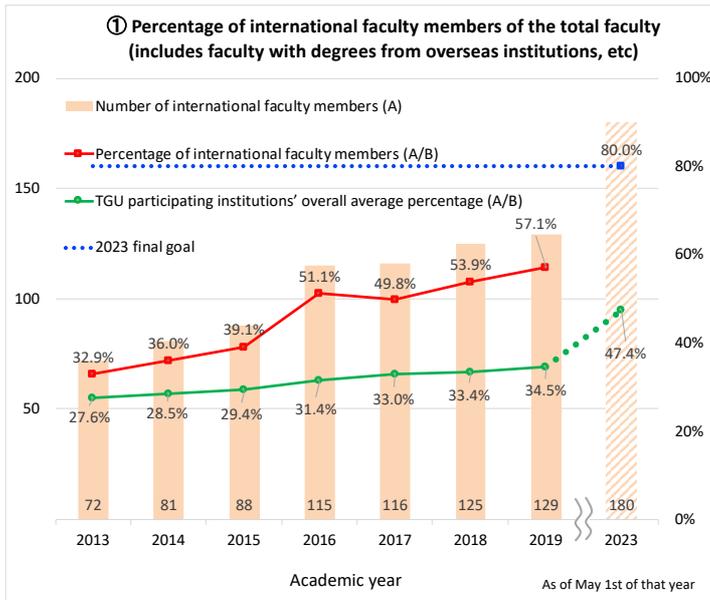
In relation to the Education Programs, the number of and percentage of subjects taught in English are increasing steadily (graph ⑦). With the transition to the single graduate school structure in 2018, NAIST fully met its goal for the number of courses in which students can graduate using only English. Also, the subject numbering system (graph ⑩) and the complete English subject descriptions (graph ⑪) were achieved in the 2016 academic year.

The area that warrants more attention is the percentage of NAIST's Japanese students who study abroad (graphs ⑤ - 1 and ⑤ - 2). While NAIST's percentage is slightly above the participating institutions' overall average, new measures will need to be undertaken in order to achieve our final goal of 11.8% (an average of 14% for the participating institutions) for this. There is a great variation every year in the number of Japanese students who study abroad at our international partner institutions (graph ⑥ - 1).

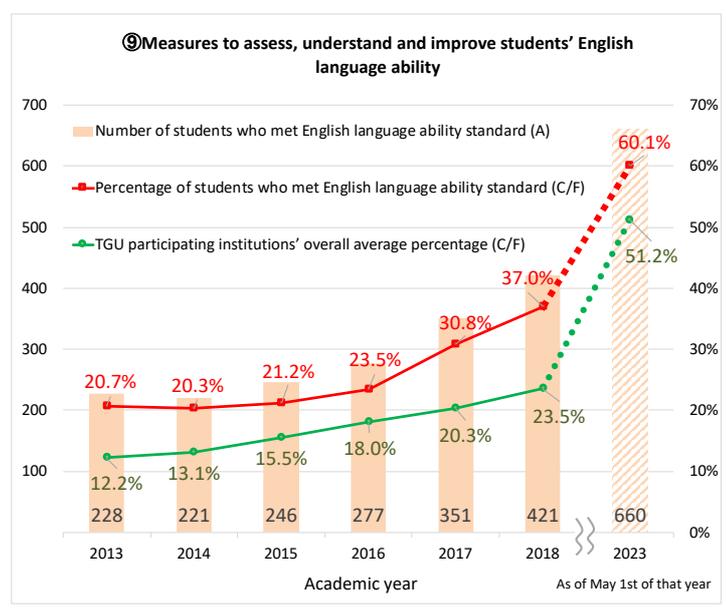
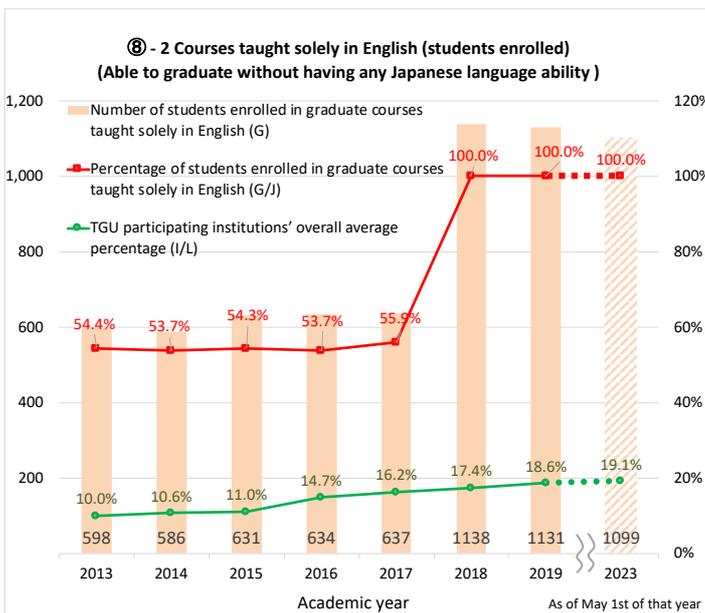
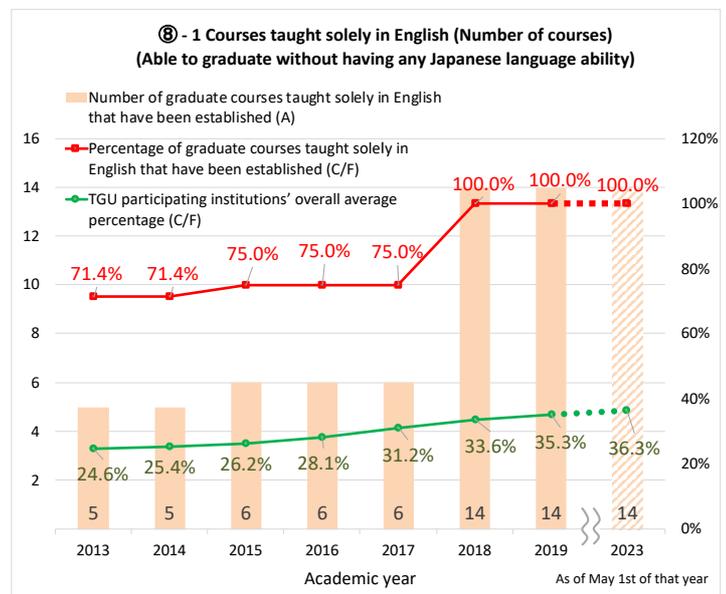
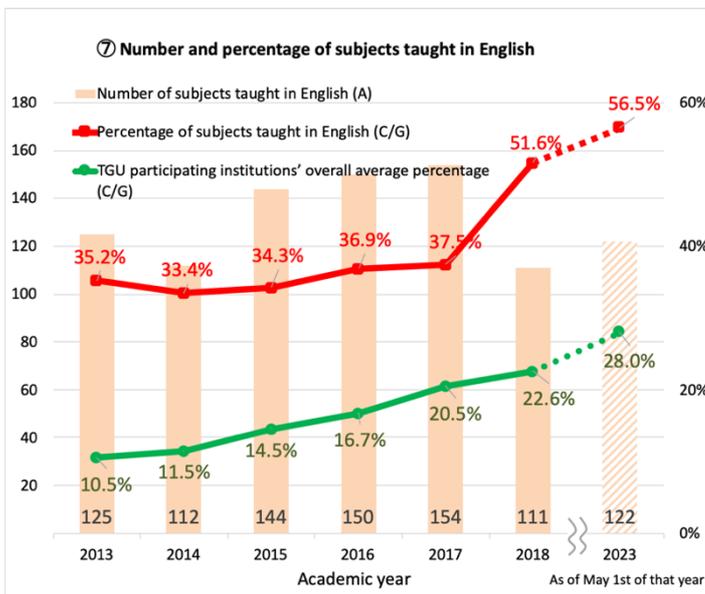
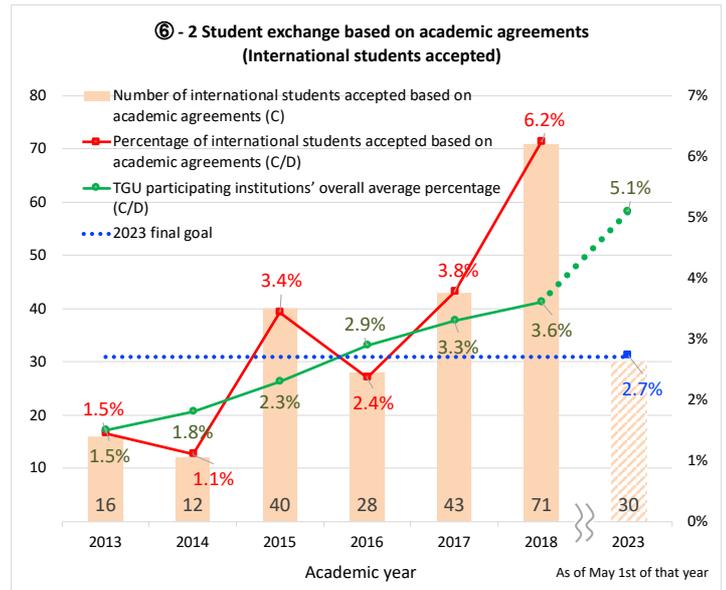
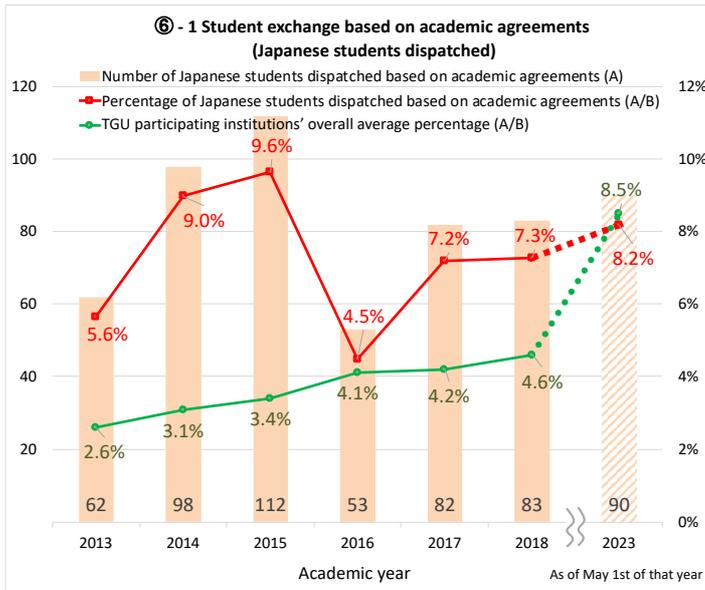
The English ability level in graph ⑨ is steadily increasing and the percentage of students (37% as of May 2019) that have met the foreign language standard (TOEIC score) is much higher than the participating institutions' overall average (23.5%). However, in order to reach the final goal of 60.1% (Participating institutions' final goal overall average is 51.2%), NAIST will need to implement further measures considering its special characteristics as a graduate school institution.

In respect to the internationalization of the faculty in graph ①, the number of international faculty members, etc. is higher than the participating institutions' overall average. Also, for the annual salary system for faculty members, the number of faculty members employed under this system is steadily increasing (See graph ⑭ - 1) . For administrative staff, the number of staff members who have met the English language standard is increasing and the percentage of these staff members, 24.1% as of May 2019 is far higher than the participating institutions' overall average, 17.4%. Additionally, the number of international staff members, etc. in graph ② is also steadily increasing. Please note that the drop in administrative staff employed under the annual salary system (See graph ⑭ - 2) is due to the switching of annual salary employees to monthly employees to allow them to continue their careers at NAIST, considering the career development of highly skilled professional staff at NAIST.

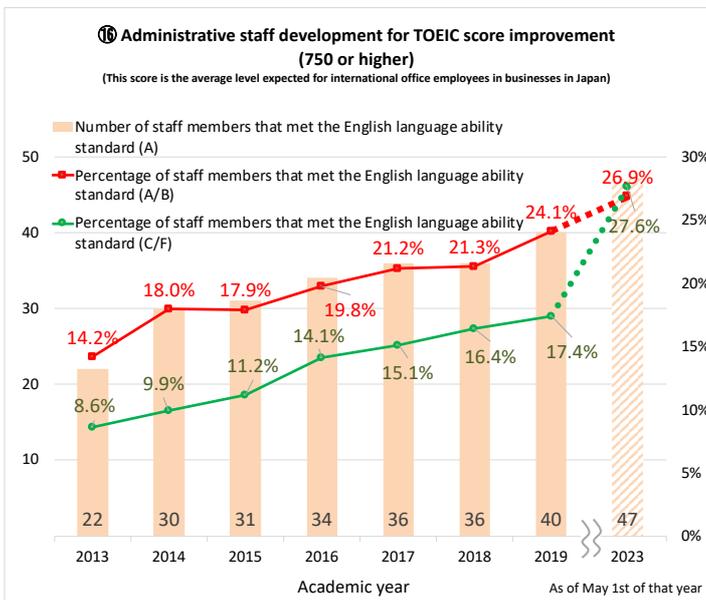
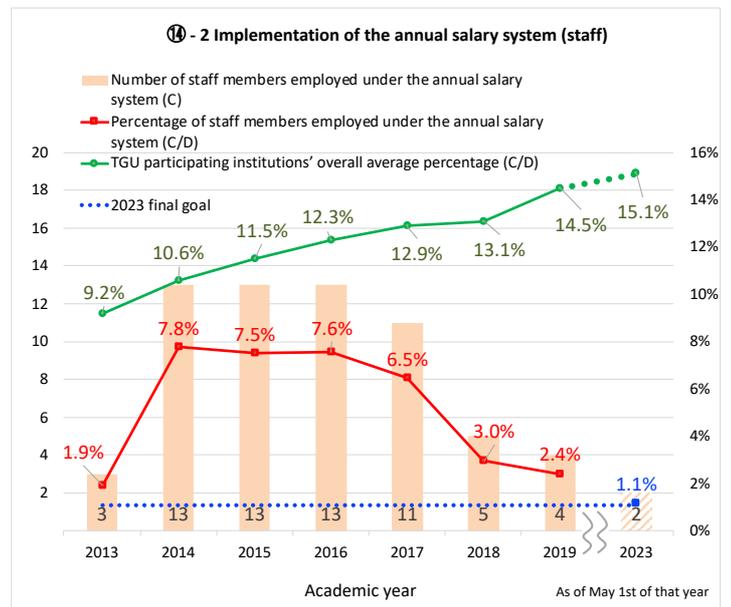
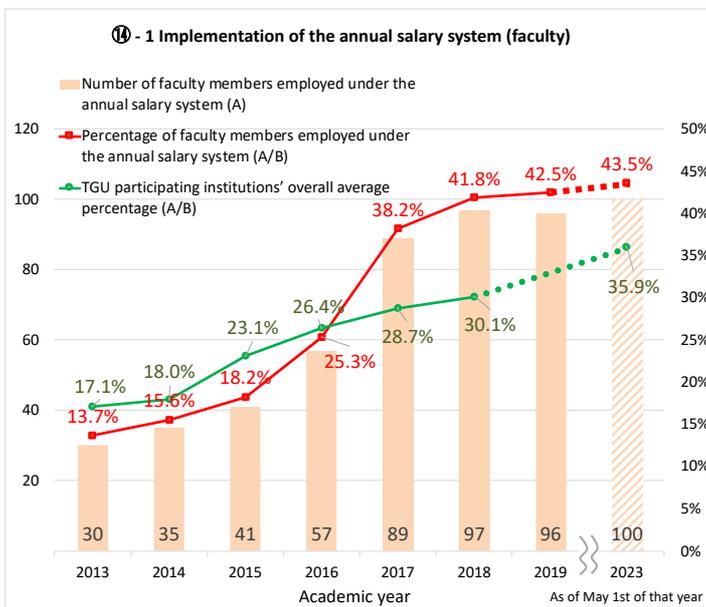
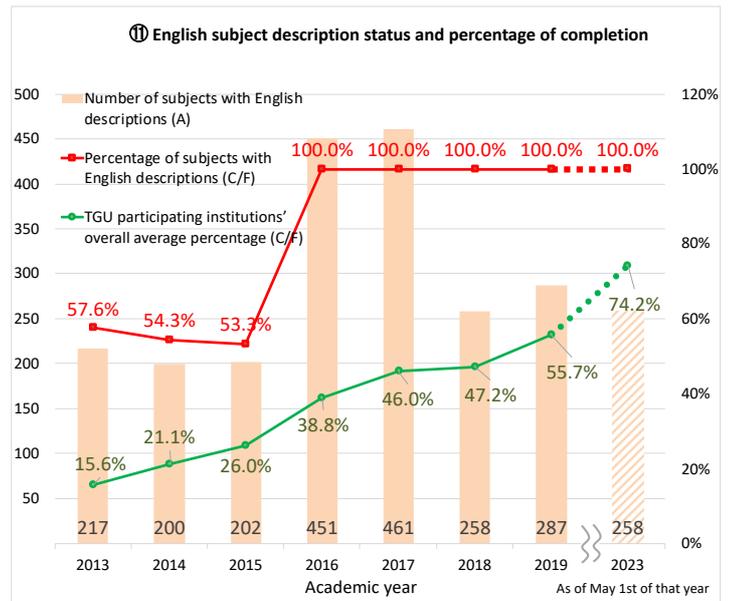
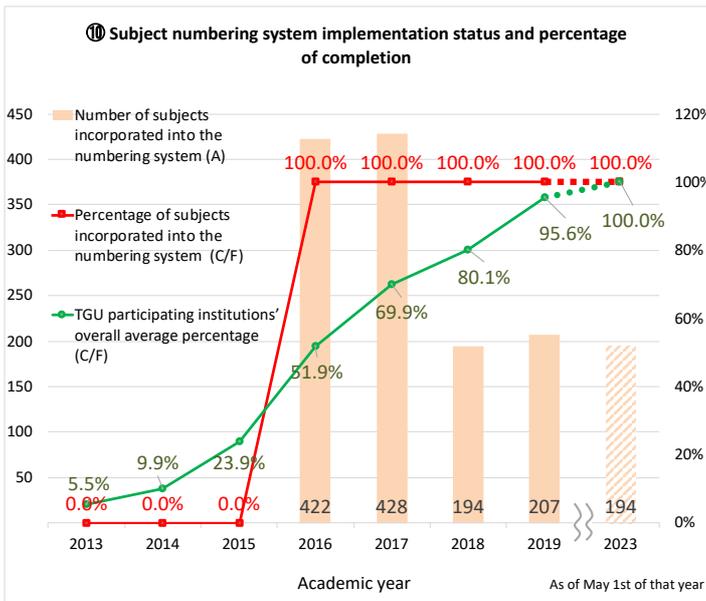
## II. Analysis for performance index data



## II. Analysis for performance index data



## II. Analysis for performance index data



1. Globalization (1) Diversity										
① Percentage of international faculty members of the total faculty (includes faculty members with degrees from overseas institutions, etc.)										
	2013	2014	2015	2016		2017	2018	2019		2023
	As of May 1	As of May 1	As of May 1	As of May 1		As of May 1	As of May 1	As of May 1		As of May 1
	Achievements			Goal	Achievements	Achievements	Achievements	Goal	Achievements	Goal
# of international faculty members (A)	72	81	88	90	115	116	125	135	129	180
# of foreign national faculty members	11	13	15	13	20	23	26	16	25	20
# of Japanese faculty members with degrees from overseas institutions	4	3	3	5	3	3	4	7	3	12
# of Japanese faculty members who have 1-2 years teaching and research experience abroad	47	49	50	60	68	59	64	96	74	117
# of Japanese faculty members who have 3 years or more of teaching and research experience abroad	10	16	20	12	24	31	31	16	27	31
Total # of faculty members (B)	219	225	225	225	225	233	232	225	226	225
Percentage of international faculty members (A/B)	32.9%	36.0%	39.1%	40.0%	51.1%	49.8%	53.9%	60.0%	57.1%	80.0%
TGU participating institutions' overall average percentage (A/B)	27.6%	28.5%	29.4%	33.4%	31.4%	33.0%	33.4%	39.8%	34.5%	47.4%

1. Globalization (1) Diversity										
② Percentage of international staff members of the total staff (includes staff members with degrees from overseas institutions)										
	2013	2014	2015	2016		2017	2018	2019		2023
	As of May 1	As of May 1	As of May 1	As of May 1		As of May 1	As of May 1	As of May 1		As of May 1
	Achievements			Goal	Achievements	Achievements	Achievements	Goal	Achievements	Goal
# of international staff members (A)	9	11	11	15	18	17	13	18	17	22
# of foreign national staff members	1	1	0	3	1	1	1	3	1	3
# of Japanese staff members with degrees from overseas institutions	3	2	3	2	4	4	2	2	3	2
# of Japanese staff members who have 1-2 years experience working abroad receiving training abroad	5	8	8	10	13	12	10	13	13	17
Total # of staff members (B)	155	167	173	172	172	170	169	175	166	175
Percentage of international staff members (A/B)	5.8%	6.6%	6.4%	8.6%	10.5%	10.0%	7.7%	10.3%	10.2%	12.6%
TGU participating institutions' overall average percentage (A/B)	5.0%	5.5%	6.0%	6.7%	6.6%	6.7%	6.8%	8.8%	7.2%	12.1%

1. Globalization (1) Diversity										
④Percentage of international students of the total student population (as of May 1st and per academic year)										
	2013	2014	2015	2016		2017	2018	2019		2023
	As of May 1	As of May 1	As of May 1	As of May 1		As of May 1	As of May 1	As of May 1		As of May 1
	Achievements			Goal	Achievements	Achievements	Achievements	Goal	Achievements	Goal
# of international students (A)	149	161	193	210	216	227	252	230	282	255
(# of female students within this category)					65	65	85		93	
# of international students with "Student" residence status	144	156	188	205	214	229	250	25	271	250
(# of female students within this category)					63	64	85		91	
# of international students with residence status other than "Student"	5	5	5	5	2	1	2	5	11	5
(# of female students within this category)					2	1	0		2	
Total # of students (B)	1,099	1,091	1,161	1,099	1,180	1,139	1,138	1,099	1,131	1,099
(# of female students within this category)					242	243	266		269	
Percentage of international students (A/B)	13.6%	14.8%	16.6%	19.1%	18.3%	19.9%	22.1%	20.9%	24.9%	23.2%
TGU participating institutions' overall average percentage (A/B)	6.5%	6.7%	7.1%	8.3%	7.7%	8.4%	9.1%	10.4%	9.8%	12.7%
	2013	2014	2015	2016		2017	2018	2019	2023	
	Per academic year	Per academic year	Per academic year	Per academic year		Per academic year	Per academic year	Per academic year	Per academic year	Per academic year
	Achievements			Goal	Achievements	Achievements	Achievements	Goal		
# of international students (C)	201	220	259	270	286	337	364	300	330	
(# of female students within this category)					(83)	(93)	(121)			
# of international students with "Student" residence status	193	212	244	260	282	314	346	290	320	
(# of female students within this category)					(82)	(87)	(116)			
# of international students with other status of residence than "Student"	8	8	15	10	4	23	18	10	10	
(# of female students within this category)					(1)	(6)	(5)			
Total # of students(D)	1,099	1,091	1,161	1,099	1,180	1,139	1,138	1,099	1,099	
(# of female students within this category)					(242)	(243)	(266)			
Percentage of international students (C/D)	18.3%	20.2%	22.3%	24.6%	24.2%	29.6%	32.0%	27.3%	30.0%	
TGU participating institutions' overall average percentage (C/D)	8.8%	9.7%	10.7%	11.4%	12.2%	13.3%	14.1%	14.7%	18.1%	

1. Globalization (2) Mobility									
⑤ Percentage of Japanese students who studied abroad of the total Japanese student population									
	2013	2014	2015	2016		2017	2018	2019	2023
	Per academic year	Per academic year	Per academic year	Per academic year		Per academic year	Per academic year	Per academic year	Per academic year
	Achievements			Goal	Achievements	Achievements	Achievements	Goal	
Total # of Japanese students who received credit from studying abroad (A) (# of female students within this category)	34	32	55	45	36 (4)	54 (11)	46 (6)	75	100
# of undergraduate students who received credit from studying abroad (B) (# of female students within this category)	—	—	—	—	— (-)	— (-)	— (-)	—	—
# of graduate students who received credit from studying abroad (C) (# of female students within this category)	34	32	55	45	36 (4)	54 (11)	46 (6)	75	100
Total # of students (D) (# of female students)	950	930	968	889	964 (162)	917 (178)	886 (181)	869	844
# of undergraduate students (E) (# of female students within this category)	—	—	—	—	— (-)	— (-)	— (-)	—	—
# of graduate students (F) (# of female students within this category)	950	930	968	889	964 (162)	917 (178)	886 (181)	869	844
Percentage of Japanese students who received credit from studying abroad (A/D)	3.6%	3.4%	5.7%	5.1%	3.7%	5.9%	5.2%	8.6%	11.8%
Percentage of Japanese undergraduate students who received credit from studying abroad (B/E)	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %
Percentage of Japanese students who received credit from studying abroad (C/F)	3.6%	3.4%	5.7%	5.1%	3.7%	5.9%	5.2%	8.6%	11.8%
TGU participating institutions' overall average percentage (C/F)	2.1%	2.1%	2.4%	4.6%	3.0%	4.0%	4.4%	8.5%	14.0%
# of Japanese students who performed research abroad for 3 months or more under faculty member's guidance (G)	8	13	21	15	11	10	17	20	35
Percentage of Japanese students who performed research abroad for 3 months or more under faculty member's guidance (G/F)	0.8%	1.4%	2.2%	1.7%	1.1%	1.1%	1.9%	2.3%	4.1%
TGU participating institutions' overall average percentage (G/F)	1.1%	1.3%	1.3%	2.4%	1.0%	1.6%	2.0%	3.9%	6.2%

1. Globalization (2) Mobility									
⑥ Student exchange based on academic agreements (Japanese students dispatched and international students accepted)									
	2013	2014	2015	2016		2017	2018	2019	2023
	Per academic year	Per academic year	Per academic year	Per academic year		Per academic year	Per academic year	Per academic year	Per academic year
	Achievements			Goal	Achievements	Achievements	Achievements	Goal	
Total # of Japanese students dispatched based on academic agreements (A) (# of female students within this category)	62	98	112	70	53	82	83	80	90
# of Japanese undergraduate students who received course credit (# of female students within this category)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
# of Japanese undergraduate students who did not receive course credit (# of female students within this category)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
# of Japanese graduate students who received course credit (# of female students within this category)	34	34	57	40	25	40	29	60	80
# of Japanese graduate students who did not receive course credit (# of female students within this category)	28	64	55	30	28	42	54	20	10
Total # of students (B) (# of female students within this category)	1,099	1,091	1,161	1,099	1,180	1,139	1,138	1,099	1,099
Percentage of Japanese students dispatched based on academic agreements (A/B)	5.6%	9.0%	9.6%	6.4%	4.5%	7.2%	7.3%	7.3%	8.2%
TGU participating institutions' overall average percentage (A/B)	2.6%	3.1%	3.4%	3.8%	4.1%	4.2%	4.6%	5.9%	8.5%
Total # of international students accepted based on academic agreements (C) (# of female students within this category)	16	12	40	20	28	43	71	25	30
# of international undergraduate students who received course credit (# of female students within this category)	—	—	—	—	—	2	0	—	—
# of international undergraduate students who did not receive course credits (# of female students within this category)	—	—	12	—	9	5	13	—	—
# of international graduate students who received course credits (# of female students within this category)	0	0	1	2	1	4	1	5	5
# of international graduate students who did not receive course credits (# of female students within this category)	16	12	27	18	18	32	57	20	25
Total # of students (D) (# of female students within this category)	1,099	1,091	1,161	1,099	1,099	1,139	1,138	1,099	1,099
Percentage of international students accepted based on academic agreements (C/D)	1.5%	1.1%	3.4%	1.8%	2.5%	3.8%	6.2%	2.3%	2.7%
TGU participating institutions' overall average percentage (C/D)	1.5%	1.8%	2.3%	2.3%	2.9%	3.3%	3.6%	3.6%	5.1%

1. Globalization (4) English proficiency									
⑦ Number and percentage of subjects taught in English									
	2013	2014	2015	2016		2017	2018	2019	2023
	Per academic year	Per academic year	Per academic year	Per academic year	Per academic year	Per academic year	Per academic year	Per academic year	Per academic year
	Achievements			Goal	Achievements	Achievements	Achievements	Goal	
Total # of subjects taught in foreign languages (A)	125	112	144	140	150	154	111	104	122
# of subjects taught in foreign languages at undergraduate level (B)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
# of subjects taught in foreign languages at graduate level (C)	125	112	144	140	150	154	111	104	122
Total # of subjects taught in English (D)	125	112	144	140	150	154	111	104	122
# of subjects taught in English at undergraduate level	—	—	—	—	—	—	—	—	—
# of subjects taught in English at graduate level	125	112	144	140	150	154	111	104	122
Total # of subjects (E)	355	335	420	355	407	411	215	216	216
# of subjects taught at undergraduate level (F)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
# of subjects taught at graduate level (G)	355	335	420	355	407	411	215	216	216
Percentage of subjects taught in English (A/E)	35.2%	33.4%	34.3%	39.4%	36.9%	37.5%	51.6%	48.1%	56.5%
Percentage of subjects taught in English at undergraduate level (B/F)	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %
Percentage of subjects taught in English at graduate level (C/G)	35.2%	33.4%	34.3%	39.4%	36.9%	37.5%	51.6%	48.1%	56.5%
TGU participating institutions' overall average percentage (C/G)	10.5%	11.5%	14.5%	15.0%	16.7%	20.5%	22.6%	20.7%	28.0%
Percentage of subjects taught in English (D/E)	35.2%	33.4%	34.3%	39.4%	36.9%	37.5%	51.6%	48.1%	56.5%

1. Globalization (4) English proficiency										
⑧ Courses taught solely in English, etc. (Courses, students enrolled)										
	2013	2014	2015	2016		2017	2018	2019		2023
	As of May 1	As of May 1	As of May 1	As of May 1		As of May 1	As of May 1	As of May 1		As of May 1
	Achievements			Goal	Achievements	Achievements	Achievements	Goal	Achievements	Goal
Total # of courses taught solely in English that have been established (A)	5	5	6	8	6	6	14	14	14	14
# of undergraduate courses taught solely in English (B)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
# of graduate courses taught solely in English (C)	5	5	6	8	6	6	14	14	14	14
Total # of courses that have been established (D)	7	7	8	10	8	8	14	14	14	14
# of undergraduate courses (E)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
# of graduate courses (F)	7	7	8	10	8	8	14	14	14	14
Percentage of graduate courses taught solely in English (A/D)	71.4%	71.4%	75.0%	80.0%	75.0%	75.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
Percentage of undergraduate courses taught solely in English that have been established (B/E)	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %
Percentage of graduate courses taught solely in English that have been established (C/F)	71.4%	71.4%	75.0%	80.0%	75.0%	75.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
TGU participating institutions' overall average percentage (C/F)	24.6%	25.4%	26.2%	27.0%	28.1%	31.2%	33.6%	32.3%	35.3%	36.3%
Total # of students enrolled in courses taught solely in English (G)	598	586	631	620	634	637	1,138	1,099	1,131	1,099
# of students enrolled in undergraduate courses taught solely in English (H)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
# of students enrolled in graduate courses taught solely in English (I)	598	586	631	620	634	637	1,138	1,099	1,131	1,099
Total # of students (J)	1,099	1,091	1,161	1,099	1,180	1,139	1,138	1,099	1,131	1,099
# of students enrolled in undergraduate courses (K)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
# of students enrolled in graduate courses (L)	1,099	1,091	1,161	1,099	1,180	1,139	1,138	1,099	1,131	1,099
Percentage of students enrolled in courses taught solely in English (G/J)	54.4%	53.7%	54.3%	56.4%	53.7%	55.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
Percentage of students enrolled in undergraduate courses taught solely in English (H/K)	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %
Percentage of students enrolled in graduate courses taught solely in English (I/L)	54.4%	53.7%	54.3%	56.4%	53.7%	55.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
TGU participating institutions' overall average percentage (I/L)	10.0%	10.6%	11.0%	12.0%	14.7%	16.2%	17.4%	16.7%	18.6%	19.1%

1. Globalization (4) English proficiency									
⑨ Measures to assess, understand and improve students' English language ability									
Standards for students' English language ability	Target TOEIC Score: 650 for master's students and 750 for doctoral students								
	2013 Per academic year	2014 Per academic year	2015 Per academic year	2016 Per academic year		2017 Per academic year	2018 Per academic year	2019 Per academic year	2023 Per academic year
	Achievements			Goal	Achievements	Achievements	Achievements	Goal	
Total # of students who met English language ability standard (A)	228	221	246	440	277	351	421	660	660
# of undergraduate students who met English language ability standard (B)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
# of graduate students who met English language ability standard (C)	228	221	246	440	277	351	421	660	660
Total # of students (D)	1,099	1,091	1,161	1,099	1,180	1,139	1,138	1,099	1,099
# of undergraduate students (E)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
# of graduate students (F)	1,099	1,091	1,161	1,099	1,180	1,139	1,138	1,099	1,099
Percentage of students who met English language ability standard (A/D)	20.7%	20.3%	21.2%	40.0%	23.5%	30.8%	37.0%	60.1%	60.1%
Percentage of undergraduate students who met English language ability standard (B/E)	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %
Percentage of graduate students who met English language ability standard (C/F)	20.7%	20.3%	21.2%	40.0%	23.5%	30.8%	37.0%	60.1%	60.1%
TGU participating institutions' overall average percentage (C/F)	12.2%	13.1%	15.5%	26.0%	18.0%	20.3%	23.5%	37.9%	51.2%

\*Please note that the standards for language ability differ between institutions, so a simple comparison of percentages may not fully represent the achieved outcomes.

1. Globalization (5) International compatibility for educational system										
⑩ Subject numbering system implementation status and percentage of completion										
	2013 As of May 1	2014 As of May 1	2015 As of May 1	2016 As of May 1		2017 As of May 1	2018 As of May 1	2019 As of May 1		2023 As of May 1
	Achievements			Goal	Achievements	Achievements	Achievements	Goal	Achievements	Goal
Total # of subjects incorporated into the numbering system (A)	0	0	0	377	422	428	194	194	207	194
# of undergraduate subjects incorporated into the numbering system (B)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
# of graduate subjects incorporated into the numbering system (C)	0	0	0	377	422	428	194	194	207	194
Total # of subjects (D)	377	368	379	377	422	428	194	194	207	194
# of undergraduate subjects (E)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
# of graduate subjects (F)	377	368	379	377	422	428	194	194	207	194
Percentage of subjects incorporated into the numbering system (A/D)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
Percentage of undergraduate subjects incorporated into the numbering system (B/E)	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %
Percentage of graduate subjects incorporated into the numbering system (C/F)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
TGU participating institutions' overall average percentage (C/F)	5.5%	9.9%	23.9%	68.4%	51.9%	69.9%	80.1%	96.4%	95.6%	100.0%

1. Globalization (5) International compatibility for educational system										
⑪ English subject description status and percentage of completion										
	2013	2014	2015	2016		2017	2018	2019		2023
	As of May 1	As of May 1	As of May 1	As of May 1		As of May 1	As of May 1	As of May 1		As of May 1
	Achievements			Goal	Achievements	Achievements	Achievements	Goal	Achievements	Goal
Total # of subjects with English descriptions (A)	217	200	202	377	451	461	258	258	287	258
# of undergraduate subjects with English descriptions (B)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
# of graduate subjects with English descriptions (C)	217	200	202	377	451	461	258	258	287	258
Total # of subjects (D)	377	368	379	377	451	461	258	258	287	258
# of undergraduate subjects (E)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
# of graduate subjects (F)	377	368	379	377	451	461	258	258	287	258
Percentage of subjects with English descriptions (A/D)	57.6%	54.3%	53.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
Percentage of undergraduate subjects with English descriptions (B/E)	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %	— %
Percentage of graduate subjects with English descriptions (C/F)	57.6%	54.3%	53.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
TGU participating institutions' overall average percentage (C/F)	15.6%	21.1%	26.0%	47.7%	38.8%	46.0%	47.2%	66.9%	55.7%	74.2%

2. University reform (1) Human resource system										
⑭ Implementation of the annual salary system (faculty and staff)										
	2013	2014	2015	2016		2017	2018	2019		2023
	As of May 1	As of May 1	As of May 1	As of May 1		As of May 1	As of May 1	As of May 1		As of May 1
	Achievements			Goal	Achievements	Achievements	Achievements	Goal	Achievements	Goal
# of faculty members employed under the annual salary system (A)	30	35	41	36	57	89	97	92	96	100
Total # of faculty members (B)	219	225	225	225	225	233	232	230	226	230
Percentage of faculty member employed under the annual salary system (A/B)	13.7%	15.6%	18.2%	16.0%	25.3%	38.2%	41.8%	40.0%	42.5%	43.5%
TGU participating institutions' overall average percentage (A/B)	17.1%	18.0%	23.1%	25.8%	26.4%	28.7%	30.1%	31.7%		35.9%
# of staff members employed under the annual salary system (C)	3	13	13	21	13	11	5	2	4	2
Total # of staff members (D)	155	167	173	175	172	170	169	175	166	175
Percentage of staff member employed under the annual salary system (C/D)	1.9%	7.8%	7.5%	12.0%	7.6%	6.5%	3.0%	1.1%	2.4%	1.1%
TGU participating institutions' overall average percentage (C/D)	9.2%	10.6%	11.5%	11.0%	12.3%	12.9%	13.1%	12.2%	14.5%	15.1%

2. Governance reform (2) Governance										
⑩ Administrative staff development for TOEIC score improvement										
Standards for staff's English language ability	TOEIC score: 750 or more (This score is the average level expected for international office employees in businesses in Japan)									
	2013 As of May 1	2014 As of May 1	2015 As of May 1	2016 As of May 1		2017 As of May 1	2018 As of May 1	2019 As of May 1		2023 As of May 1
	Achievements			Goal	Achievements	Achievements	Achievements	Goal	Achievements	Goal
# of staff members that met the English language ability standard (A)	22	30	31	30	34	36	36	38	40	47
Total # of staff (B)	155	167	173	175	172	170	169	175	166	175
Percentage of staff members that met the English language ability standard (A/B)	14.2%	18.0%	17.9%	17.1%	19.8%	21.2%	21.3%	21.7%	24.1%	26.9%
TGU participating institutions' overall average percentage (A/B)	8.6%	9.9%	11.2%	14.3%	14.1%	15.1%	16.4%	20.0%	17.4%	27.6%

\*Please note that the standards for language ability differ between institutions, so a simple comparison of percentages may not fully represent the achieved outcomes.

III. References

**3. Status of expenditure of TGU budget (subsidy)**

Expenditure status description from FY2014 to FY2018, based on the TGU Project concept paper and performance report

<FY2014>【1page】				(Unit: 1000 Yen )
Budget Items	TGU budget (a)	NAIST expenditures (b)	Total expenditures (a+b)	Remarks
<b>【Commodity Expenses】</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
①Equipment and appliance expenses	0	0	0	
·			0	
·			0	
·			0	
② Consumable supplies expenses	0	0	0	
·			0	
·			0	
·			0	
<b>【Personnel expenses】</b>	<b>25,333</b>	<b>0</b>	<b>25,333</b>	
①Personnel expenses	23,685	0	23,685	
· UEAs (Global Engagement Officers: full-time, 2 persons)	7,483		7,483	
· International Collaboration Coordinator (full-time)	2,212		2,212	
· Assistant to Global Engagement Officers (part-time)	518		518	
· UEA (Career Development Officer: full-time)UEA	3,837		3,837	
· Foreign language instructors (full-time, 3 persons)	9,635		9,635	
②Personnel expenses (Honorariums)	1,648	0	1,648	
· Honorarium for Japanese language instructors	1,348		1,348	
· Honorarium for TGU Project Symposium	300		300	
			0	
<b>【Travel expenses】</b>	<b>5,211</b>	<b>0</b>	<b>5,211</b>	
· Research trips to domestic universities for Institute for Educational Initiatives establishment	36		36	
· Travel expenses related to TGU seminars (domestic travel, total: 6 times)	130		130	
· Travel expenses for overseas SD training program	468		468	
· Research trips to international partner institutions	1,092		1,092	
· Travel expenses for TGU kick-off symposium guest speakers	3,485		3,485	
			0	
			0	
			0	
<b>【Other expenses】</b>	<b>14,966</b>	<b>0</b>	<b>14,966</b>	
①Subcontract expenses	13,132	0	13,132	
· TOEIC test fees (students/staff)	1,779		1,779	
· Overseas SD training program costs	417		417	
· TGU website production fees	915		915	
· Preparation and maagement costs for TGU kick-off symposium	2,121		2,121	
· Special Science Magazine TGU feature article advertisement fee	2,152		2,152	
· Internal document translation costs	5,748		5,748	
②Printing costs	664	0	664	
· NAIST Guidebook in English	664		664	
			0	
③Meeting expenses	435	0	435	
· Meeting expenses (reception for TGU kick-off symposium)	435		435	
④Communications costs	3	0	3	
· Symposium poster shipping fees	3		3	
·			0	
⑤Utility expenses	0	0	0	
⑥Other expenses	732	0	732	
· TGU kick-off symposium table rental fees	294		294	
· Commission fee for remittance abroad(Overseas SD training)	6		6	
· 2nd Go Global Japan Expo entry fees	432		432	
			0	
FY2014 Total	45,510	0	45,510	

<reference>Budget estimate of the TGU Project concept paper (Unit: 1000 Yen)	Subsidy application amount (a)	NAIST expenditures (b)	Budget estimate (a+b)
	68,340	25,760	94,100

III. References

**3. Status of expenditure of TGU budget (subsidy)**

Expenditure status description from FY2014 to FY2018, based on the TGU Project concept paper and performance report

<FY2015>【1page】				(Unit: 1000 Yen)
Budget Items	TGU budget (a)	NAIST expenditures (b)	Total expenditures (a+b)	Remarks
<b>【Commodity Expenses】</b>	<b>1,148</b>	<b>0</b>	<b>1,148</b>	
①Equipment and appliance expenses	353	0	353	
• (PC) HP ENVY 750-170jp/CT HP Japan Inc. 1set	353		353	
②Consumable supplies expenses	795	0	795	
• Japanese Language textbook	99		99	
• Japanese Language supplementary teaching materials	548		548	
• Speaker (accessory to PC)	5		5	
• Envelopes(with NAIST logo)1000 pieces	143		143	
<b>【Personnel expenses】</b>	<b>53,149</b>	<b>0</b>	<b>53,149</b>	
①Personnel expenses	51,886	0	51,886	
• UEAs(Global Engagement Officers: full-time, 2 persons)	13,077		13,077	
• International Collaboration Coordinator (full-time)	4,452		4,452	
• Assistant to UEAs (part-time)	1,739		1,739	
• UEA(Career Development Officer : full-time)	7,680		7,680	
• Assistants to UEAs (part-time, 2 persons)	2,184		2,184	
• CISS staff	1,124		1,124	
• Foreign language instructors (full-time, 3 persons)	21,342		21,342	
• Japanese language part-time instructors	288		288	
②Personnel expenses (Honorariums)	1,263	0	1,263	
• Honorarium for Japanese language instructors	900		900	
• TGU brochure proofreading fee	333		333	
• Honorarium for TGU Project Symposium guest speakers	30		30	
<b>【Travel expenses】</b>	<b>20,945</b>	<b>0</b>	<b>20,945</b>	
• Japanese language part-time instructor travel expenses	262		262	
• Travel expenses related to TGU seminars(domestic travel, total 15 times)	690		690	
• Travel expenses for overseas FD/SD training program (including pre-meeting)	3,780		3,780	
• Signing Ceremony for Double Degree Programs (Unitec,Ecole Polytechnique)	2,021		2,021	
• Japan Education Fair (Thailand, Vietnam, Malaysia)	3,025		3,025	
• Study in Japan briefing(Preparatory school at Northeast Normal University)	973		973	
• Consultation concerning the Indonesia Office establishment	1,610		1,610	
• Visit to partner insitutions,meeting with NAFSA and APAIE	5,548		5,548	
• Travel expenses for 2nd TGU Project Symposium	3,036		3,036	
<b>【Oher expenses】</b>	<b>14,245</b>	<b>0</b>	<b>14,245</b>	
①Subcontract expenses	9,002	0	9,002	
• TOEIC test fees (students/staff)	4,573		4,573	
• Overseas FD/SD training program costs	2,329		2,329	
• English language training for staff	960		960	
• Japanese language e-learning annual license fee	180		180	
• Photographing cost for NAIST Guidebook in English	16		16	
• TGU symposium simultaneous interpretation fees	944		944	
②Printing costs	2,134	0	2,134	
• NAIST Guidebook in English/Laboratory Introduction	1,723		1,723	
• TGU Project Symposium Program production costs	411		411	
③Meeting expenses	0	0	0	
④Communications costs	19	0	19	
• Printed material shipping fees for Japan Education fair (Thailand/Vietnam/Malaysia)	19		19	
⑤Utility expenses	0	0	0	
⑥Other expenses	3,090	0	3,090	
• Entry fee for NAFSA/Go Global Japan Expo/APAIE	874		874	
• TGU symposium Kyoto Sankei Shimbun advertisement costs	162		162	
• CMS transfer costs	1,499		1,499	
• Japan Education Fair enrty fees (Thailand/Vietnam/Malaysia)	555		555	
<b>FY2015 Total</b>	<b>89,487</b>	<b>0</b>	<b>89,487</b>	

<reference>Budget estimate of the TGU Project concept paper (Unit: 1000 Yen)	Subsidy application amount (a)	NAIST expenditures (b)	Budget estimate (a+b)
		194,540	42,900

III. References

**3. Status of expenditure of TGU budget (subsidy)**

Expenditure status description from FY2014 to FY2018, based on the TGU Project concept paper and performance report

<FY2016>【1page】				(Unit: 1000 Yen)
Budget Items	TGU budget (a)	NAIST expenditures (b)	Total expenditures (a+b)	Remarks
<b>【Commodity Expenses】</b>	<b>602</b>	<b>0</b>	<b>602</b>	
①Equipment and appliance expenses	0	0	0	
•			0	
②Consumable supplies expenses	602	0	602	
• Japanese Language textbook	99		99	
• Japanese Language supplementary teaching materials for e-learning	456		456	
• Japanese Language supplementary teaching materials	47		47	
<b>【Personnel expenses】</b>	<b>69,307</b>	<b>0</b>	<b>69,307</b>	
①Personnel expenses	68,287	0	68,287	
• UEAs (Curriculum Development Officers: full-time, 2 persons)	10,338		10,338	
• Assistant to UEAs (part-time)	1,758		1,758	
• UEAs(Global Engagement Officers: full-time,2 persons)	14,535		14,535	
• International Collaboration Coordinator (full-time)	4,373		4,373	
• Assistant to UEAs (part-time)	1,919		1,919	
• UEA(Career Development Officer : full-time,2 persons)	13,149		13,149	
• Assistant to UEAs (part-time,2 persons)	1,967		1,967	
• Foreign language instructors (full-time,3 persons)	19,563		19,563	
• Japanese language part-time instructors	577		577	
• Introduction to Japanese Culture teaching assistants	108		108	
②Personnel expenses (Honorariums)	1,020	0	1,020	
• Honorariums for Japanese language instructors	900		900	
• Honorariums for Introduction to Japanese Culture lecturers	120		120	
<b>【Travel expenses】</b>	<b>10,932</b>	<b>0</b>	<b>10,932</b>	
• Japanese language part-time instructors travel expenses	298		298	
• Travel expenses for overseas FD/SD training program (including pre-meeting)	3,559		3,559	
• Opening ceremony of overseas office and collaboration center	1,844		1,844	
• Japan Education Fair(Thailand,Vietnam,Malaysia)	2,811		2,811	
• Briefing for MEXT scholarship students candidates (Beijing Foreign Studies University)	809		809	
• Visit to partner insitutions,meeting with NAFSA and APAIE	1,611		1,611	
<b>【Other expenses】</b>	<b>13,659</b>	<b>0</b>	<b>13,659</b>	
①Subcontract expenses	11,671	0	11,671	
• TOEIC test fees (students/staff)	3,935		3,935	
• Overseas FD/SD training program costs	2,030		2,030	
• English language training for staff	900		900	
• Japanese language e-learning annual license fee	360		360	
• Field trip bus lease costs (Introduction to Japanese Culture)	49		49	
• Fee for updating Homepage	1,611		1,611	
• Photographing cost for NAIST Guidebook in English	49		49	
• NAIST regulations English translation costs	2,737		2,737	
②Printing costs	1,038	0	1,038	
• NAIST Guidebook in English /Laboratory Introduction	1,038		1,038	
③Meeting expenses	0	0	0	
•			0	
④Communications costs	32	0	32	
• Printed material shipping fees for Japan Education fair(Thailand/Vietnam/Malaysia)	32		32	
⑤Utility expenses	0	0	0	
•			0	
⑥Other expenses	918	0	918	
• Entry fee for NAFSA/APAIE	394		394	
• Commission fee for remittance abroad(Overseas FD/SD training)	18		18	
• Enrty fee for Japan Education Fair (Thailand/Vietnam/Malaysia)	506		506	
<b>FY2016 Total</b>	<b>94,500</b>	<b>0</b>	<b>94,500</b>	

<reference> Budget estimate of the TGU Project concept paper (Unit: 1000 Yen)	Subsidy application amount (a)	NAIST expenditures (b)	Budget estimate (a+b)
		199,840	50,900

III. References

**3. Status of expenditure of TGU budget (subsidy)**

Expenditure status description from FY2014 to FY2018, based on the TGU Project concept paper and performance report

<FY2017>【1page】				(Unit:1000 Yen)
Budget Items	TGU budget (a)	NAIST expenditures (b)	Total expenditures (a+b)	Remarks
<b>【Commodity Expenses】</b>	<b>34</b>	<b>0</b>	<b>34</b>	
①Equipment and appliance expenses	0	0	0	
•			0	
②Consumable supplies expenses	34	0	34	
• Name card holders for Thailand Office Symposium	4		4	
• Certificate holders for Thailand Office Symposium	8		8	
• Banner for Thailand Office Symposium	22		22	
<b>【Personnel expenses】</b>	<b>71,372</b>	<b>8,296</b>	<b>79,668</b>	
①Personnel expenses	69,322	7,612	76,934	
• UEAs(Curriculum Development Officers: full-time, 2 persons)	7,447	6,727	14,174	
• Assistant to UEAs (part-time)	885	885	1,770	
• UEAs(Global Engagement Officers: full-time,2 persons)	13,353		13,353	
• International Collaboration Coordinator (full-time)	4,570		4,570	
• Assistant to UEAs (part-time)	1,938		1,938	
• UEA(Career Development Officer : full-time,2 persons)	14,391		14,391	
• Assistants to UEAs (part-time,2 persons)	2,174		2,174	
• Foreign language instructors (full-time,3 persons)	23,603		23,603	
• Japanese language/Japanese culture part-time instructors	757		757	
• International student career support part-time staff	204		204	
②Personnel expenses (Honorariums)	2,050	684	2,734	
• Honorariums for tutors	1,030	684	1,714	
• Honorariums for Japanese language/Japanese culture	1,020		1,020	
<b>【Travel expenses】</b>	<b>11,576</b>	<b>0</b>	<b>11,576</b>	
• Japanese language part-time instructors travel expenses	318		318	
• Travel expenses for visiting domestic companies	73		73	
• Travel expenses for overseas FD/SD training program (including pre-meeting)	2,515		2,515	
• Travel expenses for visiting overseas companies	301		301	
• Travel expenses related to arrangement for overseas office opening ceremonies and their activities	962		962	
• Japan Education Fair(Thailand,Vietnam,Indonesia,Malaysia)	3,602		3,602	
• Briefing for MEXT scholarship students candidates(Beijing)	973		973	
• Visit to partner insitutions etc.	2,832		2,832	
<b>【Oher expenses】</b>	<b>10,043</b>	<b>0</b>	<b>10,043</b>	
①Subcontract expenses	7,215	0	7,215	
• TOEIC test fees (students/staff)	4,194		4,194	
• Overseas FD/SD training program costs	1,678		1,678	
• English language training for staff	847		847	
• Japanese language e-learning annual license fee	360		360	
• Field trip bus lease costs (Introduction to Japanese Culture)	49		49	
• Single graduate school announcement website production (English version)	87		87	
②Printing costs	1,302	0	1,302	
• NAIST Guidebook in English/Laboratory Introduction	1,216		1,216	
• English single graduate school brochure	86		86	
•			0	
③Meeting expenses	0	0	0	
•			0	
④Communications costs	75	0	75	
• Printed material shipping fees for Japan Education fair(Thailand/Vietnam/Indonesia/Malaysia)	75		75	
•			0	
•			0	
⑤Utility expenses	0	0	0	
•			0	
⑥Other expenses	1,451	0	1,451	
• Thailand Office Kick-off Symposium venue rental fees	711		711	
• Commission fee for remittance abroad(Overseas FD/SD training)	12		12	
• Enrvy fee for Japan Education Fair	728		728	
<b>FY2017 Total</b>	<b>93,025</b>	<b>8,296</b>	<b>101,321</b>	

<reference> Budget estimate of the TGU Project concept paper (Unit: 1000 Yen)	Subsidy application amount (a)	NAIST expenditures (b)	Budget estimate (a+b)
	199,140	50,900	250,040

III. References

**3. Status of expenditure of TGU budget (subsidy)**

Expenditure status description from FY2014 to FY2018, based on the TGU Project concept paper and performance report

<FY2018>【1page】				(Unit: 1000 Yen)
Budget Items	TGU budget (a)	NAIST expenditures (b)	Total expenditures (a+b)	Remarks
<b>【Commodity Expenses】</b>	<b>81</b>	<b>0</b>	<b>81</b>	
①Equipment and appliance expenses	0	0	0	
.			0	
②Consumable supplies expenses	81	0	81	
・ Airmail envelopes	81		81	
.			0	
<b>【Personnel expenses】</b>	<b>29,730</b>	<b>41,944</b>	<b>71,674</b>	
①Personnel expenses人件費	28,830	41,944	70,774	
・ UEA(Curriculum Development Officers: full-time, 2 persons)		14,231	14,231	
・ Assistant to UEAs (part-time)		1,739	1,739	
・ Assistant to UEAs (part-time)		1,629	1,629	
・ UEAs(Global Engagement Officer: full-time,1 person)	4,147		4,147	
・ Assistant to UEAs (part-time)	900		900	
・ Assistant to UEAs (part-time)	1,841		1,841	
・ UEA(Career Development Officer : full-time,2 persons)		12,838	12,838	
・ Assistant to UEAs (part-time)		1,809	1,809	
・ CISS staff (Research Technician)		5,842	5,842	
・ CISS assistant (part-time)		1,721	1,721	
・ Foreign language instructors (full-time,3 persons)	20,314		20,314	
・ Japanese language part-time instructors	577		577	
・ UEA (support for international students and researchers)	1,051		1,051	
・ Visiting Professor(Career Development support)		2,135	2,135	
・ Assistant to UEAs (part-time)			0	
・ Assistant to UEAs (part-time)			0	
②Personnel expenses (Honorariums)	900	0	900	
・ Honorarium for Japanese language instructor	900		900	
<b>【Travel expenses旅費】</b>	<b>9,087</b>	<b>0</b>	<b>9,087</b>	
・ Japanese language part-time instructors travel expenses	300		300	
・ Overseas FD/SD training program cost	2,497		2,497	
・ Briefing for MEXT scholarship students candidates(China, Thailand)	1,978		1,978	
・ Japan Education Fair(Thailand,Indonesia)	1,214		1,214	
・ Student recruitment activities at partner institutions	1,797		1,797	
・ Verification of NAIST collaboration office, Indonesia office	1,001		1,001	
・ Researching hosting companies for overseas internship program	300		300	
<b>【Other expenses】</b>	<b>10,316</b>	<b>0</b>	<b>10,316</b>	
①Subcontract expenses	7,302	0	7,302	
・ TOEIC test fees (students/staff)	4,494		4,494	
・ Overseas FD/SD training program costs	1,593		1,593	
・ English language training for staff	855		855	
・ Japanese language e-learning annual license fee	360		360	
.			0	
②Printing costs	1,887	0	1,887	
・ NAIST Guidebook in English/Laboratory Introduction	1,887		1,887	
.			0	
③Meeting expenses	0	0	0	
.			0	
④Communications costs	89	0	89	
・ Printed material shipping fees for Japan Education	89		89	
.			0	
⑤Utility expenses	0	0	0	
.			0	
⑥Other expenses	1,038	0	1,038	
・ Japan Education Fair venue rental fees (Thailand/Indonesia)	375		375	
・ Annual membership fee of the Institute for International Business Communication	103		103	
・ Overseas SD training program homestay fees	143		143	
・ Commission fee for remittance abroad(Overseas FD/SD training/homestay fee)	18		18	
・ NAIST regulations English translation costs	399		399	
<b>FY2018 Total</b>	<b>49,214</b>	<b>41,944</b>	<b>91,158</b>	

<reference>Budget estimate of the TGU Project concept paper (Unit: 1000 Yen)	Subsidy application amount (a)	NAIST expenditures (b)	Budget estimate (a+b)
		199,940	50,900

## 1. Outline

### 【Name of project】

NAIST Global<sup>3</sup>: cultivating Global leaders through Global standard graduate education on a Global campus

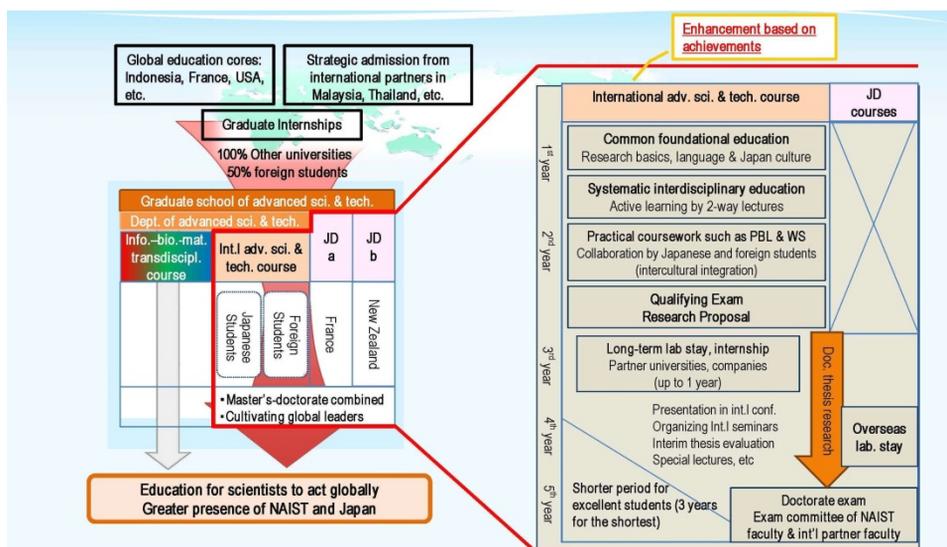
### 【Future vision of the university planned in Top Global University project】

NAIST Global<sup>3</sup> is a motto to (1) establish an international degree program for Global leaders, (2) develop a graduate educational model for high Global standard research, and (3) promote interdisciplinary education at Global campus with culturally diverse faculty, staff, and students.



### 【Summary of project】

NAIST will strive for global excellence in graduate education for advanced science and technology, specifically in three fields: Information Science, Biological Sciences, and Materials Science. Our current structure of three graduate schools will be merged into one integrated framework for advanced interdisciplinary education and research. Also, an international graduate program for advanced science and technology (5-year degree program) will be established. The program will offer a joint degree program with universities abroad. NAIST faculty and staff will benefit from faculty and staff development programs overseas. A support center for international students and researchers will become an integral part of the global campus for diverse faculty, staff, and students.



## 【Summary of the 10-year plan】

### ● Satellite Offices and Research Centers Overseas

Global education and research centers will be situated in East Asia (Indonesia), North America (California), and Europe (France). Fulltime staff will support career development for international students as well as research and educational activities, in the surrounding areas and neighboring countries.

### ● Japanese Language and Cultural Immersion at NAIST

All international students at NAIST will be required to take Japanese language classes and an introductory Japanese culture class. Campus activities (e.g., Japanese language partners, tutoring, host families, cultural activities) will encourage international students to become more familiar with Japanese language and culture.

### ● Unifying the three existing graduate schools into one integrated framework

Our present structure of three graduate schools will be merged into one integrated framework. This transition will allow advanced interdisciplinary education and research to respond to the current needs of the times. Also, an international program for advanced science and technology (5-year degree program) will be established.

### ● Joint Degree Programs with International Partners

In addition to continuing and enforcing our double degree programs, our international programs for advanced science and technology (5-year degree program) will offer joint degree programs with universities abroad. Also, studying abroad for one-year and overseas internships will be required.

### ● English Use on Campus

Students can fulfill all degree requirements either in Japanese or in English under this new integrated framework at NAIST. Also, all documents, from university standards and regulations to cafeteria menus, will be translated in English.

### ● University Education Administrators (UEA)

UEA of the Institute for Education Initiatives will support systematic curriculum development, coordination with national and international educational / research institutions, and career development.

### ● Support Center for International Students and Scholars at NAIST

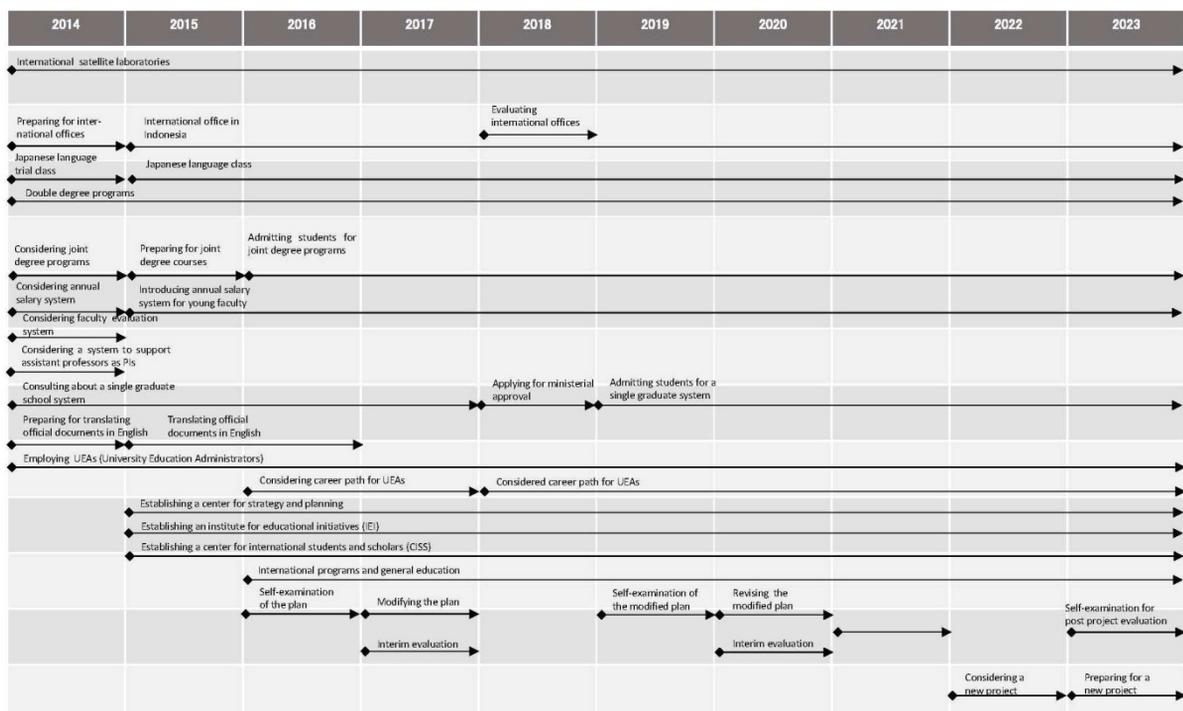
For a global campus, the Center will be established to assist international students and researchers with their private and academic lives.

## 【Featured initiatives (Internationalization, University reform, Education reform)】

With graduate programs only, NAIST can develop interdisciplinary educational programs in advanced science and technology with a vision to contribute our education and research to the world. Institutional assessment for education and research practices and accomplishments, based on the PDCA guidelines, is used to ensure the quality of NAIST education and research. A strategic committee led by the president envisions NAIST education and research in the next few decades.

### 10-year\* schedule

\* Japanese fiscal year



## 2. FY2014 Progress

### Common indicators and targets

#### Internationalization

##### ● NAIST Top Global University Project Kick-off Symposium

In March 2014, NAIST hosted a symposium to discuss global trends in graduate education in the areas of advanced science and technology. Diverse speakers from affiliated universities gave lectures on global issues surrounding internationalization in higher education.

##### ● English Version of the University Guidebook

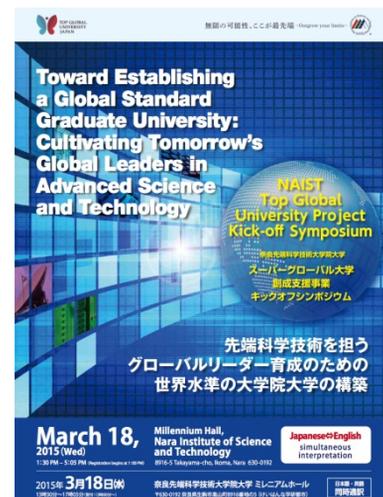
An English version of the University Guidebook is key in recruiting international students. The English guidebook was sent to NAIST's partner and related institutions, and widely distributed at various Study-in-Japan and Study-at-NAIST fairs.

##### ● International collaborative education programs

Joint degree program feasibility was examined in accordance with the related ministerial act. The final consultation was made in January 2015 to seal a double-degree program agreement with Unitec in New Zealand in May 2015.

##### ● Overseas Staff Development Seminar

An overseas staff development seminar and English conversation classes were held to strengthen organizational capacity to support the globalizing of education and research.



#### University reform

##### ● Establishment of the Center for Strategy and Planning

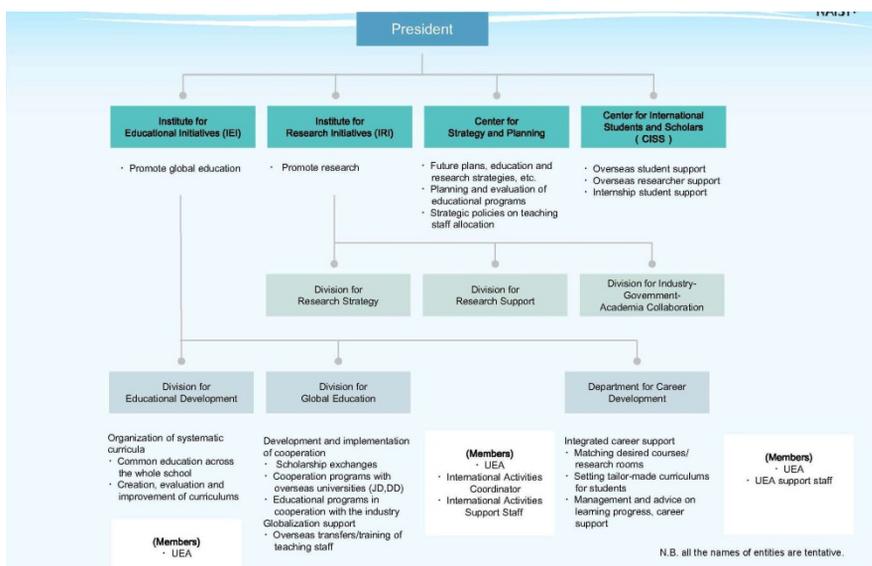
The Center for Strategy and Planning is placed immediately under the leadership of the President to unify planning of the future framework of university establishment systems and education and research strategies. The Center for Strategy and Planning operates as the headquarters for university management and institutional governance reformation through planning and evaluation of educational programs, and strategic policies on teaching staff allocation.

##### ● Organizing the Institute for Educational Initiatives (IEI) and Institute for Research Initiatives (IRI)

IEI has been set up to promote program planning and evaluation, and support education in order to cultivate global graduate education. IRI has been set up to support institutional research put forth in *The Program for Promoting the Enhancement of Research Universities*. Both are placed under the leadership of the President, closely connected with each other.

##### ● URAs & UEAs

University Research Administrators (URAs) analyze national and international trends of interdisciplinary research in the fields of science and technology. URAs also take part in expanding international networks for joint research. University Education Administrators (UEAs) engage in assessment of students' aptitude, curriculum development and teaching evaluation, academic and career support for students, and exploration of potential partnerships with academic institutions abroad.



## Education reform

### ● Overseas Faculty Development Seminar

Newly appointed faculty at NAIST participated in the Overseas Faculty Development Seminar at the University of California, Davis, in October. The participants experienced how to incorporate active learning into their curriculum to meet students' diverse needs. Such pedagogical support is the groundwork for preparing a quality learning environment as the top-level graduate institution.

### ● Improved Japanese Language Proficiency of International Students

Japanese classes for 2015 at elementary and intermediate levels are under preparation. Language lessons are an integral part of successful student life for international students. Japanese language acquisition and communication skills are necessary for finding employment at Japanese companies in Japan or overseas.

### ● Improved English Language Proficiency of Japanese Students

The core competence expected of Japanese master's students includes acquiring skills to comprehend research articles published in English, as well as lectures and seminars delivered in English. Doctoral students are expected to present their research in English, and to acquire negotiation and trouble-shooting skills. TOEIC is used as a measure to evaluate and monitor students' English proficiency.

## ■ University's own indicators and targets

### ● Globalization concerning campus regulations

NAIST initiated use of English in internal conference reports (conference titles only) and notification letters at all three graduate schools in 2014. This change encourages attendance of international faculty members at meetings. English versions of campus standards and regulations are under preparation.

### ● International environment promotion

NAIST further facilitated globalization in the cafeteria area, having English menus and installing a HALAL food section in the union store for our international students and researchers from diverse backgrounds.



## ■ Featured initiatives based on the characteristics of the university

### ● Career support for international students in Japanese firms

The number of NAIST's international students (doctoral course) hired by Japanese enterprises exceeded 30%.

### ● Career support for international students returning home

The number of NAIST's international graduates (doctoral course) hired as faculty in their home countries exceeded 20%.



## ■ Free description

### ● NAIST was featured in Science magazine

NAIST was featured in the prestigious Science magazine showcasing the "Top Global University Project" to enhance globalization and international recognition. (magazine: March 27/ad banner: March1-31)



## 3. FY2015 Progress

### Common indicators and targets

#### Internationalization

##### Overseas Education Collaborative Office in Indonesia

NAIST opened its first Overseas Education Collaborative Office in Bogor, Indonesia. As an Asian hub, the office will strengthen NAIST's international presence with objectives of improving recruitment and selection of international students, furthering relations with partner institutions and corporations, and promoting collaborative education and research with NAIST alumni in Indonesia and surrounding areas.

##### The 2<sup>nd</sup> Top Global University Project Symposium

NAIST hosted the "Challenges and Opportunities: Graduate Education in Science and Technology towards Global Engagement" symposium with keynote speakers from the National Science Foundation (USA), European Commission, and A\*STAR Graduate Academy (Singapore). The symposium explored issues facing graduate education today in cultivating students' qualities for tomorrow's science and technology.

##### Educational Collaboration with Domestic Partner

NAIST signed a memorandum of understanding with International Christian University (ICU in Japan) to strengthen collaborations in global education for science and technology.

##### Staff Development

The Overseas Staff Development Program (Hawaii Tokai University) and a series of English conversation classes were held as part of the staff's professional development. Improved English proficiency and administrative skills will support campus globalization.

#### University reform

##### Structural Reform

The Center for Strategy and Planning led by the President initiated reform movements concerning institutional management and governance. The Institute for Educational Initiatives promoted efforts towards program planning, evaluation, and support of global graduate education.

##### UEAs

International development University Education Administrators (UEAs) furthered global education support planning and the implementation of international partnerships, and faculty/staff development programs, etc. The appointment of UEAs for career/curriculum development to engage in career support, students' professional aptitude assessment, curriculum development, and evaluation and improvement of teaching effectiveness

##### Support for International Students, Faculty, and Scholars

Fulltime staff members were employed to provide a wide range of services for international students, faculty/staff, and scholars. University materials such as policies and regulations became available in English to promote information accessibility.

#### Education reform

##### Japanese Proficiency of International Students

Japanese lessons were held to improve students' language proficiency to facilitate communication in their academic and future career.

##### International Collaborative Curricula

In addition to existing double-degree programs with Oulu University (Finland) and Paul Sabatier University (France), NAIST added programs with National Chiao Tung University (Taiwan), Unitec (New Zealand), and University of Malaya (Malaysia). The programs will further educational opportunities for both inbound and outbound students.



〈Opening of Indonesia Office〉



〈Symposium Program〉



〈Symposium Organizing Committee with Keynote Speakers〉



〈Faculty Development Program〉

## Education reform (continued)

### ○ Faculty Development

The Overseas Faculty Development Program was held at the University of California, Davis. Seminars in university teaching and learning, followed by laboratory visits, are learning opportunities for NAIST faculty members to prepare for top-level graduate education in science and technology.



〈NAIST Introduction at Partner Universities〉

### ■ University's own indicators and targets

#### ○ English Proficiency of Students and Staff Members

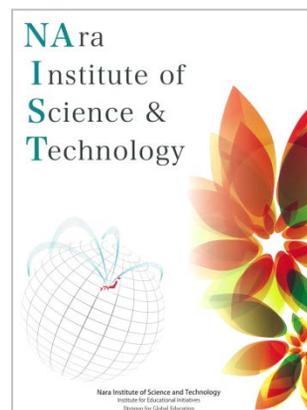
As English communication skills are essential for realizing a global campus, TOEIC scores are used to assess and monitor the learning progress of students and staff member. In addition, emphasis was put on practical skills for academic studies and future research and employment. Master's students are expected to develop abilities necessary for comprehension of research articles, lectures, and seminars delivered in English. Doctoral students must be capable to disseminate their research findings globally using English, including debate and deliberation skills. Staff who support international activities, including academic and research programs, are required to pursue English proficiency to improve their overall performance.



〈Guidebooks in English〉

#### ○ English Use in Educational Programs

As part of globalizing efforts in graduate education, syllabi for courses offered in all three graduate programs became available in English. To prepare for a transition to a unified graduate program in the next few years, as well as an addition of international program for advanced science and technology (5-year doctoral program) to the curricula, English will become a primary medium of communication and instruction.



〈Flyer of Division for Global Education〉

### ■ Featured initiatives based on university characteristics

#### ○ Public Relations Efforts

Each year, NAIST delegations actively visit international partner education and research institutions, governmental offices, "Study in Japan" fairs, and others. English materials including guidebooks are critical in introducing our educational and international activities. Division for Global Education is now furnished with a flyer to explain NAIST's approach to the Top Global University Project. NAIST widely distributes these materials to improve its presence in the international educational and research community.

#### ○ Comprehensive Life and Academic Support

With growing numbers of international students, faculty/staff, and scholars on campus, NAIST is focusing on being able to provide comprehensive support, ranging from pre-departure preparation to academic and personal life assistance. Services will extend to accompanying spouses and families.

#### ○ Career Support

UEAs in charge of career development were appointed to support international students seeking career in Japan and/or Japanese companies abroad through career guidance, information meetings, and fairs on campus. Also, a newly launched Indonesia Office will become a hub for students and alumni in Indonesia and surrounding areas to broaden the support network.

#### ○ Social Integration

Social integration is key for successful learning and living. Japanese language and culture courses are required for all international students to support their integration in Japan. NAIST organizes numerous cultural events to familiarize international students with various Japanese traditions, including day trips to historic Nara, sutra copying and lectures at Buddhist temples, flower arrangement (Kadō), Japanese confectionery (Wagashi) making, Ninja experience, and more.



〈NAIST Tea Time〉

### ■ Efforts to Realize Global Campus

NAIST believes in the importance of a truly multicultural community. Our signature global campus event, "NAIST Tea Time", aims at strengthening our on-campus community and fostering mutual understanding and cultural familiarity among NAIST's diverse population. Also, NAIST offers a bilingual menu at the cafeteria and Halal options in the convenience store to accommodate diverse needs of the international population.

## 4. FY2016 Progress

### ■ Common Indicators and Targets

#### Internationalization

##### ○ NAIST Indonesia Office

In cooperation with the Indonesian NAIST Alumni Association, the NAIST Indonesia Office was opened in Bogor in April, and an inaugural symposium was held in August to commemorate the opening in the presence of representatives from various Indonesian universities, Indonesian governmental offices, and Japanese companies in Indonesia.

##### ○ UGM-NAIST Collaboration Office

The UGM-NAIST Collaboration Office was opened in the Center for Biotechnology Studies at Gadjah Mada University (UGM) in June to serve as a catalyst for enhancing academic and research collaborations with NAIST alumni at UGM and other universities in Indonesia.

##### ○ NAIST Thailand Office

The NAIST Thailand Office was established within Kasetsart University's Faculty of Engineering in March as a central point in Asia for global collaboration in higher education and research, such as recruiting international students, enhancing cooperation with partner universities, and strengthening NAIST alumni networks.

#### University Reform

##### ○ The Center for Strategy and Planning

The Center for Strategy and Planning led by the President analyzed current academic exchange progress and addressed the advancement of collaborations with international partners.

##### ○ Transition to One Graduate School

Newly appointed UEAs for curriculum development prepared for the one graduate school in response to societal demands and students' needs for a multidisciplinary integrated program.

##### ○ The Center for International Students and Scholars (CISS)

CISS, established in April, served as a one-stop service hub for international students and scholars to facilitate their social and cultural integration. Such services included academic and daily activity support, such as assisting in visits to local government offices, bank and medical facilities.

#### Education Reform

##### ○ Faculty Development (FD) Program

Highly specialized curriculum of the International Faculty Development Program at the University of California, Davis (USA), introduced various practical pedagogical methods and strategies to participating faculty members, who then shared what they gained through participating in the institute executive meeting and departmental FD seminars.

##### ○ Staff Development (SD) Programs

English conversation classes helped improve speaking ability of the staff members. Additionally, the International Staff Development Program was expanded to an upper level based on job shadowing at Macquarie University (Australia) and an intermediate level with a focus on on-site interviewing at the University of California, Davis (USA), and Hawaii Tokai International College (USA), to further promote understanding of administrative operations globally.

##### ○ Double-Degree Programs

Through the double-degree programs, two NAIST students were sent to University Paul Sabatier (France) while two students from Unitec Institute of Technology (New Zealand) and one student from Oulu University (Finland) were enrolled in NAIST. In addition, NAIST concluded an academic agreement to encourage student exchange with the College of Engineering of National Chiao Tung University (Taiwan) to further enhance our relationship including the current double-degree program.



〈 Indonesia Office Inaugural Symposium 〉



〈 UGM-NAIST Collaboration Office Opening 〉



〈 Opening Ceremony of Thailand Office 〉



〈 International FD Program 〉



〈 International SD Program 〉

## ■ University's Own Indicators and Targets

### ○ English Proficiency of Students and Staff Members

Students of all graduate schools took the TOEIC test, and the scores were used as an indicator of English proficiency. TOEIC scores of the staff members drastically improved in FY2016 as they were expected to support the continued internationalization of educational and research programs.

### ○ Regulations and Syllabus in English

Translation of regulations and documents to facilitate the experience of NAIST's international community members was completed. Also, syllabi for courses offered in all graduate schools became available in English, which led to globally-focused curriculum development within the one graduate school.

## ■ Featured Initiatives based on University Characteristics

### ○ International Alumni Network

Alumni in Indonesia volunteered to represent NAIST at the *Career & Scholarship Expo 2016* at Bogor Agricultural University (Indonesia), actively introducing our academic programs. An on-site staff member, a NAIST Indonesian graduate, is currently stationed in the NAIST Indonesia Office to support collaborative operations and to handle public relations in both English and Indonesian.

### ○ International Public Relations

The design and content of NAIST's websites, both in Japanese and English, were renewed. The websites became mobile friendly and easier for users to obtain up-to-date information. In addition, the NAIST's Top Global University Project website was renovated. Moreover, promotional materials in English were widely distributed around the globe, including to our partner universities, at "Study in Japan" fairs, and to overseas offices in Indonesia and Thailand, to actively introduce NAIST's educational and research activities.

### ○ Collaborations with Academic and Research Institutions

To further graduate education based on world-leading research, NAIST concluded new academic agreements with top research institutions (e.g., Nanyang Technological University in Singapore, Indian Institute of Technology Bombay in India). Academic collaborations deepened with partner universities through international student workshops, joint symposia, student exchanges, etc.

### ○ Japanese Language and Cultural Classes

Japanese language and cultural courses for international students were offered to enhance communication skills and to promote understanding of Japanese traditions and customs. A self-study e-learning system was introduced in the classroom to facilitate the learning process.

### ○ Career Support for International Students

A newly appointed UEA in charge of career support for international students offered career support services in English. Also, easy access to career resources in English through the newly launched website facilitated student inquiries concerning their career paths. Moreover, the employment rate for international students improved as the UEA established networks with Japanese companies.

## ■ Efforts to Realize Global Campus

### ○ Global Campus Events

Our signature global campus event, "NAIST Tea Time", is intended to increase cultural understanding within the diverse campus population by offering presentations from diverse speakers in an at-home atmosphere with various cultures' drinks and foods. In FY2016, the events were opened to the public to strengthen relationships with local community members as well as to broaden their awareness on NAIST's cultural diversity.



〈 Participation in "Study in Japan" Fairs 〉



〈 NAIST Introduction at Partner Universities 〉



〈 Indonesian Alumni Introducing NAIST 〉



〈 Career Support Website in English 〉



〈 Global Campus Events 〉

# 5. FY2017 Progress

## Common indicators and targets

### Internationalization

#### ○ NAIST Indonesia Office

To place permanent staff member at the NAIST Indonesia Office, NAIST contracted the Indonesian NAIST Alumni Association to place a NAIST Alumni at the office, allowing for PR activities to be performed locally at recruiting fairs, etc. in Indonesian.

#### ○ NAIST Thailand Office

NAIST joined the Japanese Universities' Network in Thailand (JUNThai) to expand our network with education and research institutions, while holding a NAIST Thailand Office inaugural symposium in September as part of the TGU Project to improve our education and research presence. Also, through collaboration with Thai Alumni NAIST concluded an academic agreement with another top-level Thai university. (Chiang Mai University)

#### ○ Diverse Faculty and International Students

NAIST diverse faculty has been achieved through international recruitment, domestic recruitment stressing education and research experience abroad and the continuing long-term faculty dispatchment program. Also, NAIST participates in study abroad fairs and actively recruits students at partner institutions, so that our international population is, while centered around Southeast Asia, geographically diverse. We currently have students from 33 countries and regions around the globe.

### University Reform

#### ○ Faculty Development (FD) Program

The FD program was held abroad with participants observing classes and meeting with professors and TAs to learn about PBL, active learning, and roles of TAs, to further promote student-focused education. An on-campus debriefing meeting and graduate school training sessions were held to spread the knowledge they gained throughout NAIST to improve teaching methodology.

#### ○ Staff Development (SD) Activities

Through English training and overseas SD training the number of full-time staff (37 as of March 2018) that passed the foreign language requirement (TOEIC 750+ points) met the goals previously set, and NAIST was able to have a qualified English-speaking staff member at each administrative division/office. This was highly assessed in the 2017 TGU Project evaluations. Also, through the continuously held English training that is redesigned each year, the average staff TOEIC score has risen.

### Educational Reform

#### ○ Transition to a Single Graduate School

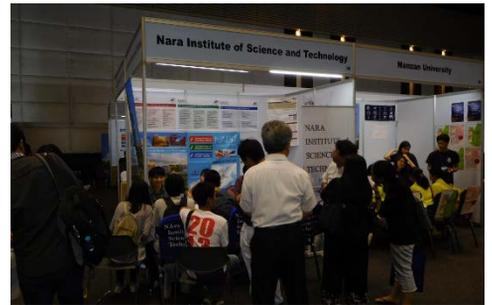
To establish a structure for the flexible and expedient organization of interdisciplinary educational curriculum of the 3 current fields and with the current graduate school curriculum, NAIST resolved to create a 1 graduate school, 1 department structure in 2018. In it, 7 education programs foster globally active human resources with broad and highly specialized knowledge of advanced science and technology, with internationally focused faculty gathering from different fields to educate to develop the specialized skills and knowledge and the broad understanding demanded by society and for interdisciplinary research collaboration and education.



〈 NAIST Indonesian Staff PR Activities 〉



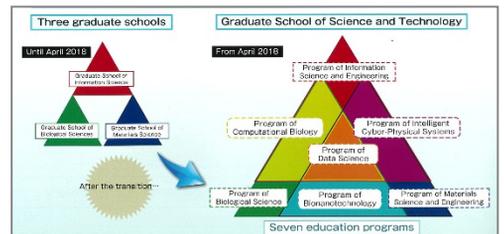
〈 NAIST Thailand Office Inaugural Symposium 〉



〈 NAIST Booth at Japan Education Fair 〉



〈 NAIST Overseas SD Debriefing Session 〉



〈 Transition to a Single Graduate School 〉

■ University's Own Indicators and Targets

○ Improved International Student and Scholar Support

The Center for International Students and Scholars (CISS) was re-organized and campus announcements led to an increase in cases handled (762 in total). Also, the Partner Opportunities Program (POP) planned in the TGU Project to promote recruiting of international faculty and the NAIST International Student Ambassador Program were set up, allowing for expanded support for international students and researchers, including increased dissemination of related information in English and Japanese.



〈Center for International Students and Scholars (CISS)〉

○ A Global Campus Connecting with the community

NAIST Tea Time was held twice as Global Campus Events where NAIST faculty, staff and students, and members of the community gathered together to learn about other cultures and build ties. Also, the International Friendship Meeting was held in January, with a record attendance of 321 from within NAIST and other organizations, both private and municipal, that offer support for our international students, to promote understanding and further expand NAIST's international community.



〈 NAIST Global Campus Event 〉

■ Featured Initiatives based on University Characteristics

○ Furthering Double Degree Program Measures

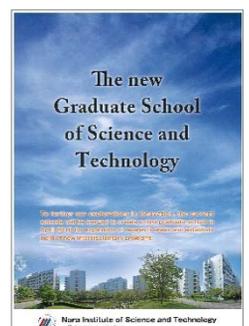
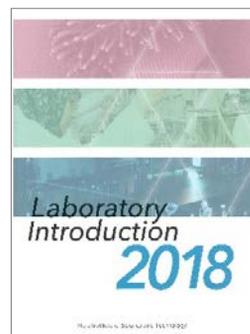
In February 2018 NAIST's Double Degree Guidelines were formulated to assure high educational standards, while in the same school year the first double degree program graduates received their doctoral degrees. Especially, the 2 students NAIST sent to Paul Sabatier University who completed the double degree program under international collaborative supervision were both chosen for the Outstanding Student award. Additionally, to further develop the double degree program, NAIST signed a Double Degree Program Agreement with the University of Ulm (Germany) in July, 2017, while also being able to sign an agreement with University of Paris-Saclay during a courtesy visit to their campus in March 2018.



〈 NAIST 2018 Graduation Ceremony (March) 〉

○ Publicizing the Creation of the New Graduate School

Necessary revisions to the NAIST Laboratory Introduction 2018 and the 2018 NAIST Guidebook were made reflecting the new single graduate school structure. In December an English leaflet based on the Japanese one explaining the single graduate school transition was produced and distributed to overseas institutions and offices to introduce the new education system to international students. Also, access to information for international students, current and prospective, was made easier through a special site explaining the graduate school transition and preparations for renewal of the English website in April in accordance with the new graduate school were undertaken.



〈 English Lab Introduction 〉 〈 Graduate School Leaflet 〉

○ International Student Career Planning Support

With Japanese corporations requiring advanced Japanese skills, an N1, N2 Japanese Proficiency Exam preparation course was held for those students wishing to work in Japan. A job fair was held on campus to assist international students in meeting with suitable Japanese corporations. Various career planning support was offered including business start-up seminars for those students who are interested in starting their own venture business.



〈 New Graduate School Special Website 〉

## ■ Common Indicators and Targets

### Internationalization

#### ○ NAIST Overseas Office Activities

NAIST established NAIST Indonesia and Thailand Offices to serve as hubs for education and research collaboration in Asia and these offices support activities held in collaboration with alumni, etc. At the Indonesia Office, resident staff held a booth at the Bogor Agricultural University Career & Scholarship Expo to recruit students. At the Thailand Office, a student symposium was held centered on the office's activities to promote academic exchange between NAIST, Chulalongkorn University, Mahidol University and Kasetsart University, and to recruit talented students. Additionally, evaluations of Indonesia Office and NAIST-Universitas Gadjah Mada Collaborative Office activities were held and the executive administration confirmed its resulting decision to continue the offices' operations.



〈 Indonesia Office Inspection 〉

#### ○ Renewed Study Abroad Support System

Overseas language training and lab stay programs were held for doctoral students for global human resource development. The graduate school, English language instructors and a UEA of Division of Global Education (DGE) collaborated this year to offer an orientation focused on travel safety/risk management to increase awareness while overseas.



〈 Thai Student Symposium 〉

### University reform

#### ○ Implementation of the New UEA Personnel System

The new UEA personnel system (contract-to-permanent specialized staff employment) created in 2017 was implemented in April, 2018, and 2 UEA (Global Relations and International Student and Scholar Support UEA) were employed in DGE in July, 2018 and February, 2019, allowing establishment of a system for long-term global development and international community support.

#### ○ Improved Staff Language and Globalization-focused Training

The Overseas Staff Development Program was held with staff participating in English language classes and interviewing staff at University of California Davis (UC Davis). A debriefing session was held and program reports are on the NAIST website to make participants' experiences open to all staff to contribute to globalization around the campus and staff development.



〈 Overseas SD Program 〉

### Education reform

#### ○ Faculty Development Program

The Overseas Faculty Development Program was held at UC Davis with faculty observing science/technology classes and meeting with faculty/teaching assistants to learn more about practical methodology of pedagogy and student motivation, and faculty gained insight into class development. In the debriefing session participants shared their valuable experiences to ensure feedback throughout NAIST. A DGE UEA accompanied them to examine and evaluate contents for future program planning.

#### ○ Curriculum & Education Support System Enhancement

In response to the transformation to a single graduate school, the Division for Educational Development expanded framework to develop educational support systems for the new Educational Programs, implement student evaluations, and develop subject contents and materials.



〈 Overseas FD Program 〉

## ■ University's own indicators and targets

### ○ Career Support for Students

For career path support, current contents were reviewed to improve and expand job hunting information, activity scheduling, and guest speakers. In particular, efforts to establish domestic/overseas internships to develop internships for Japanese students have resulted in NAIST's first internship at a company in the US, to be carried out next year. Career development support for international students consisted of career counseling in English, job hunting information, networking events (with companies looking for foreign human resources), and focused Japanese language classes for employment in Japanese companies.



〈 Networking Event 〉

### ○ Improved International Student and Scholar Support

The Center for International Students and Scholars, which was established in 2016, improved support to enhance academic and campus environments for both international students and scholars. New activities developed include the Credit Card Explanation Meeting, held in cooperation with the International Student Affairs Section, to assist students in living conveniently in Japan, and the establishment of the NAIST International Ambassador Program, a peer counseling program offering support for international students. (Ten Ambassadors were appointed and underwent training.)



〈 NAIST International Ambassador Program Appointment Ceremony 〉



〈 NAIST International Ambassador Program Training 〉

## ■ Featured initiatives based on university characteristics

### ○ Language Education Enhancement for Students

The Professional Communication Special Enhancement Program (for English communication) was established as a new student English program to improve participating students' English skills through a system that aims for 650 points or more in TOEIC. In addition to standard Japanese and other classes, Japanese classes offered by local volunteers contribute to overall understanding of Japanese which is essential for job hunting and life in Japan. These classes are offered twice a week and 80% of international students who enrolled in 2018 participated, contributing greatly to international students' communication skills and, in turn, students who have close ties with Japan and Japanese people.

### ○ NAIST Information & Procedural Clarification

NAIST education, research and international activity information was widely disseminated through the creation/distribution of NAIST Guidebook and Laboratory Introduction to partner and diplomatic institutions and on the HP. The DGE website was also renewed to make information concerning NAIST's international efforts more accessible, including study abroad opportunities, double degree programs, etc. Additionally, procedures for student exchange, etc. were clarified to assist in engagement with our partner institutions.



〈 Renewed DGE Website 〉

### ○ International Partner Agreements & Student Recruiting Activity

Globalization of NAIST's campus was furthered by partner agreement efforts (105 agreements in 29 countries/regions, as of April 2019) and the large increase in international students. (161 students in April 2014 → 267 in April 2019) In addition to Japan Study Abroad Fairs, recruiting efforts at partner institutions has led to the successful admission of talented international students.

### ○ Further Formalization of Double Degree (DD) Programs

Two new DD programs were established with University of Paris-Saclay and Sorbonne University, expanding our overall partner programs. After executive review of current program results, exchange activity, etc., the Universite Paul Sabatier program was renewed and the University of Oulu program was ended. This review assures proper growth for the DD program structure and content.



〈 Recruiting Activities at Study Abroad Fair 〉